

# 公立沖縄北部医療センター新築工事（建築） 構造図面リスト（付属棟）

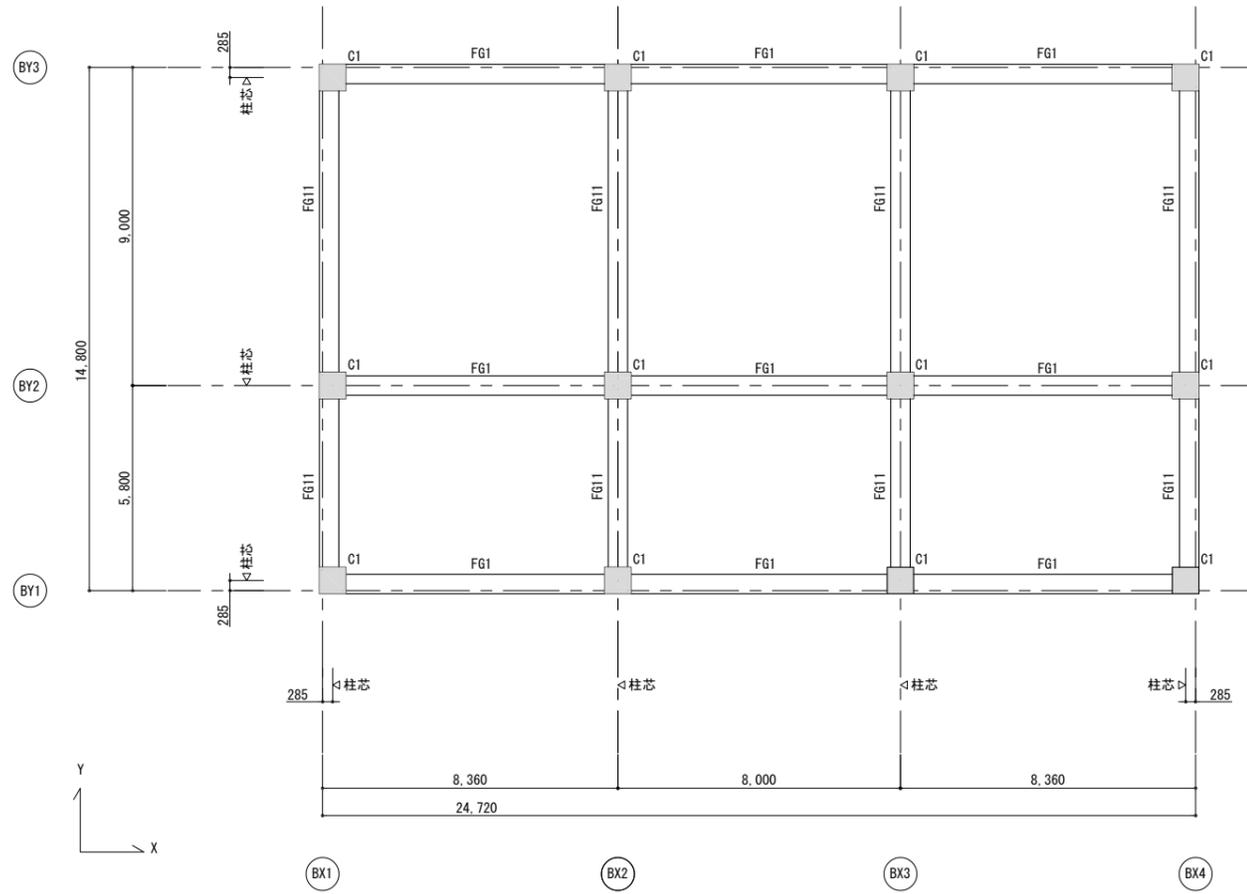
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
	(構造図)						
S-200	図面リスト(付属棟)	S-315	1階柱梁・1階梁床伏図、R階梁床伏図(車寄せ庇2-2)	S-511	軸組図(車寄せ庇3-2)	S-713	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(ろ過機械室)
S-201	構造特記仕様書(1)(車寄せ庇1-1)	S-316	軸組図(車寄せ庇2-2)	S-512	部材リスト(車寄せ庇3-2)	S-714	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)(ろ過機械室)
S-202	構造特記仕様書(2)(車寄せ庇1-1)	S-317	部材リスト(車寄せ庇2-2)	S-513	配筋詳細図(車寄せ庇3-2)	S-715	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)(ろ過機械室)
S-203	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(車寄せ庇1-1)			S-514	架構配筋詳細図(車寄せ庇3-2)	S-716	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)(ろ過機械室)
S-204	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)(車寄せ庇1-1)					S-717	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(5)(ろ過機械室)
S-205	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)(車寄せ庇1-1)	S-401	構造特記仕様書(1)(車寄せ庇3-1)			S-718	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(6)(ろ過機械室)
S-206	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)(車寄せ庇1-1)	S-402	構造特記仕様書(2)(車寄せ庇3-1)	S-601	構造特記仕様書(1)(検診車庫)	S-719	ボーリング柱状図(ろ過機械室)
S-207	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(5)(車寄せ庇1-1)	S-403	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(車寄せ庇3-1)	S-602	構造特記仕様書(2)(検診車庫)	S-720	1階柱梁・1階梁床伏図、R階梁床伏図(ろ過機械室)
S-208	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(6)(車寄せ庇1-1)	S-404	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)(車寄せ庇3-1)	S-603	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(検診車庫)	S-721	軸組図(ろ過機械室)
S-209	ボーリング柱状図(車寄せ庇1-1)	S-405	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)(車寄せ庇3-1)	S-604	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)(検診車庫)	S-722	部材リスト(ろ過機械室)
S-210	1階柱梁・1階梁床伏図、R階梁床伏図(車寄せ庇1-1)	S-406	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)(車寄せ庇3-1)	S-605	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)(検診車庫)	S-723	配筋詳細図(ろ過機械室)
S-211	軸組図(車寄せ庇1-1)	S-407	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(5)(車寄せ庇3-1)	S-606	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)(検診車庫)		
S-212	部材リスト(車寄せ庇1-1)	S-408	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(6)(車寄せ庇3-1)	S-607	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(5)(検診車庫)		
S-213	配筋詳細図(車寄せ庇1-1)	S-409	ボーリング柱状図(車寄せ庇3-1)	S-608	鉄骨構造標準図(1)(検診車庫)	S-731	伏図・軸組図(医ガス機械室)
S-214	架構配筋詳細図(車寄せ庇1-1)	S-410	1階柱梁・1階梁床伏図、R階梁床伏図(車寄せ庇3-1)	S-609	鉄骨構造標準図(2)(検診車庫)	S-732	部材リスト(医ガス機械室)
		S-411	軸組図(車寄せ庇3-1)	S-610	鉄骨構造標準図(3)(検診車庫)		
		S-412	部材リスト(車寄せ庇3-1)	S-611	鉄骨構造標準図(4)(検診車庫)		
S-301	構造特記仕様書(1)(車寄せ庇2-1)	S-413	配筋詳細図(車寄せ庇3-1)	S-612	鉄骨構造標準図(5)(検診車庫)	S-741	構造特記仕様書(1)(浄化槽機械室)
S-302	構造特記仕様書(2)(車寄せ庇2-1)	S-414	架構配筋詳細図(車寄せ庇3-1)	S-613	ボーリング柱状図(検診車庫)	S-742	構造特記仕様書(2)(浄化槽機械室)
S-303	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(車寄せ庇2-1)			S-614	1階柱梁・1階梁床伏図、R階梁床伏図(検診車庫)	S-743	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(浄化槽機械室)
S-304	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)(車寄せ庇2-1)			S-615	軸組図(検診車庫)	S-744	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)(浄化槽機械室)
S-305	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)(車寄せ庇2-1)	S-501	構造特記仕様書(1)(車寄せ庇3-2)	S-616	部材リスト(検診車庫)	S-745	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)(浄化槽機械室)
S-306	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)(車寄せ庇2-1)	S-502	構造特記仕様書(2)(車寄せ庇3-2)	S-617	鉄骨架構詳細図(検診車庫)	S-746	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)(浄化槽機械室)
S-307	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(5)(車寄せ庇2-1)	S-503	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(車寄せ庇3-2)			S-747	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(5)(浄化槽機械室)
S-308	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(6)(車寄せ庇2-1)	S-504	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)(車寄せ庇3-2)			S-748	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(6)(浄化槽機械室)
S-309	ボーリング柱状図(車寄せ庇2-1)	S-505	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)(車寄せ庇3-2)	S-701	伏図・軸組図(オイルポンプ室)	S-749	ボーリング柱状図(浄化槽機械室)
S-310	1階柱梁・1階梁床伏図、R階梁床伏図(車寄せ庇2-1)	S-506	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)(車寄せ庇3-2)	S-702	部材リスト(オイルポンプ室)	S-750	1階柱梁・1階梁床伏図、R階梁床伏図、軸組図(浄化槽機械室)
S-311	軸組図(車寄せ庇2-1)	S-507	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(5)(車寄せ庇3-2)			S-751	部材リスト(浄化槽機械室)
S-312	部材リスト(車寄せ庇2-1)	S-508	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(6)(車寄せ庇3-2)			S-752	配筋詳細図(浄化槽機械室)
S-313	配筋詳細図(車寄せ庇2-1)	S-509	ボーリング柱状図(車寄せ庇3-2)	S-711	構造特記仕様書(1)(ろ過機械室)		
S-314	架構配筋詳細図(車寄せ庇2-1)	S-510	1階柱梁・1階梁床伏図、R階梁床伏図(車寄せ庇3-2)	S-712	構造特記仕様書(2)(ろ過機械室)		

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事(建築工事)			図面名称	構造図面リスト(付属棟)		
	工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	[A1] - [A3] -	図面番号
発注機関	沖縄県北部医療組合			JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号
摘要				所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	製図		一級建築士	山田 剛	登録番号
				一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
				一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1056号

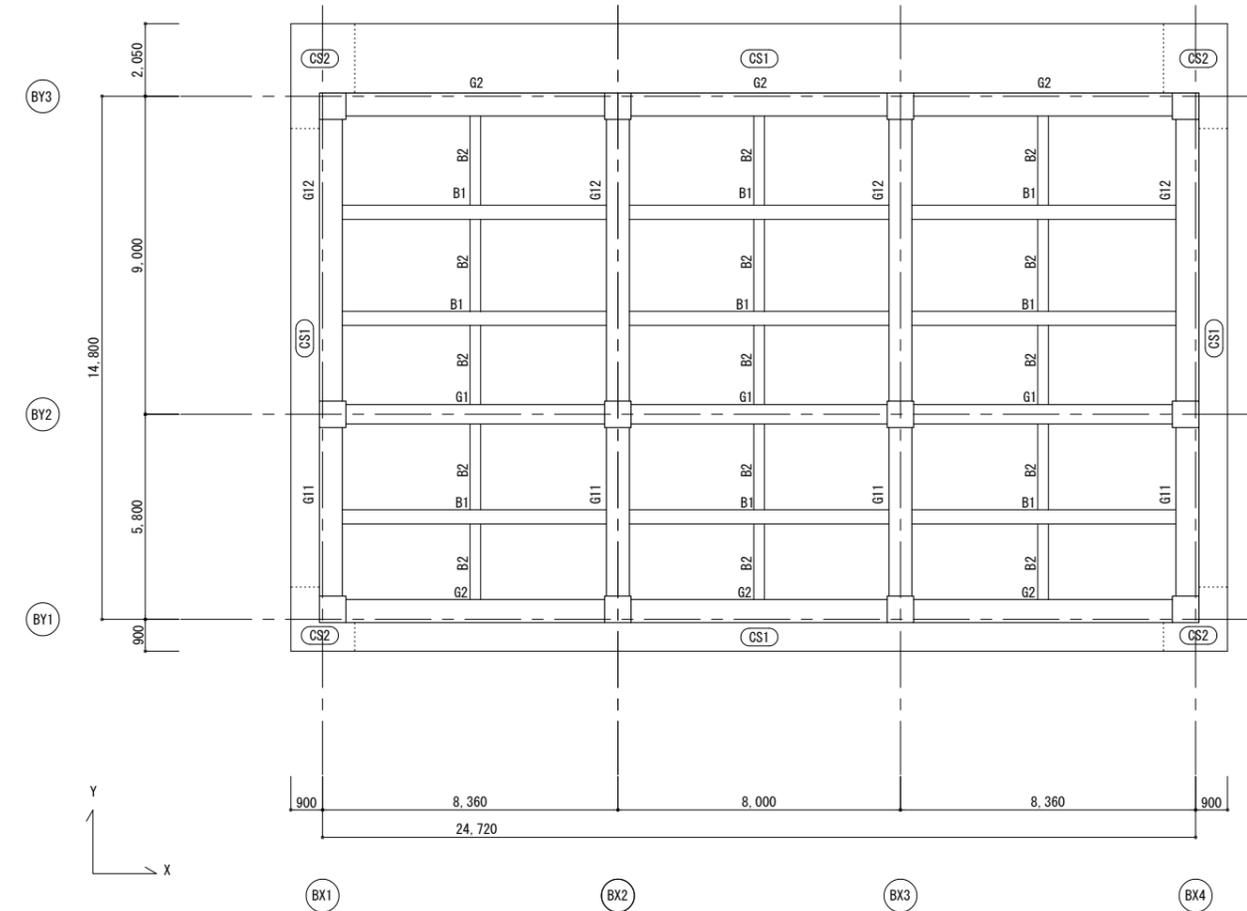
建築物の構造概要		4章 地業工事		5章 鉄筋工事		6章 コンクリート工事		7章 鉄骨構造		8章 鋼骨鉄筋コンクリート構造		9章 鋼筋コンクリート構造		10章 鉄骨鉄筋コンクリート構造		11章 鉄骨構造		12章 鋼骨鉄筋コンクリート構造		13章 鉄骨鉄筋コンクリート構造																																																																																																																																																																							
<b>建築物の構造概要</b> (1) 工事名称 <u>公立沖縄北部医療センター新築工事 (車寄せ庇1-1)</u> 建築場所 <u>沖縄県名護市大北1丁目15-9他</u> (2) 設計年月 <u>令和7年3月</u> (3) 工事種別 <input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 増改築 <input type="checkbox"/> 改築 (4) 構造種別 <u>鉄筋コンクリート造 (RC造)</u> (5) 構造形式 <u>ラーメン構造</u> (6) 基礎形式 <u>直接基礎 (べた基礎)</u> (7) 階数 地上 <u>1</u> 階 地下 <u> </u> 階 塔屋 <u> </u> 階 (8) 主要用途 <u>病院</u> (9) 構造計算ルート <input type="checkbox"/> ルート1 ( <input type="checkbox"/> ルート1-1 <input type="checkbox"/> ルート1-2 ) <input type="checkbox"/> 限界耐力計算又は同等以上の構造計算 <input type="checkbox"/> ルート2 ( <input type="checkbox"/> ルート2-1 <input type="checkbox"/> ルート2-2 ) <input type="checkbox"/> 時刻歴応答解析 <input checked="" type="checkbox"/> ルート3 <input type="checkbox"/> その他 (10) 重要度係数等の考慮の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 1.5 (I類) <input type="checkbox"/> 1.25 (II類) <input type="checkbox"/> 1.0 (III類) ) ( <input type="checkbox"/> その他: )		<b>2節 試験及び報告書</b> ・ 4.2.2 試験杭 (1) 試験杭の位置及び本数 ※ 最初の1本 ・ 設計図による 試験杭の杭長は本杭と同じとする。 ・ 4.2.3 杭の載荷試験 (1) 鉛直載荷試験 ※ 行わない ・ 行う (次による) 水平載荷試験 ※ 行わない ・ 行う (次による) 鉛直載荷試験: 杭径 ( φ ) 個所数 ( カ所 ) 最大載荷荷重 ( kN ) 水平載荷試験: 杭径 ( φ ) 個所数 ( カ所 ) 最大載荷荷重 ( kN ) (2)(3) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。 ・ 4.2.4 地盤の載荷試験 (1) 平板載荷試験 ※ 行わない ○ 行う (次による) (2) 個所数 ( 各棟1 カ所 ) 試験深さ ( 2FL- 0.7 m ) 対象地盤 (粘土混じりシルト層) 最大載荷荷重 ( 150 kN/m <sup>2</sup> ) (4) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。		<b>2節 材料</b> ○ 5.2.1 鉄筋 異形鉄筋SDはD38以下、丸鋼SR235及びSR295は13mm以下に適用する。 鉄筋の種類 <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格名称</th> <th>種類の記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用棒鋼) JIS G 3112</td> <td>○SD295</td> <td>設計図による</td> <td>D10~D16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SD345</td> <td>設計図による</td> <td>D19~D25</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品) JIS G 3112</td> <td>・SD390</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD490</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)</td> <td>・SD295A</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD295B</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高強度せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)</td> <td>・KSS785</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。 ○ 5.2.2 溶接金網 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径・寸法・形状</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">溶接金網</td> <td rowspan="3">WFP</td> <td>鉄骨階段踏面</td> <td rowspan="3">φ6-100×100</td> <td rowspan="3">JIS規格品</td> </tr> <tr> <td>防水層保護コンクリート</td> </tr> <tr> <td>配管埋設用コンクリート</td> </tr> <tr> <td>スラブ内埋設管の集密部分</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋格子</td> <td>SD295</td> <td>壁・スラブ開口補強</td> <td>D10、D13</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)	備考	異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用棒鋼) JIS G 3112	○SD295	設計図による	D10~D16		○SD345	設計図による	D19~D25		溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品) JIS G 3112	・SD390	設計図による			・SD490	設計図による			溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295A				・SD295B				高強度せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・KSS785	設計図による			・				種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考	溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面	φ6-100×100	JIS規格品	防水層保護コンクリート	配管埋設用コンクリート	スラブ内埋設管の集密部分				鉄筋格子	SD295	壁・スラブ開口補強	D10、D13		<b>5節 機械式継手</b> ・ 5.5.1 一般事項 特殊な機械式継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。 告示1463号に示す (※ A級 ) 工法: ( ) <b>6節 溶接継手</b> ・ 5.6.1 一般事項 特殊な溶接継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。 告示1463号に示す (※ A級 ) 工法: ( )		<b>2節 コンクリートの種類及び品質</b> ○ 6.2.1 コンクリートの種類 <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>コンクリート種別</th> <th>設計基準強度 F<sub>c</sub> (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>所要スラブ厚 (cm)</th> <th>単位水量の上限值 (kg/m<sup>3</sup>)</th> <th>構造体強度の補正の有無</th> <th>使用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F<sub>c</sub> 27</td> <td>15</td> <td>185</td> <td>有</td> <td>基礎・基礎梁・1階床</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F<sub>c</sub> 27</td> <td>18</td> <td>185</td> <td>有</td> <td>1階柱壁・R階梁床</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F<sub>c</sub> 21</td> <td>15</td> <td>185</td> <td>無</td> <td>土間コン・押えコン</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> (1) レディーミクストコンクリートの種別 ※ I類 (JIS Q 1001 及び JIS Q 1011 に基づき、JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・ II類 (I類以外のJIS A 5308に適合したコンクリート) (3) 建築基準法第37条第二号に規定する国土交通大臣の認定を受けたコンクリートの使用 ※ 無 ・ 有 特殊な要求性能 適用範囲 措置 ○ 6.2.3 気乾単位容積質量 ※ 2.3 t/m <sup>3</sup> ・ ( ) t/m <sup>3</sup> ○ 6.2.5 構造体コンクリートの仕上り (2) 合板せき板を用いるコンクリートの打直し仕上りの種別 ※ 建築特記による。		番号	コンクリート種別	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	所要スラブ厚 (cm)	単位水量の上限值 (kg/m <sup>3</sup> )	構造体強度の補正の有無	使用箇所	1	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 27	15	185	有	基礎・基礎梁・1階床	2	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 27	18	185	有	1階柱壁・R階梁床	3	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 21	15	185	無	土間コン・押えコン	4							5							6							7							8							9							10							<b>4節 ガス圧接</b> ○ 5.4.10 付加 検査及び試験の要領は (公社) 日本鉄筋手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。 (4) 抜取試験の方法 ※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験 引張試験の試験機関は原則として公的試験所とする。 超音波探傷試験の試験従事者は当該工事のガス圧接作業に従事しない者とし、技量及び経験の証明となる資料により監理者の承諾をうける。超音波試験の検査ロットは引張試験と同様とする。試験方法・判定基準は、JIS Z 3062によるものとし、試験の要領は (公社) 日本鉄筋手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。		<b>4節 鋼杭地業</b> ・ 4.4.1 一般事項 工法 ・ 特定埋込杭工法 ( 工法 ) ・ 4.4.3 材料 (1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※ 設計図による ・ 4.4.5 継手 (1) 杭の継手 ・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手 ・ 溶接継手 ・ 4.4.6 杭頭の処理等 4.3.8 による <b>5節 場所打ちコンクリート杭地業</b> ・ 4.5.1 一般事項 (2) 工法 ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 ・ その他 ( ) ・ 4.5.4 材料その他 (1) 鉄筋 5章による ※ 高炉セメント ・ その他 ( ) (2) コンクリート 設計基準強度 N/mm <sup>2</sup> ・ A種 ※ B種 コンクリートの強度補正 設計基準強度を満足させるよう定める 杭径・杭長・長期許容支持力 ※ 設計図による 鋼管の使用 ※ なし ・ あり ・ 4.5.5 アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法 (3) 超音波測定器による孔壁測定 ・ 行う ・ 行わない		<b>3節 加工及び組立</b> ○ 5.3.4 継手及び定着 (1) 継手の工法 (設計図による) 部位など 継手工法と適用径の範囲 <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>継手工法</th> <th>適用径の範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">柱主筋</td> <td>※ 重ね継手 ( )</td> <td>○ ガス圧接 ( D19~D25 )</td> </tr> <tr> <td>・ 溶接継手 ( )</td> <td>・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">梁主筋</td> <td>※ 重ね継手 ( )</td> <td>○ ガス圧接 ( D19~D25 )</td> </tr> <tr> <td>・ 溶接継手 ( )</td> <td>・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">スラブ、壁筋</td> <td>※ 重ね継手 ( D10~D16 )</td> <td>・ ガス圧接 ( )</td> </tr> <tr> <td>・ 溶接継手 ( )</td> <td>・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">杭主筋</td> <td>※ 重ね継手 ( )</td> <td>※ ガス圧接 ( )</td> </tr> <tr> <td>・ 溶接継手 ( )</td> <td>・ 機械式継手 ( )</td> </tr> </tbody> </table> 定着板の有無 ※ 無 ○ 有 (設計図による) 使用箇所については、最上階柱頭部柱主筋とする。 ○ 5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (1) コンクリートのかぶり厚さ ※ 最小かぶり厚さに10mm加える 耐久性上不利な箇所のかぶり厚は次による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外気に接する打直し面</td> <td>※ 10</td> </tr> </tbody> </table> かぶり厚さは目地底から算定する 設計図にて寸法指定箇所を除き、設計図に示す鉄筋本数を等間隔に割り付ける。 付加 特殊な鉄筋継手のあき ※ 設計図による。		部位	継手工法	適用径の範囲	柱主筋	※ 重ね継手 ( )	○ ガス圧接 ( D19~D25 )	・ 溶接継手 ( )	・ 機械式継手 ( )	梁主筋	※ 重ね継手 ( )	○ ガス圧接 ( D19~D25 )	・ 溶接継手 ( )	・ 機械式継手 ( )	スラブ、壁筋	※ 重ね継手 ( D10~D16 )	・ ガス圧接 ( )	・ 溶接継手 ( )	・ 機械式継手 ( )	杭主筋	※ 重ね継手 ( )	※ ガス圧接 ( )	・ 溶接継手 ( )	・ 機械式継手 ( )	施工箇所	最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)	外気に接する打直し面	※ 10	<b>6節 砂利、砂、捨コンクリート地業等</b> ○ 4.6.2 材料 (1) 砂利地業の材料 ※ 再生クラッシュラン ・ 切込み砂利及び切込み砕石 ○ 4.6.3 砂利及び砂地業 (1) ○ 直接基礎床板下 ※ 60mm ・ 100mm ・ 150mm ・ 基礎床板下 ※ 60mm ○ 基礎梁下 ※ 60mm ○ 土間スラブ下 <sup>注)</sup> ○ 60mm ・ 100mm ・ 150mm 注)「土間スラブ」は、土に接する構造スラブのことをいう。 ○ 土間コンクリート下 ・ 150mm ○ 100mm		<b>工事名称</b> 公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事) <b>工事場所</b> 沖縄県名護市大北1丁目15-9 <b>発注機関</b> 沖縄県北部医療組合 <b>工事年度</b> 令和7年度 <b>摘要</b> <b>検印</b>		<b>図面名称</b> 構造特記仕様書 (1) (車寄せ庇1-1) <b>縮尺</b> [A1] - [A3] - <b>図面番号</b> S - 201 <b>JV名称</b> 内藤・ARG・設備研究所設計共同体 <b>代表企業</b> 株式会社内藤建築事務所 登録番号 福岡県知事登録第1-12326号 <b>所在地</b> 福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16 <b>一級建築士</b> 山田 剛 登録番号 登録第310062号 <b>二級建築士</b> 末吉 謙太郎 登録番号 登録第335522号 第9280号 <b>三級建築士</b> 丸山 茂義 登録番号 登録第173320号 第1058号	
規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)	備考																																																																																																																																																																																							
異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用棒鋼) JIS G 3112	○SD295	設計図による	D10~D16																																																																																																																																																																																								
	○SD345	設計図による	D19~D25																																																																																																																																																																																								
溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品) JIS G 3112	・SD390	設計図による																																																																																																																																																																																									
	・SD490	設計図による																																																																																																																																																																																									
溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295A																																																																																																																																																																																										
	・SD295B																																																																																																																																																																																										
高強度せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・KSS785	設計図による																																																																																																																																																																																									
	・																																																																																																																																																																																										
種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考																																																																																																																																																																																							
溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面	φ6-100×100	JIS規格品																																																																																																																																																																																							
		防水層保護コンクリート																																																																																																																																																																																									
		配管埋設用コンクリート																																																																																																																																																																																									
スラブ内埋設管の集密部分																																																																																																																																																																																											
鉄筋格子	SD295	壁・スラブ開口補強	D10、D13																																																																																																																																																																																								
番号	コンクリート種別	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	所要スラブ厚 (cm)	単位水量の上限值 (kg/m <sup>3</sup> )	構造体強度の補正の有無	使用箇所																																																																																																																																																																																					
1	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 27	15	185	有	基礎・基礎梁・1階床																																																																																																																																																																																					
2	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 27	18	185	有	1階柱壁・R階梁床																																																																																																																																																																																					
3	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 21	15	185	無	土間コン・押えコン																																																																																																																																																																																					
4																																																																																																																																																																																											
5																																																																																																																																																																																											
6																																																																																																																																																																																											
7																																																																																																																																																																																											
8																																																																																																																																																																																											
9																																																																																																																																																																																											
10																																																																																																																																																																																											
部位	継手工法	適用径の範囲																																																																																																																																																																																									
柱主筋	※ 重ね継手 ( )	○ ガス圧接 ( D19~D25 )																																																																																																																																																																																									
	・ 溶接継手 ( )	・ 機械式継手 ( )																																																																																																																																																																																									
梁主筋	※ 重ね継手 ( )	○ ガス圧接 ( D19~D25 )																																																																																																																																																																																									
	・ 溶接継手 ( )	・ 機械式継手 ( )																																																																																																																																																																																									
スラブ、壁筋	※ 重ね継手 ( D10~D16 )	・ ガス圧接 ( )																																																																																																																																																																																									
	・ 溶接継手 ( )	・ 機械式継手 ( )																																																																																																																																																																																									
杭主筋	※ 重ね継手 ( )	※ ガス圧接 ( )																																																																																																																																																																																									
	・ 溶接継手 ( )	・ 機械式継手 ( )																																																																																																																																																																																									
施工箇所	最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)																																																																																																																																																																																										
外気に接する打直し面	※ 10																																																																																																																																																																																										

<p>3節 コンクリートの材料及び調合</p> <p>6.3.1 コンクリートの材料</p> <p>(1) セメントの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>使用箇所(コンクリート番号)</th> </tr> <tr> <td>※ 普通ポルトランドセメント</td> <td>1, 2, 3</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 骨材</p> <p>細骨材及び混合細骨材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フェロケケルslag細骨材 <input type="checkbox"/> 使用部位 ( )</li> <li>鋼slag細骨材 <input type="checkbox"/> 使用部位 ( )</li> <li>電気炉酸化slag細骨材 <input type="checkbox"/> 使用部位 ( )</li> </ul> <p>砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B</p> <p>砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B</p> <p>(4) 混和材料</p> <p>(a) 混和剤の種類及び適用(下記のものを使用可とする)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ A E剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 高性能減水剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 減水剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> A E減水剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 高性能A E減水剤</td> <td>単位水量の上限値を守れない場合</td> </tr> <tr> <td>・ 流動化剤</td> <td></td> </tr> </table> <p>促進型のは原則として使用しない。</p> <p>現場にて使用する流動化剤については、施工性及び品質を考慮の上、決定すること。</p> <p>(b) 混和剤の種類及び適用(下記のものを使用可とする)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ 高炉slag</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 防水材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 膨張剤</td> <td>合成スラブ</td> </tr> </table> <p>上記の混和材を用いる場合には、品質及び供給の安定性を確認すること。</p>		種類	使用箇所(コンクリート番号)	※ 普通ポルトランドセメント	1, 2, 3	・ 高炉セメントB種		種類	備考	・ A E剤		・ 高性能減水剤		・ 減水剤		<input checked="" type="checkbox"/> A E減水剤		<input checked="" type="checkbox"/> 高性能A E減水剤	単位水量の上限値を守れない場合	・ 流動化剤		種類	備考	・ 高炉slag		・ 防水材		・ 膨張剤	合成スラブ	<p>6.8.4 型枠の存置期間及び取外し</p> <p>(2) せき板及び支柱の最小存置期間は下表による。</p> <p>表6.8.2 せき板の最小存置期間</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="4">基礎、梁側、柱、壁</th> </tr> <tr> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種</th> <th>高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種</th> <th>中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td> <td>15℃以上</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>0℃以上</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> </table> <p>コンクリートの圧縮強度による場合</p> <table border="1"> <tr> <td>—</td> <td colspan="4">圧縮強度が5N/mm<sup>2</sup>以上となるまで。</td> </tr> </table> <p>(注) 圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、6.9.3(1)(f)による工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。</p> <p>表6.8.3 支柱の最小存置期間</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="2">スラブ下</th> <th rowspan="2">梁下</th> </tr> <tr> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td> <td>15℃以上</td> <td>8</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>12</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>0℃以上</td> <td>15</td> <td>28</td> </tr> </table> <p>コンクリートの圧縮強度による場合</p> <table border="1"> <tr> <td>—</td> <td colspan="3">整理者との協議による</td> </tr> </table> <p>付加 片持梁、庇、長大スパンの梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱、または施工荷重が著しく大きい場合の支柱等は、存置期間の延長・2層受け等を行う事。</p>	セメントの種類	基礎、梁側、柱、壁				早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種	中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	5℃以上	3	5	7	0℃以上	5	8	10	—	圧縮強度が5N/mm <sup>2</sup> 以上となるまで。				セメントの種類	スラブ下		梁下	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	5℃以上	12	25	0℃以上	15	28	—	整理者との協議による			<p>14節 無筋コンクリート</p> <p>6.14.1 一般事項</p> <p>6.14.2 材料及び調合</p> <table border="1"> <tr> <th>コンクリート種類</th> <th>設計基準強度 Fc (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>所要スランプ (cm)</th> <th>粗骨材の最大寸法 (mm)</th> <th>使用箇所</th> </tr> <tr> <td>※ 普通コンクリート</td> <td>※ Fc 18</td> <td>※ 15・18</td> <td>※ 25</td> <td>捨てコン、押えコン</td> </tr> <tr> <td>※ 軽量コンクリート</td> <td>※ Fc 18</td> <td>※ 18・21</td> <td>※ 20</td> <td></td> </tr> </table> <p>付加 セメントの種類</p> <p>付加 ※ 普通ポルトランドセメント</p> <p>付加 ※ 高炉セメントB種 <input checked="" type="checkbox"/> (捨コンクリート)</p> <p>呼び強度は設計基準強度以上とする。(構造体強度補正は行わない)</p>	コンクリート種類	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	所要スランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所	※ 普通コンクリート	※ Fc 18	※ 15・18	※ 25	捨てコン、押えコン	※ 軽量コンクリート	※ Fc 18	※ 18・21	※ 20		<p>7.6.12 溶接部の試験</p> <p>(1)(f)(b) 超音波探傷試験 ※ 行う ・ 行わない</p> <p>工場溶接の場合 A0L (%) ※ 4.0 ・ 2.0</p> <p>※ すべて</p> <p>検査水準 ※ 第6水準</p> <p>8節 錆止め塗装</p> <p>7.8.4 塗料種別</p> <p>(1) ※ 標仕の表18.3.1のA種 ・ 標仕の表18.3.1のB種 ・ 塗装を行わない</p> <p>(2) 耐火被覆面への錆止め塗装 ※ 行わない ・ 行う(耐火被覆の付着性を損なわない仕様とする)</p> <p>9節 耐火被覆</p> <p>7.9.3 耐火被覆材の使用 ※ 有 ・ 無</p> <p>耐火被覆の性能、品質等 ※ 所要性能及び適用箇所は建築特記による。</p> <p>10節 工事現場施工</p> <p>7.10.3 アンカーボルトの設置等</p> <p>(2) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法 ※ 図示による</p> <p>(3) 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 ※ A種 ・ B種</p> <p>(5) 柱底均しモルタル 厚さ ※ 図示による</p> <p>種別 ※ A種 ・ B種</p> <p>付加 既製品柱脚</p> <p>既製品柱脚の使用 ※ 有(設計図による) ・ 無</p> <p>12節 溶融垂鉛めっき工法</p> <p>7.12.5 溶融垂鉛めっき</p> <p>溶融垂鉛めっき処理 ※ 有(設計図による) ・ 無</p> <p>高力ボルト摩擦接合</p> <p>(1) 摩擦面の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ プラスト処理(表面粗度50μmRz以上)</li> <li>・ りん酸塩処理</li> </ul> <p>すべり耐力等の確認方法 ※ すべり耐力試験方法等 ・ 図示</p> <p>すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う(試験方法等: )</p>
種類	使用箇所(コンクリート番号)																																																																																													
※ 普通ポルトランドセメント	1, 2, 3																																																																																													
・ 高炉セメントB種																																																																																														
種類	備考																																																																																													
・ A E剤																																																																																														
・ 高性能減水剤																																																																																														
・ 減水剤																																																																																														
<input checked="" type="checkbox"/> A E減水剤																																																																																														
<input checked="" type="checkbox"/> 高性能A E減水剤	単位水量の上限値を守れない場合																																																																																													
・ 流動化剤																																																																																														
種類	備考																																																																																													
・ 高炉slag																																																																																														
・ 防水材																																																																																														
・ 膨張剤	合成スラブ																																																																																													
セメントの種類	基礎、梁側、柱、壁																																																																																													
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種	中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント																																																																																										
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5																																																																																										
	5℃以上	3	5	7																																																																																										
	0℃以上	5	8	10																																																																																										
—	圧縮強度が5N/mm <sup>2</sup> 以上となるまで。																																																																																													
セメントの種類	スラブ下		梁下																																																																																											
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種																																																																																												
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17																																																																																											
	5℃以上	12	25																																																																																											
	0℃以上	15	28																																																																																											
—	整理者との協議による																																																																																													
コンクリート種類	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	所要スランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所																																																																																										
※ 普通コンクリート	※ Fc 18	※ 15・18	※ 25	捨てコン、押えコン																																																																																										
※ 軽量コンクリート	※ Fc 18	※ 18・21	※ 20																																																																																											
<p>6.3.2 コンクリートの調合</p> <p>(7) 調合管理強度は、設計基準強度Fcに、下表に示す構造体強度補正值(S)を加えた値以上、かつ、品質に関する規定を満たすものとする。</p> <p>構造体強度補正值(S)は下表により、セメントの種類及びコンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。</p> <p>表6.3.2 構造体強度補正值(S)の標準値</p> <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="2">コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シリカセメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>早強ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 5</td> <td>5 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 11</td> <td>11 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 14</td> <td>14 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 13</td> <td>13 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 9</td> <td>9 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>普通エコセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 6</td> <td>6 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> </table>	セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)		普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	高炉セメントA種			シリカセメントA種			フライアッシュセメントA種			早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ	中炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ	低炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ	高炉セメントB種	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ	フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ	普通エコセメント	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	<p>9節 試験等</p> <p>6.9.3 コンクリートの強度試験</p> <p>(1) 試験体の養生方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準養生 ※ 工事現場における水中養生</li> <li>・ 工事現場における封かん養生</li> </ul> <p>10節 軽量コンクリート</p> <p>6.10.2 種類及び品質</p> <p>常時止あるいは水に直接接する部分 ※ 使用しない ・ 使用する(使用箇所: )</p> <p>(1) 軽量コンクリートの種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1種 気乾単位容積質量 ( ) t/m<sup>3</sup></li> <li>・ 2種 気乾単位容積質量 ( ) t/m<sup>3</sup></li> </ul> <p>11節 寒中コンクリート</p> <p>6.11.1 一般事項</p> <p>(2) 寒中コンクリートの適用期間は、(JASSIによる)。</p> <p>12節 暑中コンクリート</p> <p>6.12.2 材料及び調合</p> <p>(3) 構造体強度補正值(S)は、6 N/mm<sup>2</sup>とする。</p>	<p>7.2.1 鋼材</p> <p>表7.2.1 鋼材の種類等</p> <table border="1"> <tr> <th>適用規格番号</th> <th>種類の記号</th> <th>規格名称等</th> </tr> <tr> <td>JIS G 3101</td> <td>SS400, SS490, SS540</td> <td>一般構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3106</td> <td>SM400, SM490, SM520</td> <td>溶接構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3114</td> <td>SMA400, SMA490</td> <td>溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3136</td> <td>SM400, SM490</td> <td>建築構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3138</td> <td>SMR400, SMR490</td> <td>建築構造用圧延棒鋼</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3350</td> <td>SSC400</td> <td>一般構造用軽量形鋼</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3444</td> <td>STK400, STK490</td> <td>一般構造用炭素鋼管</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3466</td> <td>STKR400, STKR490</td> <td>一般構造用角形鋼管</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3475</td> <td>STKM400, STKM490</td> <td>建築構造用炭素鋼管</td> </tr> <tr> <td>国土交通大臣認定</td> <td>BCR295</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>国土交通大臣認定</td> <td>BGP235</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>国土交通大臣認定</td> <td>BGP325</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>付加 ※ 炭素当量などによる鋼材の区分は特記による。</p> <p>付加 ※ 鋼材は、原則として高炉材もしくは不純物を適正に管理された電炉材を使用する。ただし、溶接を伴わない小梁等の材料については、一般的な電炉材の使用も可とする。</p> <p>7.2.2 高力ボルト</p> <p>(1) 高力ボルト ※ トルシア形高力ボルト S10T(国土交通大臣認定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JIS形高力ボルト F10T 2種</li> <li>※ 溶融垂鉛めっき高力ボルト F8T 1種</li> </ul> <p>7.2.4 アンカーボルト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構造用アンカーボルト (※ 種類は図示による)</li> <li>・ 建方用アンカーボルト (※ 種類は図示による)</li> </ul> <p>7.2.8 スタッド</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名等</th> <th>呼び長さ(mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ 16</td> <td>100</td> <td>設計図による</td> </tr> <tr> <td>・ 19</td> <td>100</td> <td>設計図による</td> </tr> <tr> <td>・ 22</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>7.2.9 柱底均しモルタル</p> <p>(2) 無収縮モルタル ※ 材料、調合等は、標仕7.2.9(2)(7)~(x)による。</p> <p>3節 工作一般</p> <p>7.3.10 仮組</p> <p>(1) 仮組の実施 ※ 行わない ・ 行う</p> <p>4節 高力ボルト接合</p> <p>7.4.2 摩擦面の性能及び処理</p> <p>(3) すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う(試験方法等: )</p> <p>6節 溶接接合</p> <p>7.6.3 溶接作業を行う技能資格者</p> <p>技量付加試験</p> <p>※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じたJIS Z 3801及びJIS Z 3841の資格者であること。</p> <p>・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認められた者は免除する。</p> <p>7.6.4 溶接の準備</p> <p>(1) 開先の形状 ※ 鉄骨構造標準図による ・ その他( )</p> <p>7.6.7 溶接施工</p> <p>(1) (a) 鋼製エンドタブの切除 ※ 行わない ・ 行う</p> <p>切除する場合は溶接完了後10mm程度残して切除し、グラインダー仕上げとする。</p> <p>(2) (x) スカラップの形状 ※ 鉄骨構造標準図による ・ その他( )</p>	適用規格番号	種類の記号	規格名称等	JIS G 3101	SS400, SS490, SS540	一般構造用圧延鋼材	JIS G 3106	SM400, SM490, SM520	溶接構造用圧延鋼材	JIS G 3114	SMA400, SMA490	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材	JIS G 3136	SM400, SM490	建築構造用圧延鋼材	JIS G 3138	SMR400, SMR490	建築構造用圧延棒鋼	JIS G 3350	SSC400	一般構造用軽量形鋼	JIS G 3444	STK400, STK490	一般構造用炭素鋼管	JIS G 3466	STKR400, STKR490	一般構造用角形鋼管	JIS G 3475	STKM400, STKM490	建築構造用炭素鋼管	国土交通大臣認定	BCR295	—	国土交通大臣認定	BGP235	—	国土交通大臣認定	BGP325	—	呼び名等	呼び長さ(mm)	適用箇所	・ 16	100	設計図による	・ 19	100	設計図による	・ 22			<p>付加 その他</p> <p>施行令第129条の2の3の事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。 <ul style="list-style-type: none"> <li>㊦ 建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食または腐朽のおそれがないものとする。</li> <li>㊦ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水槽等」という。)は、支持構造部又は構造物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。</li> <li>㊦ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とすること。</li> <li>㊦ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。</li> <li>㊦ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備(建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備(屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものは除く。以下単に「給湯設備」という。)を除く。))は、 <ul style="list-style-type: none"> <li>㊦ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。</li> <li>㊦ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。</li> <li>㊦ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。</li> <li>㊦ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃緩和のための措置を講ずること。</li> </ul> </li> <li>㊦ 給湯設備は、第1の規定によるほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。</li> <li>㊦ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。</li> <li>㊦ 給湯器等の転倒防止についての告示1447号を遵守すること。</li> </ul> </li> </ul>				
セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																													
普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ																																																																																												
高炉セメントA種																																																																																														
シリカセメントA種																																																																																														
フライアッシュセメントA種																																																																																														
早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ																																																																																												
中炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ																																																																																												
低炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ																																																																																												
高炉セメントB種	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ																																																																																												
フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ																																																																																												
普通エコセメント	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ																																																																																												
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3																																																																																												
適用規格番号	種類の記号	規格名称等																																																																																												
JIS G 3101	SS400, SS490, SS540	一般構造用圧延鋼材																																																																																												
JIS G 3106	SM400, SM490, SM520	溶接構造用圧延鋼材																																																																																												
JIS G 3114	SMA400, SMA490	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材																																																																																												
JIS G 3136	SM400, SM490	建築構造用圧延鋼材																																																																																												
JIS G 3138	SMR400, SMR490	建築構造用圧延棒鋼																																																																																												
JIS G 3350	SSC400	一般構造用軽量形鋼																																																																																												
JIS G 3444	STK400, STK490	一般構造用炭素鋼管																																																																																												
JIS G 3466	STKR400, STKR490	一般構造用角形鋼管																																																																																												
JIS G 3475	STKM400, STKM490	建築構造用炭素鋼管																																																																																												
国土交通大臣認定	BCR295	—																																																																																												
国土交通大臣認定	BGP235	—																																																																																												
国土交通大臣認定	BGP325	—																																																																																												
呼び名等	呼び長さ(mm)	適用箇所																																																																																												
・ 16	100	設計図による																																																																																												
・ 19	100	設計図による																																																																																												
・ 22																																																																																														
<p>8節 型枠</p> <p>6.8.1 型枠一般</p> <p>(4) 外部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ</p> <p>※ 20mm ・ 25mm ・ 10mm ・ mm</p> <p>(5) ひび割れ誘発目地</p> <p>位置 ※ 意匠図による</p> <p>寸法 ※ 標仕 [9.7.3(1)(ア)]による ・ 設計図による</p> <p>内部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ</p> <p>仕上げの無い内壁・柱型 ※ 10mm ・ ( ) mm</p> <p>免震、配管ピット壁・柱型、ELVシャフト ※ 0mm ・ ( ) mm</p> <p>床 ※ 10mm ・ 15mm ・ ( ) mm</p>	<p>6.13.1 一般事項</p> <p>6.13.2 材料及び調合</p> <p>(1) セメントの種類 ※ 表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。</p> <p>(2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他( )</p> <p>混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(f)を適用すること。</p> <p>(5) スランプ ※ 15cm ・ cm</p> <p>(6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。</p> <p>表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値</p> <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="4">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> <p>* 暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。</p>	セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)				・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6	<p>13節 マスコンクリート</p> <p>(2) マスコンクリートの適用場所 ・ 設計図による</p> <p>設計図に記載がない場合でも、現場にて施工性を考慮の上、断面が大きくなるような処置を行う場合は、本項に従うこととする。目安として、壁状部材で800mm以上、マッド状・柱状部材で1000mm以上を目安とする。</p>	<p>工事名称</p> <p>公立沖縄北部医療センター新築工事(建築工事)</p> <p>工事場所</p> <p>沖縄県名護市大北1丁目15-9</p> <p>発注機関</p> <p>沖縄県北部医療組合</p> <p>工事年度</p> <p>令和7年度</p> <p>摘要</p> <p>管理建築士 設計 製図</p> <p>検印</p> <p>図面名称</p> <p>構造特記仕様書(2)(車寄せ底1-1)</p> <p>縮尺</p> <p>[A1] - [A3] - 図面番号 S - 202</p> <p>設</p> <p>JV名称</p> <p>内藤・ARG・設備研究所設計共同体</p> <p>代表企業</p> <p>株式会社内藤建築事務所 登録番号 福岡県知事登録第1-12326号</p> <p>所在地</p> <p>福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16</p> <p>計</p> <p>一級建築士</p> <p>山田 剛 登録番号 登録第310062号</p> <p>一級建築士</p> <p>末吉 謙太郎 登録番号 登録第335522号 登録第9280号</p> <p>一級建築士</p> <p>丸山 茂義 登録番号 登録第173320号 登録第1058号</p>																																																								
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																													
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																										
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—																																																																																										
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—																																																																																										
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																										
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																										
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6																																																																																										





1階柱梁・1階梁床伏図 1/100



R階梁床伏図 1/100

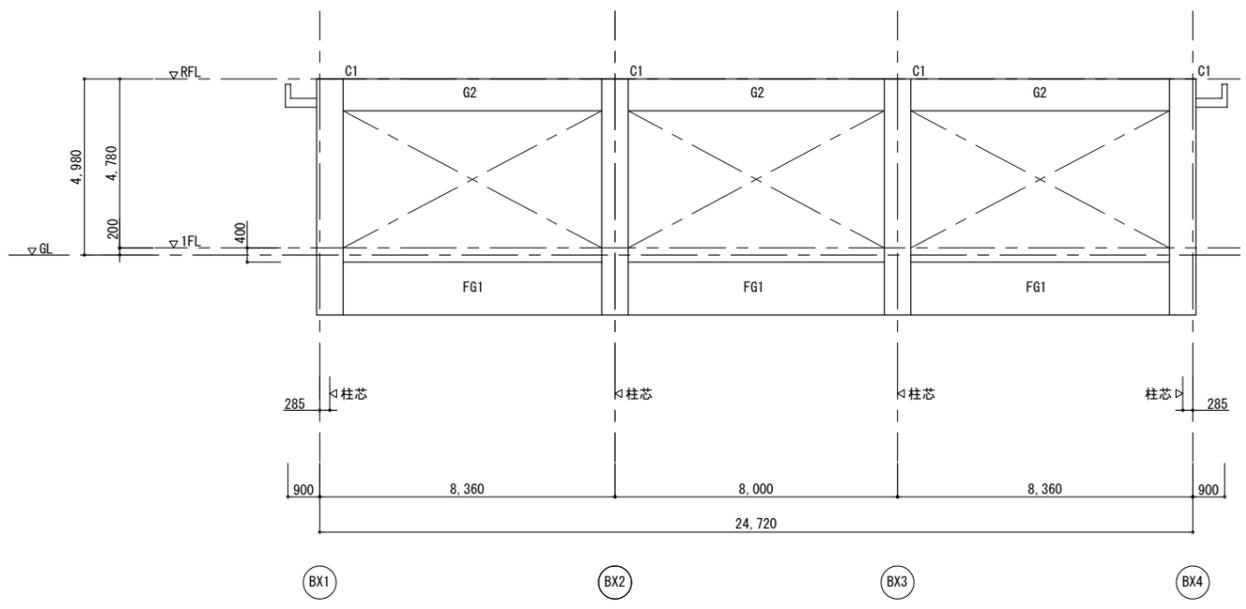
特記なき限り下記による

1. 1FL=GL+200=18.20
2. 一般スラブ FS1  
一般スラブ天端 1FL-400
3. 一般壁 W18
4. 基礎梁天端 1FL-400  
( )内数値は、1FLからの梁天端レベルを示す。
5. フレーム内のスリットは軸組図による。
6. 必要地耐力(長期): 50kN/m<sup>2</sup>  
平板載荷試験を行い上記必要地耐力を確認すること。  
必要地耐力を確認できない場合は、地盤改良を行い必要地耐力を確保すること。

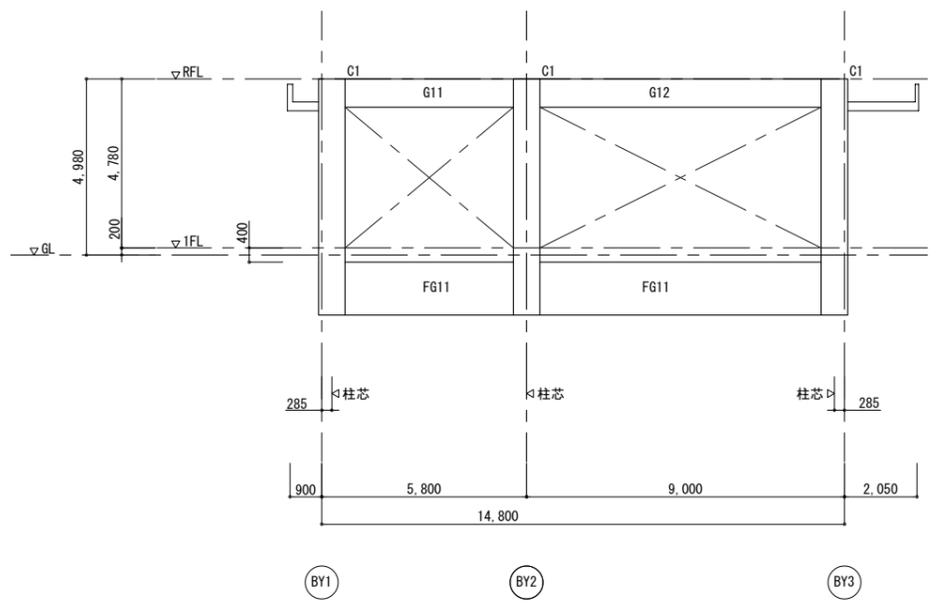
特記なき限り下記による

1. 一般スラブ S1
2. 梁天端 屋根勾配による  
( )内数値は、RFLからの梁天端レベルを示す。
3. 一般スラブ天端 屋根勾配による

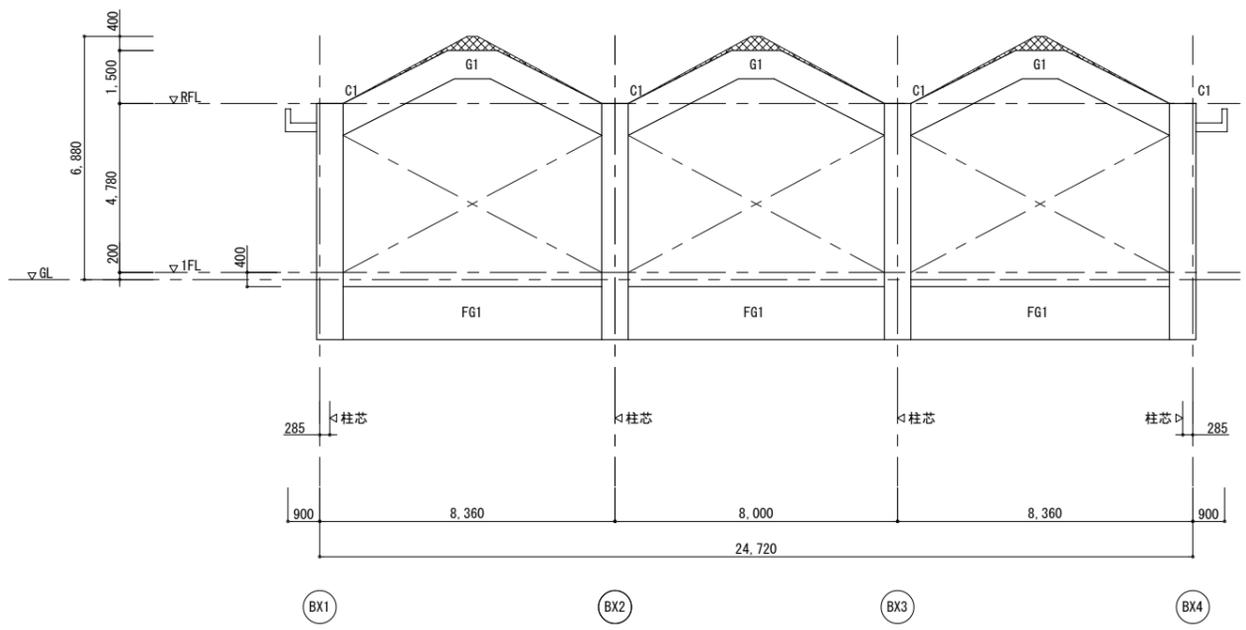
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)		図面名称	1階柱梁床伏図、R階梁床伏図(車寄せ庇1-1)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9		縮尺	【A1】1/100 【A3】1/200	図面番号	S - 210	
発注機関	沖縄県北部医療組合		設計者	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度			代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第1-12326号
摘要			検印	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
管理建築士	設計	製図		一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
				一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
				一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号



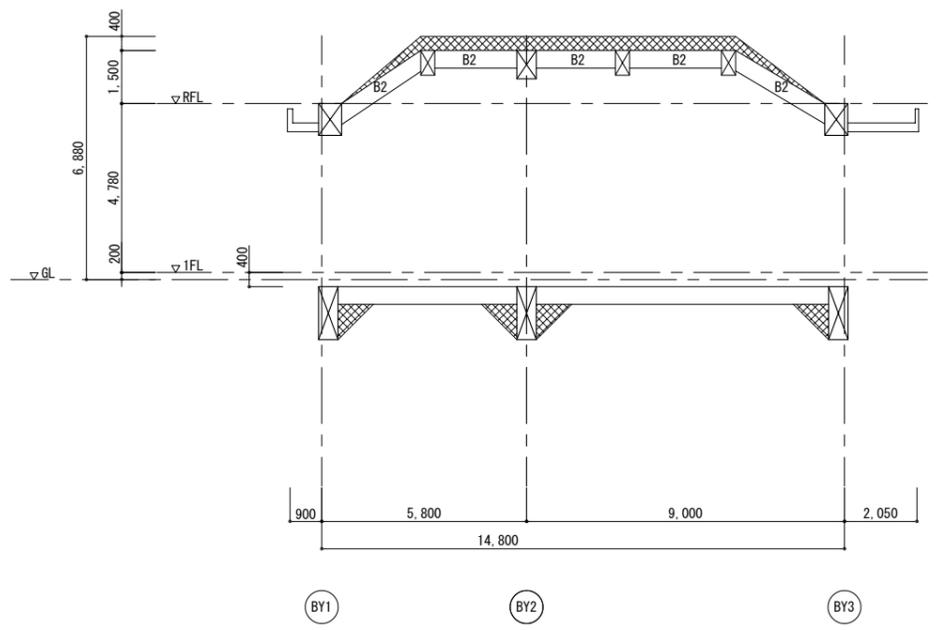
BY1, BY3通軸組図 1/100



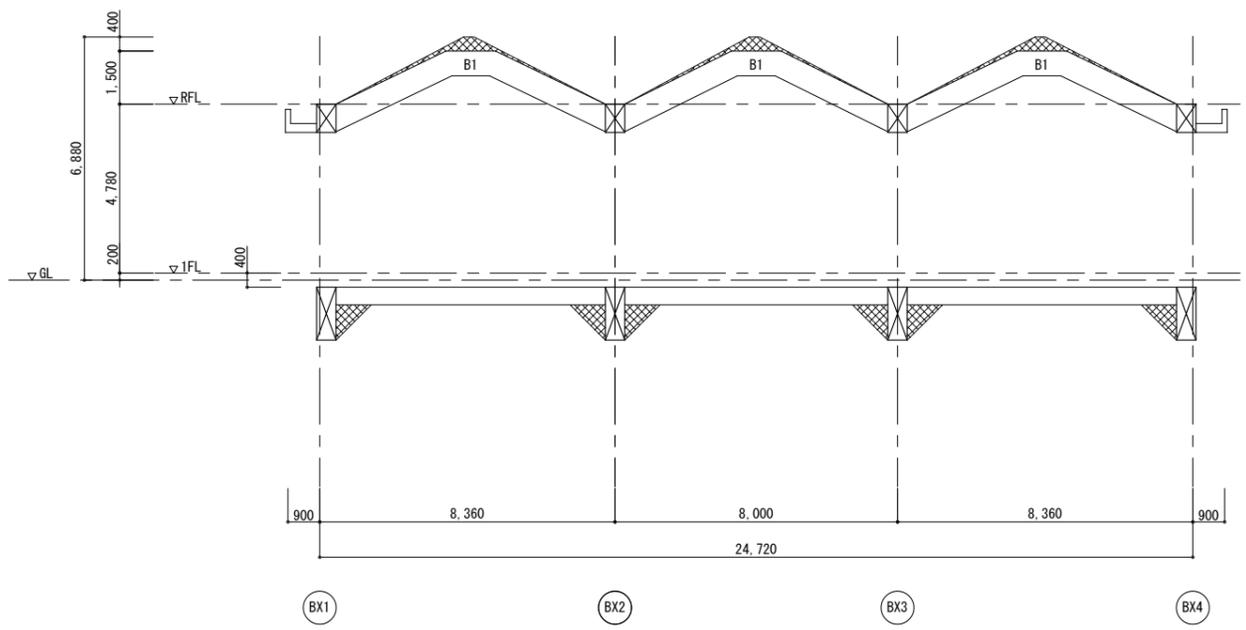
BX1~BX4通軸組図 1/100



BY2通軸組図 1/100



BX1+4000通軸組図 1/100



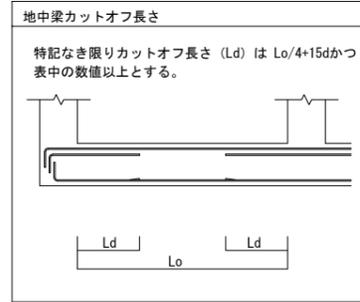
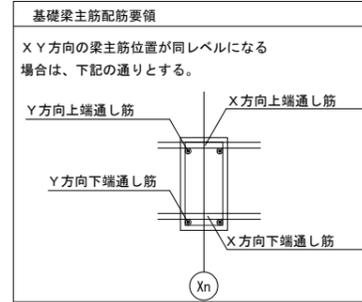
BY1+3000通軸組図 1/100

特記なき限り下記による  
 1. 地中梁天端 1FL-400  
 2. 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	軸組図 (車寄せ庇1-1)		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】 1/100 【A3】 1/200	図面番号	S - 211
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和 7 年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	製	図	
	一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号	
	一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号	
	一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	

基礎梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

符号	FG1	FG11
位置	全断面	全断面
断面		
B×D	550×1,500	550×1,500
上端筋	7-D25	8-D25
下端筋	7-D25	7-D25
あばら筋	□-D13@200	□-D13@200
腹筋	8-D13	8-D13

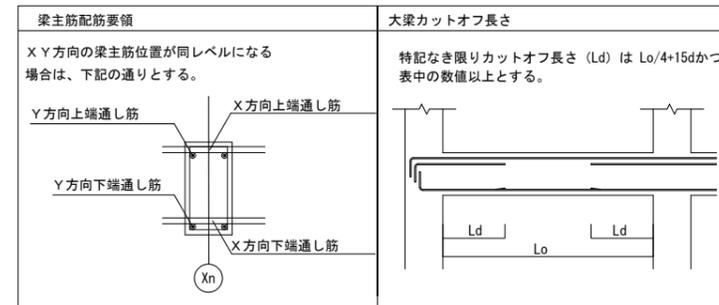


柱リスト 1/50

階	符号	C1
1階	断面	
	Dx×Dy	750×750
	主筋	16-D25
	ア-ア'	□-D13@100

大梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。・※付の腹筋は、接続する柱にL2定着とする。

階	符号	G1	G2	G11	G12		
		全断面	全断面	全断面	BY2通	中央	BY3通
R階	位置						
	断面						
	B×D	550×800	650×900	650×800	650×800		
	上端筋	5-D25	6-D25	6-D25	8-D25	6-D25	6-D25
	下端筋	5-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25
	スタ-ラップ	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150		
腹筋	2-D10	※4-D22	※4-D13	※4-D13			

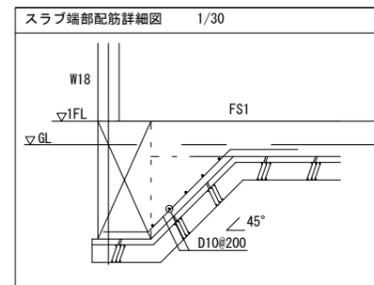


小梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

符号	B1	B2
位置	全断面	全断面
断面		
B×D	400×700	300×500
上端筋	6-D22	3-D22
下端筋	6-D22	3-D22
スタ-ラップ	□-D13@200	□-D10@200
腹筋	2-D10	2-D10

床版リスト

名称	厚さ	位置	短辺(主筋方向)		長辺(配筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S1	150	上端筋	D13@200	同左	D13@200	同左	
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
CS1	250	上端筋	D13@100	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D10@100	同左	D10@200	同左	
CS2	250	上端筋	D16@100	同左	D16@100	同左	出隅部補強
		下端筋	D13@100	同左	D13@100	同左	
FS1	400	上端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	
		下端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	



工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事(建築工事)	図面名称	部材リスト(車寄せ庇1-1)
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/50 【A3】1/100 図面番号 S-212
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計	JV名称 内藤・ARG・設備研究所設計共同体
工事年度	令和7年度		代表企業 株式会社内藤建築事務所 登録番号 福岡県知事登録第1-12326号
摘要	管理建築士 設計 製図	計	所在地 福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
			一級建築士 山田 剛 登録番号 登録第310062号
検印		者	一級建築士 末吉 謙太郎 登録番号 登録第335522号 第9280号
			一級建築士 丸山 茂義 登録番号 登録第173320号 第1058号

<b>建築物の構造概要</b>	
(1) 工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (車寄せ2-1)
建築場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9他
(2) 設計年月	令和7年3月
(3) 工事種別	■新築 □増築 □増改築 □改築
(4) 構造種別	鉄筋コンクリート造 (RC造)
(5) 構造形式	ラーメン構造
(6) 基礎形式	直接基礎 (べた基礎)
(7) 階数	地上 1 階 地下 ___ 階 塔屋 ___ 階
(8) 主要用途	病院
(9) 構造計算ルート	<input type="checkbox"/> ルート1 ( <input type="checkbox"/> ルート1-1 <input type="checkbox"/> ルート1-2 ) <input type="checkbox"/> 限界耐力計算又は同等以上の構造計算 <input type="checkbox"/> ルート2 ( <input type="checkbox"/> ルート2-1 <input type="checkbox"/> ルート2-2 ) <input type="checkbox"/> 時刻歴応答解析 <input checked="" type="checkbox"/> ルート3 <input type="checkbox"/> その他
(10) 重要度係数等の考慮の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 1.5 (Ⅰ類) <input type="checkbox"/> 1.25 (Ⅱ類) <input type="checkbox"/> 1.0 (Ⅲ類) ) <input type="checkbox"/> その他 : ( )

<b>特記仕様書の適用</b>	
1. 標準仕様	図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(以下、標仕という。)による。
2. 特記仕様	(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 <input type="checkbox"/> 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 <input type="checkbox"/> 印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。 (2) 各章の章、節、項の番号は、標仕の当該番号に対応する。 (3) (表 ) (図 ) の番号は標仕の当該表または図の番号を表す。 (4) □印は「図等による環境物品等の調達を推進等に関する法律(グリーン購入法)」の特記調達品目を示す。 (5) 図中の「付加」は、標仕にない特記事項を示す。

<b>4章 地業工事</b>	
<b>2節 試験及び報告書</b>	
4.2.2 試験杭	(1) 試験杭の位置及び本数 ※ 最初の1本 ・ 設計図による 試験杭の杭長は本杭と同じとする。
4.2.3 杭の載荷試験	(1) 鉛直載荷試験 ※ 行わない ・ 行う (次による) 水平載荷試験 ※ 行わない ・ 行う (次による) 鉛直載荷試験: 杭径 ( φ ) 個所数 ( カ所 ) 最大載荷荷重 ( k N ) 水平載荷試験: 杭径 ( φ ) 個所数 ( カ所 ) 最大載荷荷重 ( k N ) (2) (3) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。
4.2.4 地盤の載荷試験	(1) 平板載荷試験 ※ 行わない ○ 行う (次による) (2) 個所数 ( 各棟 1 カ所 ) 試験深さ ( 2 F L - 0.7 m ) 対象地盤 ( 粘土混じりシルト層 ) 最大載荷荷重 ( 150 k N/m <sup>2</sup> ) (4) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。
<b>3節 既製コンクリート杭地業</b>	
4.3.3 材料	(1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※ 設計図による (2) 先端部形状 ※ 開放型 ・ 閉塞平たん形
4.3.4 セメントミルク工法	(1) 根固め液の使用 ※ あり ・ なし 杭周固定液の使用 ※ あり ・ なし (6) アースオーガーの支持地盤への掘削深さ 1.5m 程度 ※ 杭先端深さ 支持層より 1.0m以上 ※ 杭の高止まり 0.5m以下
4.3.5 特定埋込杭工法	(1) 工法 ・ ブレポーリング拡大根固め工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 ・ その他 ( ) 杭周固定液 ※ 使用する ・ 使用しない
4.3.6 継手	(1) 杭の継手 ・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手 ・ 溶接継手
4.3.8 杭頭の処理等	(1) 杭頭処理 ※ 切断しない ・ 切断する ネガティブフリクション対策 ※ 無 ・ 有 (設計図による) 杭頭補強筋は、設計図による。

<b>4節 鋼杭地業</b>	
4.4.1 一般事項	工法 ・ 特定埋込杭工法 ( 工法 )
4.4.3 材料	(1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※ 設計図による
4.4.5 継手	(1) 杭の継手 ・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手 ・ 溶接継手
4.4.6 杭頭の処理等	4.3.8 による
<b>5節 場所打ちコンクリート杭地業</b>	
4.5.1 一般事項	(2) 工法 ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 ・ その他 ( )
4.5.4 材料その他	(1) 鉄筋 5章による ※ 高炉セメント ・ その他 ( ) 設計基準強度 N/mm <sup>2</sup> ・ A種 ※ B種 コンクリートの強度補正 設計基準強度を満足させるよう定める 杭径・杭長・長期許容支持力 ※ 設計図による 鋼管の使用 ※ なし ・ あり
4.5.5 アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法	(3) 超音波測定器による孔壁測定 ・ 行う ・ 行わない

<b>6節 砂利、砂、捨コンクリート地業等</b>	
4.6.2 材料	(1) 砂利地業の材料 ※ 再生クラッシュラン ・ 切込み砂利及び切込み砕石
4.6.3 砂利及び砂地業	(1) ○ 直接基礎床板下 ※ 60mm ・ 100mm ・ 150mm ・ 基礎床板下 ※ 60mm ○ 基礎梁下 ※ 60mm ○ 土間スラブ下 <sup>注)</sup> ○ 60mm ・ 100mm ・ 150mm 注)「土間スラブ」は、土に接する構造スラブのことをいう。 ○ 土間コンクリート下 ・ 150mm ○ 100mm

4.6.4 捨コンクリート	(1) 厚さ ※ 60mm ・ その他 ( ) (2) (1)以外の項目は6章14節による。 ・ 土間スラブ下 <sup>注)</sup> ( mm ) ・ 土間コンクリート下 ( mm ) 注)「土間スラブ」は、土に接する構造スラブのことをいう。
付加 置換コンクリート	・ 付加 コンクリートの種別 ※ 普通コンクリート ※ 設計基準強度 18N/mm <sup>2</sup> ( 構造体強度補正は行わない )
付加 地盤改良地業	工法 工法名: ( 設計図による ) ○ 洗層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は設計図による ・ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は設計図による 六価クロム溶出試験 ※ 行う ・ 行わない 本節による。直接基礎、置換コンクリート地業及び地盤改良地業の支持層、長期許容支持力は下記による ○長期設計支持力は設計図による。 ○支持地盤は設計図による。

<b>5章 鉄筋工事</b>																																											
<b>2節 材料</b>																																											
5.2.1 鉄筋	異形鉄筋SDはD38以下、丸鋼SR235及びSR295は13mm以下に適用する。 <table border="1"> <tr> <th>規格名称</th> <th>種類の記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用棒鋼) JIS G 3112</td> <td>○SD295</td> <td>設計図による</td> <td>D10~D16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SD345</td> <td>設計図による</td> <td>D19~D25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD390</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD490</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)</td> <td>・SD295A</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高強度せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)</td> <td>・SD295B</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・KSS785</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5">閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。</td> </tr> </table>	規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)	備考	異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用棒鋼) JIS G 3112	○SD295	設計図による	D10~D16		○SD345	設計図による	D19~D25		・SD390	設計図による			・SD490	設計図による			溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295A				高強度せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295B					・KSS785	設計図による			閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。				
規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)	備考																																							
異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用棒鋼) JIS G 3112	○SD295	設計図による	D10~D16																																								
	○SD345	設計図による	D19~D25																																								
	・SD390	設計図による																																									
	・SD490	設計図による																																									
溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295A																																										
高強度せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295B																																										
	・KSS785	設計図による																																									
閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。																																											
5.2.2 溶接金網	(1) 溶接金網、鉄筋格子の寸法、径 JIS G 3551 <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径・寸法・形状</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">溶接金網</td> <td rowspan="3">WFP</td> <td>鉄骨階段踏面</td> <td rowspan="3">φ6-100×100</td> <td rowspan="3">JIS規格品</td> </tr> <tr> <td>防水層保護コンクリート</td> </tr> <tr> <td>配管埋設用コンクリート</td> </tr> <tr> <td>スラブ内埋設管の集密部分</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋格子</td> <td>SD295</td> <td>壁・スラブ開口補強</td> <td>D10、D13</td> <td></td> </tr> </table>	種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考	溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面	φ6-100×100	JIS規格品	防水層保護コンクリート	配管埋設用コンクリート	スラブ内埋設管の集密部分			鉄筋格子	SD295	壁・スラブ開口補強	D10、D13																							
種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考																																							
溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面	φ6-100×100	JIS規格品																																							
		防水層保護コンクリート																																									
		配管埋設用コンクリート																																									
スラブ内埋設管の集密部分																																											
鉄筋格子	SD295	壁・スラブ開口補強	D10、D13																																								

<b>3節 加工及び組立</b>											
5.3.4 継手及び定着	(1) 継手の工法 (設計図による) <table border="1"> <tr> <th>部位など</th> <th>継手工法と適用径の範囲</th> </tr> <tr> <td>柱主筋</td> <td>※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td>梁主筋</td> <td>※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td>スラブ、壁筋</td> <td>※ 重ね継手 ( D10~D16 ) ・ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td>杭主筋</td> <td>※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> </table> 定着板の有無 ※ 無 ○ 有 (設計図による) 使用箇所については、最上階柱頭部柱主筋とする。	部位など	継手工法と適用径の範囲	柱主筋	※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )	梁主筋	※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )	スラブ、壁筋	※ 重ね継手 ( D10~D16 ) ・ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )	杭主筋	※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )
部位など	継手工法と適用径の範囲										
柱主筋	※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )										
梁主筋	※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )										
スラブ、壁筋	※ 重ね継手 ( D10~D16 ) ・ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )										
杭主筋	※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )										
5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	(1) コンクリートのかぶり厚さ ※ 最小かぶり厚さに10mm加える 耐久性上不利な箇所のかぶり厚は次による。 <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)</th> </tr> <tr> <td>外気に接する打放し面</td> <td>※ 10</td> </tr> </table> かぶり厚さは目地底から算定する 設計図にて寸法指定箇所を除き、設計図に示す鉄筋本数を等間隔に割り付ける。 特殊な鉄筋継手のあき ※ 設計図による。	施工箇所	最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)	外気に接する打放し面	※ 10						
施工箇所	最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)										
外気に接する打放し面	※ 10										

<b>4節 ガス圧接</b>	
5.4.10 付加 圧接完了後の圧接部の試験	検査及び試験の要領は(公社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。 (4) 抜取試験の方法 ※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験 引張試験の試験機関は原則として公的試験所とする。 超音波探傷試験の試験従事者は当該工事のガス圧接作業に従事しない者とし、技量及び経験の証明となる資料により整理者の承諾をうける。超音波試験の検査ロットは引張試験と同様とする。試験方法・判定基準は、JIS Z 3062によるものとし、試験の要領は(公社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。

付加 付加	継手が溶接その他の特殊な工法による場合の試験は、前2号に準ずる抜取試験を行う。 超音波探傷試験の試験技術者は(公社)日本鉄筋継手協会による鉄筋継手部検査技術資格者16種、2種あるいは3種とする。 圧接完了後の試験の抜取率及び判定基準												
試験方法	<table border="1"> <tr> <th>試験方法</th> <th>ロット区分及び試料数</th> <th>ロット当たりの抜取本数及び抜取率</th> <th>判定基準</th> </tr> <tr> <td>引張試験</td> <td>同一作業班が一日に施工した圧接箇所かつ200カ所程度以下を1ロットとする</td> <td>引張試験抜取本数 (※ 3本 )</td> <td>引張試験では試料のすべてが、「最大引張強さが母材規格強度以上」を満足すること。 超音波探傷試験ではJIS Z 3062に示す判定基準にすべての箇所が合格すること。 不合格の場合は、5.4.11による。</td> </tr> <tr> <td>超音波探傷試験</td> <td></td> <td>超音波探傷試験の抜取率 (※ 30本 )</td> <td></td> </tr> </table>	試験方法	ロット区分及び試料数	ロット当たりの抜取本数及び抜取率	判定基準	引張試験	同一作業班が一日に施工した圧接箇所かつ200カ所程度以下を1ロットとする	引張試験抜取本数 (※ 3本 )	引張試験では試料のすべてが、「最大引張強さが母材規格強度以上」を満足すること。 超音波探傷試験ではJIS Z 3062に示す判定基準にすべての箇所が合格すること。 不合格の場合は、5.4.11による。	超音波探傷試験		超音波探傷試験の抜取率 (※ 30本 )	
試験方法	ロット区分及び試料数	ロット当たりの抜取本数及び抜取率	判定基準										
引張試験	同一作業班が一日に施工した圧接箇所かつ200カ所程度以下を1ロットとする	引張試験抜取本数 (※ 3本 )	引張試験では試料のすべてが、「最大引張強さが母材規格強度以上」を満足すること。 超音波探傷試験ではJIS Z 3062に示す判定基準にすべての箇所が合格すること。 不合格の場合は、5.4.11による。										
超音波探傷試験		超音波探傷試験の抜取率 (※ 30本 )											

<b>5節 機械式継手</b>	
5.5.1 一般事項	特殊な機械式継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。 告示1463号に示す(※ A級 ) 工法: ( )
<b>6節 溶接継手</b>	
5.6.1 一般事項	特殊な溶接継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。 告示1463号に示す(※ A級 ) 工法: ( )

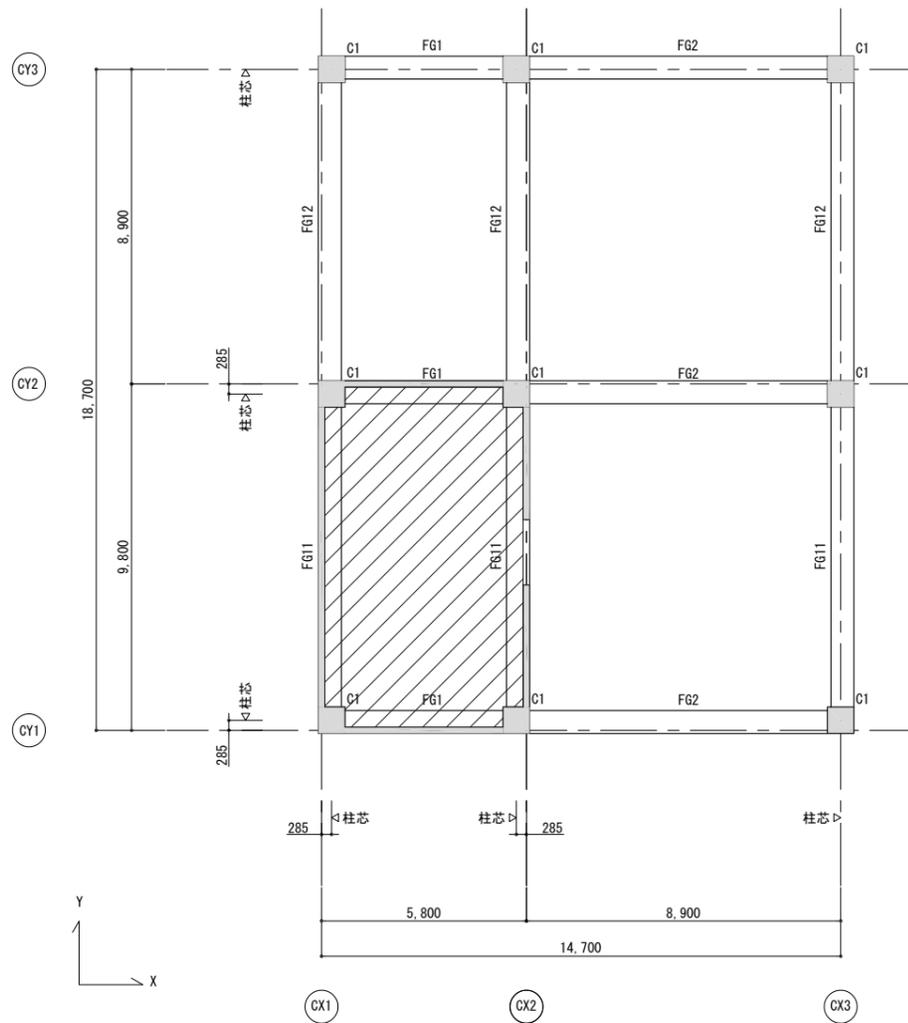
<b>その他配筋</b>	
付加 帯筋の組立て	<input type="checkbox"/> 付加 ○ H形 ・ (スパイラル) S P形 ・ 溶接閉鎖形
付加 梁貫通孔の補強	<input type="checkbox"/> 付加 ※ H形 ・ HM形 ・ M形 ※ 既製品 ・ スリーブ図に無い貫通孔が、必要な場合においても補強対象とし、本工事に含むものとする。 ・ 施工者側の理由により貫通孔が追加となる場合は、増減対象とみなさない。

<b>6章 コンクリート工事</b>																																																																														
<b>2節 コンクリートの種類及び品質</b>																																																																														
6.2.1 種類	コンクリートの種類 <table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>コンクリート種別</th> <th>設計基準強度 F<sub>c</sub> (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>所要スラブ上限值(kg/m<sup>3</sup>)</th> <th>単位水量の上限値(kg/m<sup>3</sup>)</th> <th>構造体強度補正値の有無</th> <th>使用箇所</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F<sub>c</sub> 30</td> <td>15</td> <td>185</td> <td>有</td> <td>基礎・基礎梁・1階床</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F<sub>c</sub> 30</td> <td>18</td> <td>185</td> <td>有</td> <td>1階柱壁・R階梁床</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F<sub>c</sub> 21</td> <td>15</td> <td>185</td> <td>無</td> <td>土間コン・押えコン</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	コンクリート種別	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	所要スラブ上限值(kg/m <sup>3</sup> )	単位水量の上限値(kg/m <sup>3</sup> )	構造体強度補正値の有無	使用箇所	1	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 30	15	185	有	基礎・基礎梁・1階床	2	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 30	18	185	有	1階柱壁・R階梁床	3	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 21	15	185	無	土間コン・押えコン	4							5							6							7							8							9							10						
番号	コンクリート種別	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	所要スラブ上限值(kg/m <sup>3</sup> )	単位水量の上限値(kg/m <sup>3</sup> )	構造体強度補正値の有無	使用箇所																																																																								
1	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 30	15	185	有	基礎・基礎梁・1階床																																																																								
2	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 30	18	185	有	1階柱壁・R階梁床																																																																								
3	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 21	15	185	無	土間コン・押えコン																																																																								
4																																																																														
5																																																																														
6																																																																														
7																																																																														
8																																																																														
9																																																																														
10																																																																														
6.2.2 強度	(1) レディーミクストコンクリートの種別 ※ I類(JIS Q 1001 及び JIS Q 1011 に基づき、JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・ II類(I類以外のJIS A 5308に適合したコンクリート) (3) 建築基準法第37条第二号に規定する国土交通大臣の認定を受けたコンクリートの使用 ※ 無 ・ 有																																																																													
6.2.3 気乾単位容積質量	(1) 普通コンクリートの気乾単位容積質量 ※ 2.3 t/m <sup>3</sup> ・ ( ) t/m <sup>3</sup>																																																																													
6.2.5 構造体コンクリートの仕上り	(2) 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げの種別 ※ 建築特記による。																																																																													

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	構造特記仕様書 (1) (車寄せ2-1)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1] - [A3] -	図面番号	S - 301	
発注機関	沖縄県北部医療組合	設	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号
摘要		計	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印			一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
			一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
			一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

<b>3節 コンクリートの材料及び調合</b> 6.3.1 コンクリートの材料 (1) セメントの種類 <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>使用箇所(コンクリート番号)</th> </tr> <tr> <td>※ 普通ポルトランドセメント</td> <td>1, 2, 3</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td></td> </tr> </table> (2) 骨材 細骨材及び混合細骨材 ・ フェロケケルスラグ細骨材 <table border="1"><tr><td>G</td><td>使用部位( )</td></tr></table> ・ 鋼スラグ細骨材 <table border="1"><tr><td>G</td><td>使用部位( )</td></tr></table> ・ 電気炉酸化スラグ細骨材 <table border="1"><tr><td>G</td><td>使用部位( )</td></tr></table> 砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B 砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B (4) 混和材料 (a) 混和剤の種類及び適用(下記のものを使用可とする) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ A E剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 高性能減水剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 減水剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ A E減水剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 高性能A E減水剤</td> <td>単位水量の上限値を守れない場合</td> </tr> <tr> <td>・ 流動化剤</td> <td></td> </tr> </table> 促進型のは原則として使用しない。 現場にて使用する流動化剤については、施工性及び品質を考慮の上、決定すること。 (b) 混和剤の種類及び適用(下記のものを使用可とする) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ 高炉スラグ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 防水材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 膨張剤</td> <td>合成スラブ</td> </tr> </table> 上記の混和材を用いる場合には、品質及び供給の安定性を確認すること。		種類	使用箇所(コンクリート番号)	※ 普通ポルトランドセメント	1, 2, 3	・ 高炉セメントB種		G	使用部位( )	G	使用部位( )	G	使用部位( )	種類	備考	・ A E剤		・ 高性能減水剤		・ 減水剤		○ A E減水剤		○ 高性能A E減水剤	単位水量の上限値を守れない場合	・ 流動化剤		種類	備考	・ 高炉スラグ		・ 防水材		・ 膨張剤	合成スラブ	6.8.4 型枠の存置期間及び取外し (2) せき板及び支柱の最小存置期間は下表による。 <table border="1"> <tr> <th colspan="6">表6.8.2 せき板の最小存置期間</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="5">基礎、梁側、柱、壁</th> </tr> <tr> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種</th> <th>高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種</th> <th>中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント</th> <th></th> </tr> <tr> <td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td> <td>15℃以上</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>0℃以上</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>コンクリートの圧縮強度による場合</td> <td colspan="5">圧縮強度が5N/mm<sup>2</sup>以上となるまで。</td> </tr> </table> (注) 圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、6.9.3(1)(f)による工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。 6.8.3 支柱の最小存置期間 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="2">スラブ下</th> <th colspan="2">梁下</th> </tr> <tr> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種</th> <th>中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント</th> <th>左記のすべてのセメント</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td> <td>15℃以上</td> <td>8</td> <td>17</td> <td rowspan="3">28</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>12</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>0℃以上</td> <td>15</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>コンクリートの圧縮強度による場合</td> <td colspan="4">— 整理者との協議による</td> </tr> </table> 付加 片持梁、庇、長大スパンの梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱、または施工荷重が著しく大きい場合の支柱等は、存置期間の延長・2層受け等を行う事。	表6.8.2 せき板の最小存置期間						セメントの種類	基礎、梁側、柱、壁					早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種	中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント		コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	6	5℃以上	3	5	7	8	0℃以上	5	8	10	12	コンクリートの圧縮強度による場合	圧縮強度が5N/mm <sup>2</sup> 以上となるまで。					セメントの種類	スラブ下		梁下		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント	左記のすべてのセメント	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	28	5℃以上	12	25	0℃以上	15	28	コンクリートの圧縮強度による場合	— 整理者との協議による				<b>14節 無筋コンクリート</b> 6.14.1 一般事項 6.14.2 材料及び調合 <table border="1"> <tr> <th>コンクリート種類</th> <th>設計基準強度 F<sub>c</sub> (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>所要スランプ (cm)</th> <th>粗骨材の最大寸法 (mm)</th> <th>使用箇所</th> </tr> <tr> <td>※ 普通コンクリート</td> <td>※ F<sub>c</sub> 18</td> <td>※ 15・18</td> <td>※ 25</td> <td>捨てコン、押えコン</td> </tr> <tr> <td>※ 軽量コンクリート</td> <td>※ F<sub>c</sub> 18</td> <td>※ 18・21</td> <td>※ 20</td> <td></td> </tr> </table> 付加 セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 <table border="1"><tr><td>G</td><td>(捨コンクリート)</td></tr></table> 付加 呼び強度は設計基準強度以上とする。(構造体強度補正は行わない)	コンクリート種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	所要スランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所	※ 普通コンクリート	※ F <sub>c</sub> 18	※ 15・18	※ 25	捨てコン、押えコン	※ 軽量コンクリート	※ F <sub>c</sub> 18	※ 18・21	※ 20		G	(捨コンクリート)	7.6.12 溶接部の試験 <table border="1"> <tr> <th>工場の溶接の場合 A0L (%)</th> <th>※ 4.0</th> <th>・ 2.0</th> </tr> <tr> <td>節</td> <td>※ すべて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>※ 第6水準</td> <td></td> </tr> </table> <b>8節 錆止め塗装</b> 7.8.4 塗料種別 (1) ※ 標仕の表18.3.1のA種 ・ 標仕の表18.3.1のB種 ・ 塗装を行わない (2) 耐火被覆面への錆止め塗装 ※ 行わない ・ 行う(耐火被覆の付着性を損なわない仕様とする)	工場の溶接の場合 A0L (%)	※ 4.0	・ 2.0	節	※ すべて		検査水準	※ 第6水準	
種類	使用箇所(コンクリート番号)																																																																																																																															
※ 普通ポルトランドセメント	1, 2, 3																																																																																																																															
・ 高炉セメントB種																																																																																																																																
G	使用部位( )																																																																																																																															
G	使用部位( )																																																																																																																															
G	使用部位( )																																																																																																																															
種類	備考																																																																																																																															
・ A E剤																																																																																																																																
・ 高性能減水剤																																																																																																																																
・ 減水剤																																																																																																																																
○ A E減水剤																																																																																																																																
○ 高性能A E減水剤	単位水量の上限値を守れない場合																																																																																																																															
・ 流動化剤																																																																																																																																
種類	備考																																																																																																																															
・ 高炉スラグ																																																																																																																																
・ 防水材																																																																																																																																
・ 膨張剤	合成スラブ																																																																																																																															
表6.8.2 せき板の最小存置期間																																																																																																																																
セメントの種類	基礎、梁側、柱、壁																																																																																																																															
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種	中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント																																																																																																																												
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	6																																																																																																																											
	5℃以上	3	5	7	8																																																																																																																											
	0℃以上	5	8	10	12																																																																																																																											
コンクリートの圧縮強度による場合	圧縮強度が5N/mm <sup>2</sup> 以上となるまで。																																																																																																																															
セメントの種類	スラブ下		梁下																																																																																																																													
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント	左記のすべてのセメント																																																																																																																												
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	28																																																																																																																												
	5℃以上	12	25																																																																																																																													
	0℃以上	15	28																																																																																																																													
コンクリートの圧縮強度による場合	— 整理者との協議による																																																																																																																															
コンクリート種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	所要スランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所																																																																																																																												
※ 普通コンクリート	※ F <sub>c</sub> 18	※ 15・18	※ 25	捨てコン、押えコン																																																																																																																												
※ 軽量コンクリート	※ F <sub>c</sub> 18	※ 18・21	※ 20																																																																																																																													
G	(捨コンクリート)																																																																																																																															
工場の溶接の場合 A0L (%)	※ 4.0	・ 2.0																																																																																																																														
節	※ すべて																																																																																																																															
検査水準	※ 第6水準																																																																																																																															
6.3.2 コンクリートの調合 (7) 調合管理強度は、設計基準強度 F <sub>c</sub> に、下表に示す構造体強度補正值 (S) を加えた値以上、かつ、品質に関する規定を満たすものとする。 構造体強度補正值 (S) は下表により、セメントの種類及びコンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。 <table border="1"> <tr> <th colspan="3">表6.3.2 構造体強度補正值 (S) の標準値</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th>コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)</th> <th>S</th> </tr> <tr> <td>普通ポルトランドセメント</td> <td rowspan="2">0 ≤ θ &lt; 8</td> <td rowspan="2">8 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントA種</td> </tr> <tr> <td>シリカセメントA種</td> <td rowspan="2">0 ≤ θ &lt; 5</td> <td rowspan="2">5 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントA種</td> </tr> <tr> <td>早強ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 11</td> <td>11 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 14</td> <td>14 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 13</td> <td>13 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 9</td> <td>9 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 6</td> <td>6 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>普通エコセメント</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> </table>		表6.3.2 構造体強度補正值 (S) の標準値			セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)	S	普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	高炉セメントA種	シリカセメントA種	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ	フライアッシュセメントA種	早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ	中炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ	低炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ	高炉セメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ	フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ	普通エコセメント	6	3	9節 試験等 6.9.3 コンクリートの強度試験 <table border="1"> <tr> <th>試験体の養生方法</th> <th>標準養生</th> <th>※ 工事現場における水中養生</th> <th>・ 工事現場における封かん養生</th> </tr> </table> <b>10節 軽量コンクリート</b> 6.10.2 付加 種類及び品質 (1) 軽量コンクリートの種別 ・ 1種 気乾単位容積質量 ( ) t/m <sup>3</sup> ・ 2種 気乾単位容積質量 ( ) t/m <sup>3</sup>	試験体の養生方法	標準養生	※ 工事現場における水中養生	・ 工事現場における封かん養生	<b>7章 鉄骨工事</b> 7.1.3 付加 鉄骨製作工場 ※ 建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める(M)グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場	<b>8節 耐火被覆</b> 7.9.3 付加 耐火被覆材の使用 ※ 有 ・ 無 耐火被覆の性能、品質等 ※ 所要性能及び適用箇所は建築特記による。																																																																																								
表6.3.2 構造体強度補正值 (S) の標準値																																																																																																																																
セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)	S																																																																																																																														
普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ																																																																																																																														
高炉セメントA種																																																																																																																																
シリカセメントA種	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ																																																																																																																														
フライアッシュセメントA種																																																																																																																																
早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ																																																																																																																														
中炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ																																																																																																																														
低炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ																																																																																																																														
高炉セメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ																																																																																																																														
フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ																																																																																																																														
普通エコセメント	6	3																																																																																																																														
試験体の養生方法	標準養生	※ 工事現場における水中養生	・ 工事現場における封かん養生																																																																																																																													
<b>8節 型枠</b> 6.8.1 型枠一般 (4) 外部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ ※ 20mm ・ 25mm ・ 10mm ・ mm (5) ひび割れ誘発目地 位置 ※ 意匠図による 寸法 ※ 標仕 [9.7.3(1)(ア)] による ・ 設計図による 内部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ 仕上げの無い内壁・柱型 ※ 10mm ・ ( ) mm 免震、配管ピット壁・柱型、ELVシャフト ※ 0mm ・ ( ) mm 床 ※ 10mm ・ 15mm ・ ( ) mm		6.12.2 材料及び調合 13節 マスコンクリート 6.13.1 一般事項 付加 (2) マスコンクリートの適用場所 ・ 設計図による 設計図に記載がない場合でも、現場にて施工性を考慮の上、断面が大きくなるような処置を行う場合は、本項に従うこととする。目安として、壁状部材で800mm以上、マット状・柱状部材で1000mm以上を目安とする。	<b>10節 工事現場施工</b> 7.10.3 アンカーボルトの設置等 (2) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法 ※ 図示による (3) 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 ※ A種 ・ B種 (5) 柱底均しモルタル 厚さ ※ 図示による 種別 ※ A種 ・ B種																																																																																																																													
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.11.1 一般事項 (2) 寒中コンクリートの適用期間は、(JASSIによる)。 <b>11節 寒中コンクリート</b> 6.12.1 一般事項 (3) 構造体強度補正值 (S) は、6 N/mm <sup>2</sup> とする。 <b>12節 暑中コンクリート</b> 材料及び調合 13節 マスコンクリート 6.13.1 一般事項 付加 (2) マスコンクリートの適用場所 ・ 設計図による 設計図に記載がない場合でも、現場にて施工性を考慮の上、断面が大きくなるような処置を行う場合は、本項に従うこととする。目安として、壁状部材で800mm以上、マット状・柱状部材で1000mm以上を目安とする。	<b>11節 鋼材</b> 7.2.1 鋼材の種類等 <table border="1"> <tr> <th>適用規格番号</th> <th>種類の記号</th> <th>規格名称等</th> </tr> <tr> <td>JIS G 3101</td> <td>SS400, SS490, SS540</td> <td>一般構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3106</td> <td>SM400, SM490, SM520</td> <td>溶接構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3114</td> <td>SMA400, SMA490</td> <td>溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3136</td> <td>SM400, SM490</td> <td>建築構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3138</td> <td>SMR400, SMR490</td> <td>建築構造用圧延棒鋼</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3350</td> <td>SSC400</td> <td>一般構造用軽量形鋼</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3444</td> <td>STK400, STK490</td> <td>一般構造用炭素鋼鋼管</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3466</td> <td>STKR400, STKR490</td> <td>一般構造用角形鋼管</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3475</td> <td>STKM400, STKM490</td> <td>建築構造用炭素鋼鋼管</td> </tr> </table> 付加 鋼材は、原則として高炉材もしくは不純物を適正に管理された電炉材を使用する。ただし、溶接を伴わない小梁等の材料については、一般的な電炉材の使用も可とする。 付加 ※ 炭素当量などによる鋼材の区分は特記による。 付加 ※ 鋼材は、原則として高炉材もしくは不純物を適正に管理された電炉材を使用する。ただし、溶接を伴わない小梁等の材料については、一般的な電炉材の使用も可とする。	適用規格番号	種類の記号	規格名称等	JIS G 3101	SS400, SS490, SS540	一般構造用圧延鋼材	JIS G 3106	SM400, SM490, SM520	溶接構造用圧延鋼材	JIS G 3114	SMA400, SMA490	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材	JIS G 3136	SM400, SM490	建築構造用圧延鋼材	JIS G 3138	SMR400, SMR490	建築構造用圧延棒鋼	JIS G 3350	SSC400	一般構造用軽量形鋼	JIS G 3444	STK400, STK490	一般構造用炭素鋼鋼管	JIS G 3466	STKR400, STKR490	一般構造用角形鋼管	JIS G 3475	STKM400, STKM490	建築構造用炭素鋼鋼管																																																																																															
適用規格番号	種類の記号	規格名称等																																																																																																																														
JIS G 3101	SS400, SS490, SS540	一般構造用圧延鋼材																																																																																																																														
JIS G 3106	SM400, SM490, SM520	溶接構造用圧延鋼材																																																																																																																														
JIS G 3114	SMA400, SMA490	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材																																																																																																																														
JIS G 3136	SM400, SM490	建築構造用圧延鋼材																																																																																																																														
JIS G 3138	SMR400, SMR490	建築構造用圧延棒鋼																																																																																																																														
JIS G 3350	SSC400	一般構造用軽量形鋼																																																																																																																														
JIS G 3444	STK400, STK490	一般構造用炭素鋼鋼管																																																																																																																														
JIS G 3466	STKR400, STKR490	一般構造用角形鋼管																																																																																																																														
JIS G 3475	STKM400, STKM490	建築構造用炭素鋼鋼管																																																																																																																														
6.8.1 型枠一般 (4) 外部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ ※ 20mm ・ 25mm ・ 10mm ・ mm (5) ひび割れ誘発目地 位置 ※ 意匠図による 寸法 ※ 標仕 [9.7.3(1)(ア)] による ・ 設計図による 内部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ 仕上げの無い内壁・柱型 ※ 10mm ・ ( ) mm 免震、配管ピット壁・柱型、ELVシャフト ※ 0mm ・ ( ) mm 床 ※ 10mm ・ 15mm ・ ( ) mm		6.13.1 一般事項 付加 (2) マスコンクリートの適用場所 ・ 設計図による 設計図に記載がない場合でも、現場にて施工性を考慮の上、断面が大きくなるような処置を行う場合は、本項に従うこととする。目安として、壁状部材で800mm以上、マット状・柱状部材で1000mm以上を目安とする。	<b>12節 高力ボルト</b> 7.2.2 高力ボルト (1) 高力ボルト ※ トルシア高力ボルト S10T (国土交通大臣認定) ・ JIS高力ボルト F10T 2種 ※ 溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 1種																																																																																																																													
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.13.2 材料及び調合 (1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。 (2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( ) 混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(f)を適用すること。 (5) スランプ ※ 15cm ・ cm (6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。 <table border="1"> <tr> <th colspan="5">表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="4">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> *暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。	表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値					セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)				・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6	<b>13節 高力ボルト接合</b> 7.4.2 摩擦面の性能及び処理 ※ 行わない ・ 行う(試験方法: ) <b>6節 溶接接合</b> 7.6.3 付加 技量付加試験 溶接作業を行う技能資格者 ※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。 ・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。																																																																																					
表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値																																																																																																																																
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																																																															
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—																																																																																																																												
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—																																																																																																																												
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6																																																																																																																												
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.13.2 材料及び調合 (1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。 (2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( ) 混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(f)を適用すること。 (5) スランプ ※ 15cm ・ cm (6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。 <table border="1"> <tr> <th colspan="5">表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="4">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> *暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。	表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値					セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)				・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6	<b>14節 高力ボルト接合</b> 7.4.2 摩擦面の性能及び処理 ※ 行わない ・ 行う(試験方法: ) <b>6節 溶接接合</b> 7.6.3 付加 技量付加試験 溶接作業を行う技能資格者 ※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。 ・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。																																																																																					
表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値																																																																																																																																
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																																																															
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—																																																																																																																												
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—																																																																																																																												
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6																																																																																																																												
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.13.2 材料及び調合 (1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。 (2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( ) 混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(f)を適用すること。 (5) スランプ ※ 15cm ・ cm (6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。 <table border="1"> <tr> <th colspan="5">表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="4">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> *暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。	表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値					セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)				・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6	<b>15節 高力ボルト接合</b> 7.4.2 摩擦面の性能及び処理 ※ 行わない ・ 行う(試験方法: ) <b>6節 溶接接合</b> 7.6.3 付加 技量付加試験 溶接作業を行う技能資格者 ※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。 ・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。																																																																																					
表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値																																																																																																																																
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																																																															
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—																																																																																																																												
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—																																																																																																																												
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6																																																																																																																												
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.13.2 材料及び調合 (1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。 (2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( ) 混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(f)を適用すること。 (5) スランプ ※ 15cm ・ cm (6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。 <table border="1"> <tr> <th colspan="5">表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="4">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> *暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。	表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値					セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)				・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6	<b>16節 高力ボルト接合</b> 7.4.2 摩擦面の性能及び処理 ※ 行わない ・ 行う(試験方法: ) <b>6節 溶接接合</b> 7.6.3 付加 技量付加試験 溶接作業を行う技能資格者 ※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。 ・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。																																																																																					
表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値																																																																																																																																
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																																																															
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—																																																																																																																												
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—																																																																																																																												
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6																																																																																																																												
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.13.2 材料及び調合 (1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。 (2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( ) 混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(f)を適用すること。 (5) スランプ ※ 15cm ・ cm (6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。 <table border="1"> <tr> <th colspan="5">表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="4">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> *暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。	表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値					セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)				・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6	<b>17節 高力ボルト接合</b> 7.4.2 摩擦面の性能及び処理 ※ 行わない ・ 行う(試験方法: ) <b>6節 溶接接合</b> 7.6.3 付加 技量付加試験 溶接作業を行う技能資格者 ※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。 ・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。																																																																																					
表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値																																																																																																																																
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																																																															
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—																																																																																																																												
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—																																																																																																																												
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6																																																																																																																												
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.13.2 材料及び調合 (1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。 (2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( ) 混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(f)を適用すること。 (5) スランプ ※ 15cm ・ cm (6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。 <table border="1"> <tr> <th colspan="5">表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="4">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> *暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。	表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値					セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)				・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6	<b>18節 高力ボルト接合</b> 7.4.2 摩擦面の性能及び処理 ※ 行わない ・ 行う(試験方法: ) <b>6節 溶接接合</b> 7.6.3 付加 技量付加試験 溶接作業を行う技能資格者 ※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。 ・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。																																																																																					
表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値																																																																																																																																
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																																																															
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—																																																																																																																												
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—																																																																																																																												
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6																																																																																																																												
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.13.2 材料及び調合 (1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。 (2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( ) 混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(f)を適用すること。 (5) スランプ ※ 15cm ・ cm (6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。 <table border="1"> <tr> <th colspan="5">表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="4">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> *暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。	表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値					セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)				・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6	<b>19節 高力ボルト接合</b> 7.4.2 摩擦面の性能及び処理 ※ 行わない ・ 行う(試験方法: ) <b>6節 溶接接合</b> 7.6.3 付加 技量付加試験 溶接作業を行う技能資格者 ※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。 ・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。																																																																																					
表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値																																																																																																																																
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																																																															
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—																																																																																																																												
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—																																																																																																																												
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6																																																																																																																												
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.13.2 材料及び調合 (1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。 (2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( ) 混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(f)を適用すること。 (5) スランプ ※ 15cm ・ cm (6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。 <table border="1"> <tr> <th colspan="5">表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="4">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> <td>暑中期間*</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> *暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。	表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値					セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)				・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6	<b>20節 高力ボルト接合</b> 7.4.2 摩擦面の性能及び処理 ※ 行わない ・ 行う(試験方法: ) <b>6節 溶接接合</b> 7.6.3 付加 技量付加試験																																																																																					
表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値																																																																																																																																
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																																																															
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—																																																																																																																												
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—																																																																																																																												
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間*																																																																																																																												
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6																																																																																																																												





1階柱梁・1階梁床伏図 1/100

特記なき限り下記による

1. 1FL=GL+350=24.20

2. 一般スラブ FS1

一般スラブ天端 1FL-350

1FL-100

3. 一般壁 W18

4. 基礎梁天端 1FL-350

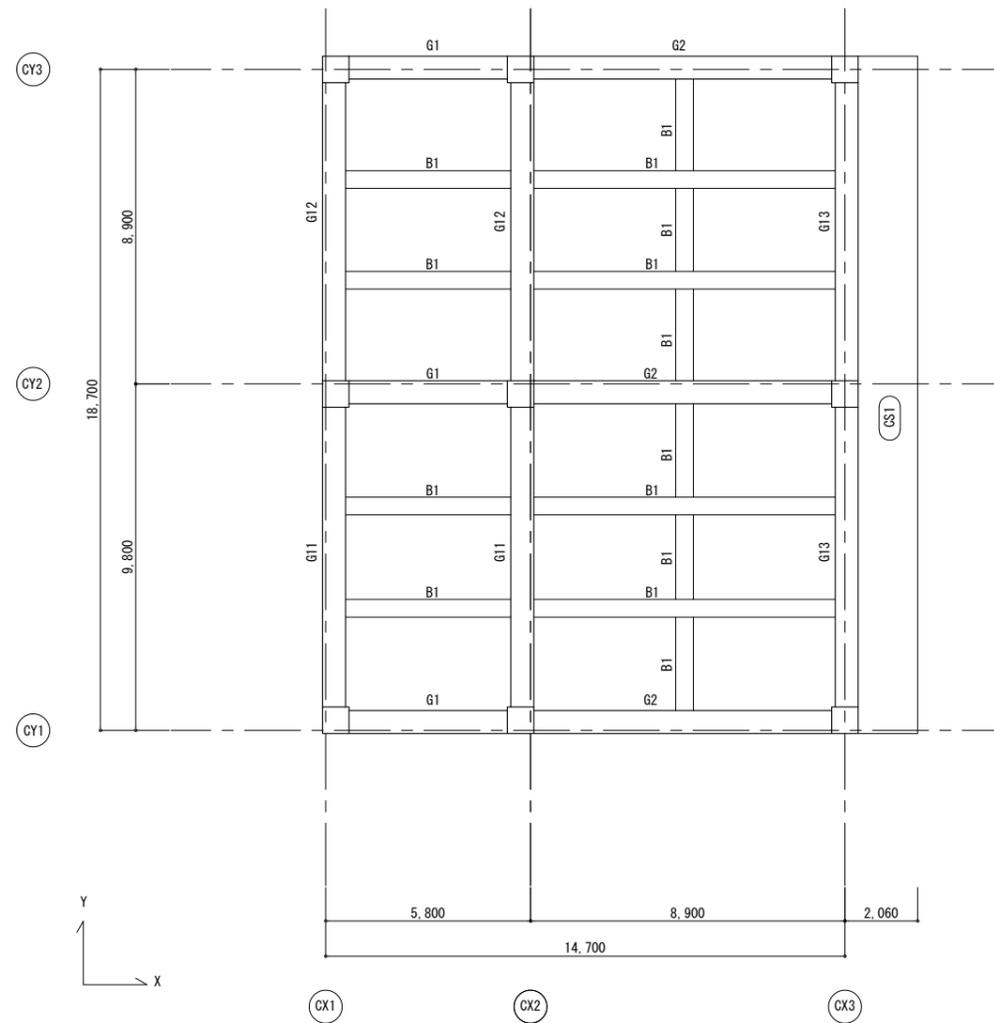
( )内数値は、1FLからの梁天端レベルを示す。

5. フレーム内のスリットは軸組図による。

6. 必要地耐力(長期) : 50kN/m<sup>2</sup>

平板載荷試験を行い上記必要地耐力を確認すること。

必要地耐力を確認できない場合は、地盤改良を行い必要地耐力を確保すること。



R階梁床伏図 1/100

特記なき限り下記による

1. 一般スラブ S1

2. 梁天端 屋根勾配による

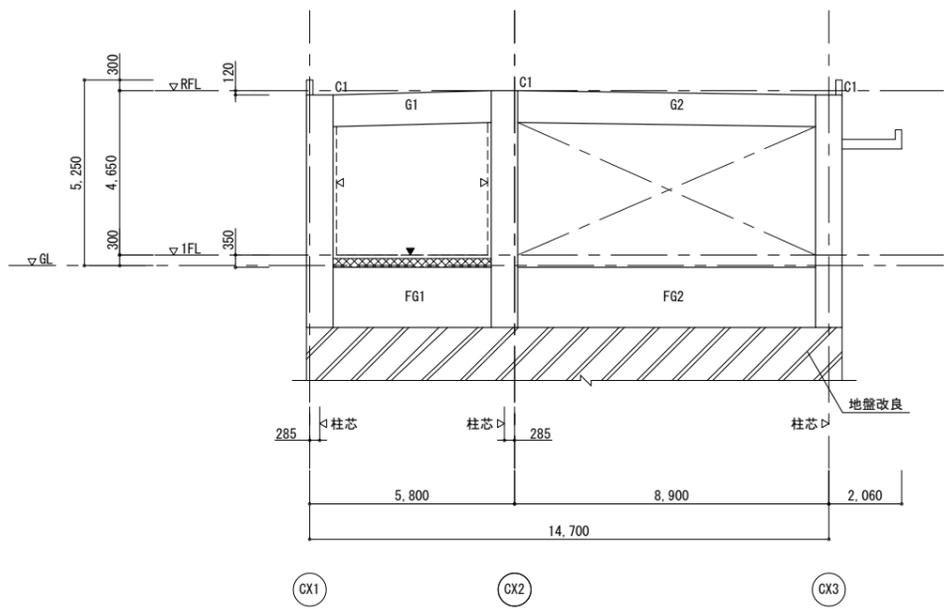
( )内数値は、RFLからの梁天端レベルを示す。

3. 一般スラブ天端 屋根勾配による

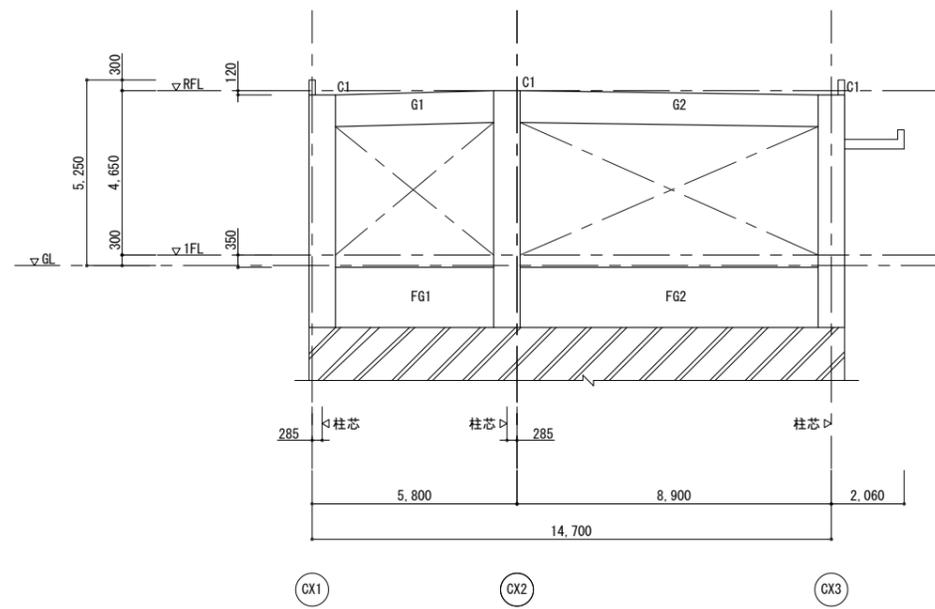
4. は、スラブ勾配を示す。

< >内数値は、RFLからのスラブ天端レベルを示す。

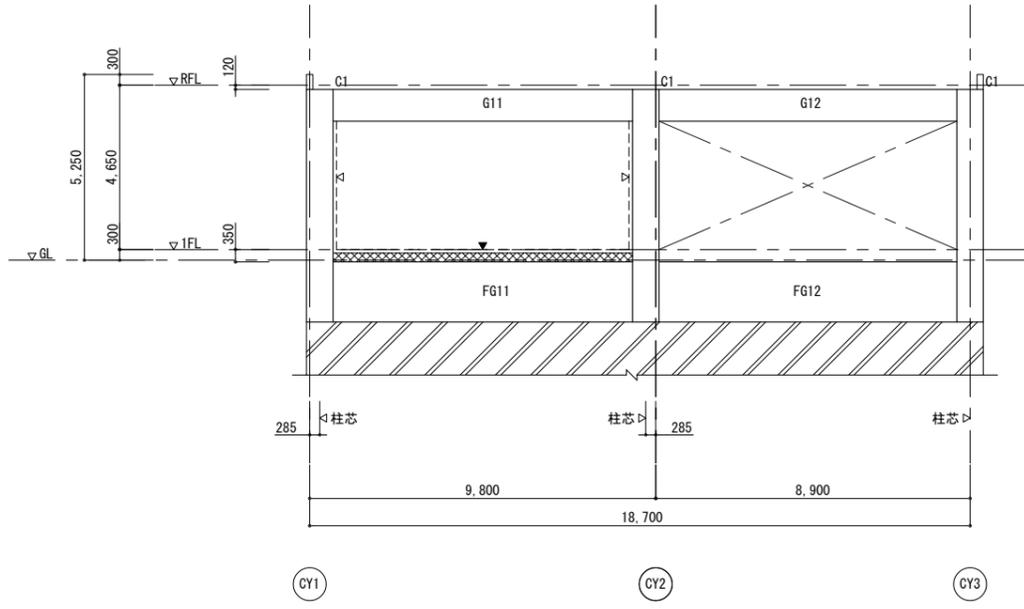
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)			図面名称	1階柱梁床伏図、R階梁床伏図 (車寄せ庇2-1)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	【A1】 1/100	【A3】 1/200	図面番号	S - 310
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和 7 年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要					所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	製図		一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
				一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号	
				一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	



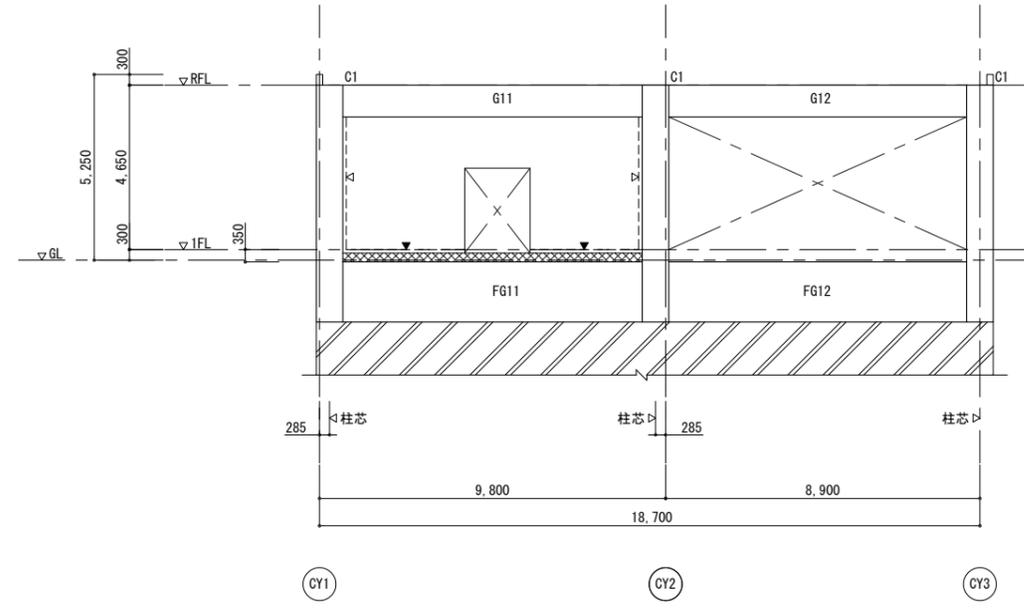
CY1, CY2通軸組図 1/100



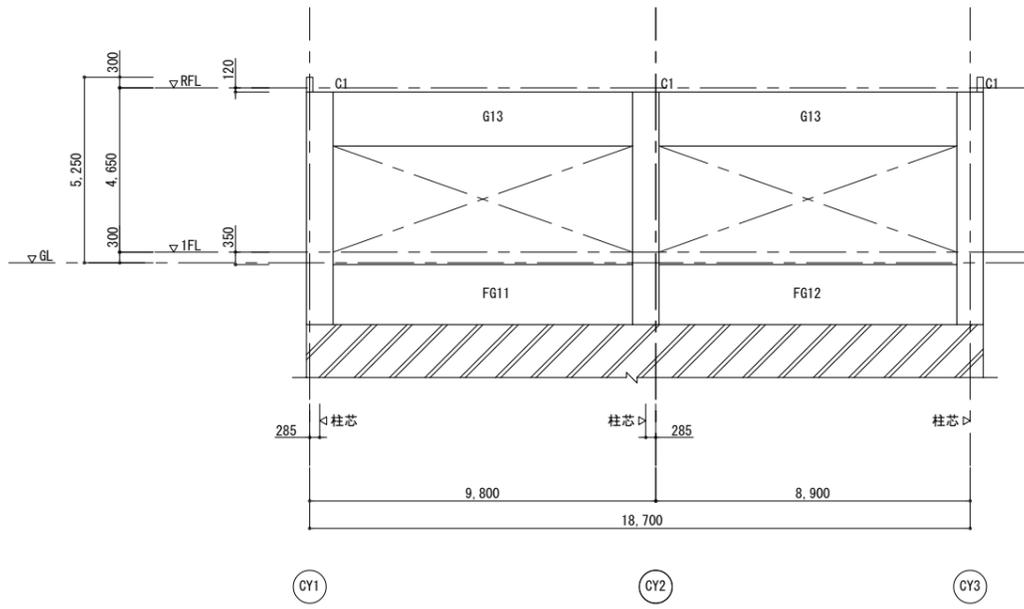
CY3通軸組図 1/100



CX1通軸組図 1/100



CX2通軸組図 1/100



CX3通軸組図 1/100

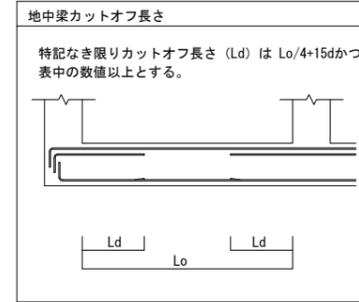
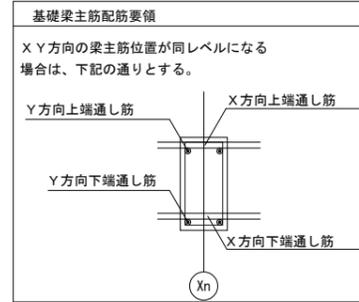
- 特記なき限り下記による
1. 一般壁 W18
  2. 地中梁天端 1FL-350
  3. ◁ 鉛直スリットを示す。  
▼ 水平スリットを示す。
  4. 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	軸組図(車寄せ庇2-1)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/100 【A3】1/200	図面番号	S-311	
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体			
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第1-12326号	
摘要		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16			
検印	管理建築士	設計製図	一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
			一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
			一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

基礎梁リスト 1/50

特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

符号	FG1	FG2	FG11	FG12
位置	全断面	全断面	全断面	全断面
断面				
B×D	650×1,700	650×1,700	650×1,700	650×1,700
上端筋	8-D25	9-D25	8-D25	8-D25
下端筋	11-D25	11-D25	10-D25	10-D25
あばら筋	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150
腹筋	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13



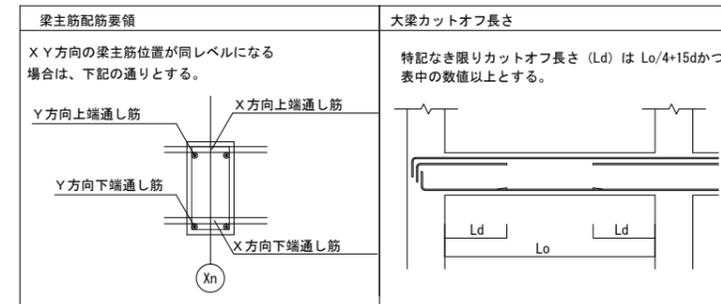
柱リスト 1/50

階	符号	C1
1階	断面	
	Dx×Dy	750×750
	主筋	14-D25
	フープ	□-D13@100

大梁リスト 1/50

特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

階	符号	G1	G2	G11			G12			G13
		全断面	全断面	CY1端	中央	CY2端	CY2端	中央	CY3端	全断面
R階	断面									
	B×D	650×900	650×900	650×900			650×900			650×1,530
	上端筋	6-D25	6-D25	7-D25	6-D25	11-D25	11-D25	6-D25	7-D25	7-D25
	下端筋	6-D25	6-D25	8-D25	10-D25	8-D25	8-D25	9-D25	7-D25	6-D25
	スーラップ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100			□-D13@150			□-D13@150
	腹筋	4-D10	4-D10	4-D10			4-D10			8-D10



小梁リスト 1/50

特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

符号	B1	
	端部	中央
位置	端部	中央
断面		
B×D	500×800	
上端筋	7-D22	5-D22
下端筋	5-D22	7-D22
スーラップ	□-D13@200	
腹筋	2-D10	

床版リスト

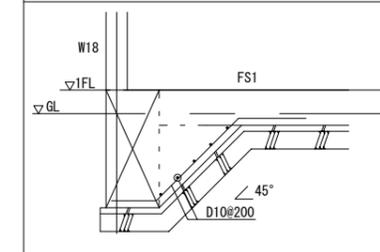
名称	厚さ	位置	短辺 (主筋方向)		長辺 (配力筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S1	150	上端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
CS1	250	上端筋	D13@100	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D10@100	同左	D10@200	同左	
FS1	400	上端筋	D16@100	同左	D16@100	同左	
		下端筋	D16@100	同左	D16@100	同左	

壁リスト 1/50

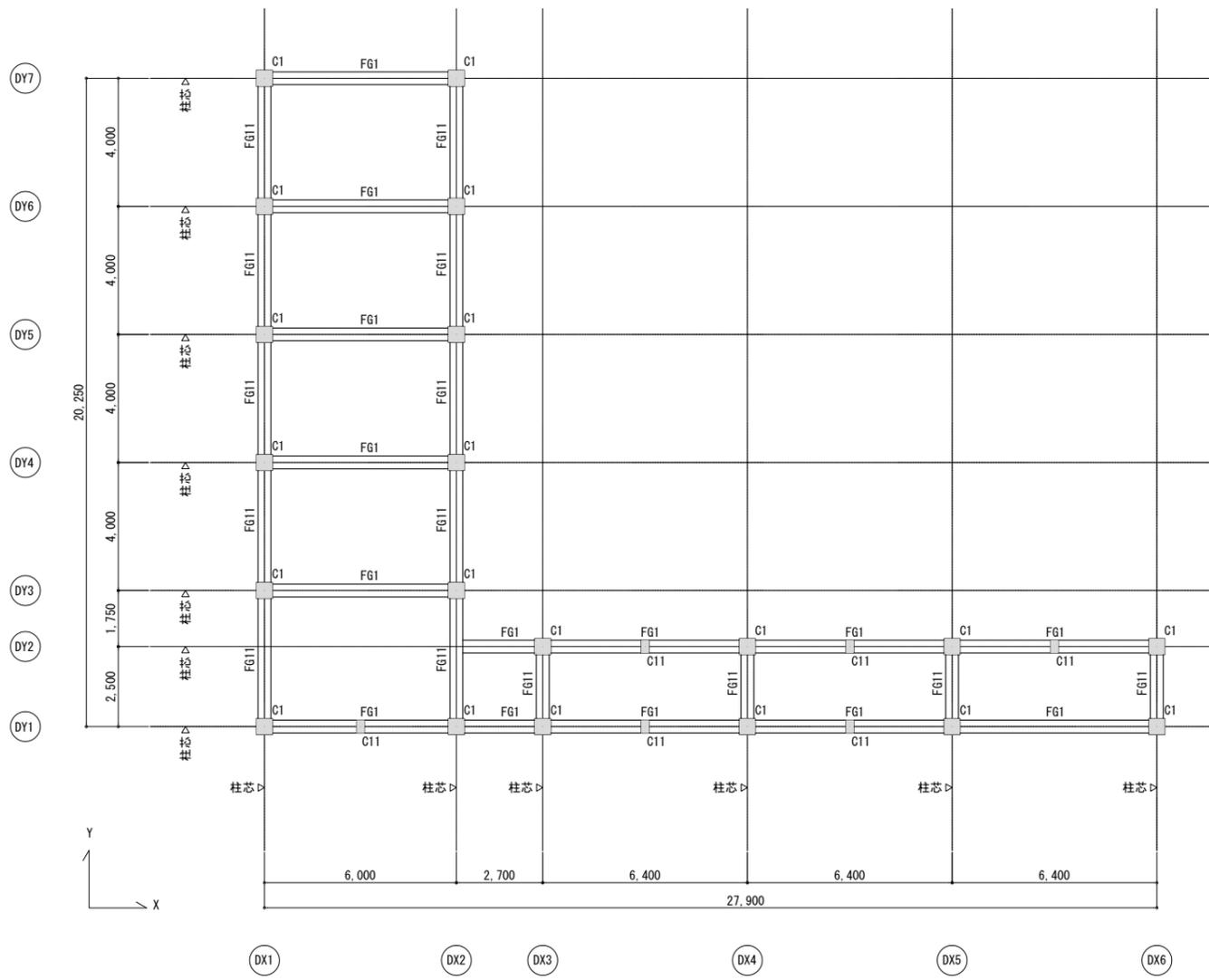
巾止め筋 D10@1000

符号	W18	開口補強筋要領
断面		
厚さ	180	
縦筋	D10@200 ダブル	
横筋	D10@200 ダブル	
開口補強筋	縦筋	2-D13
	横筋	2-D13
	斜筋	1-D13

スラブ端部配筋詳細図 1/30

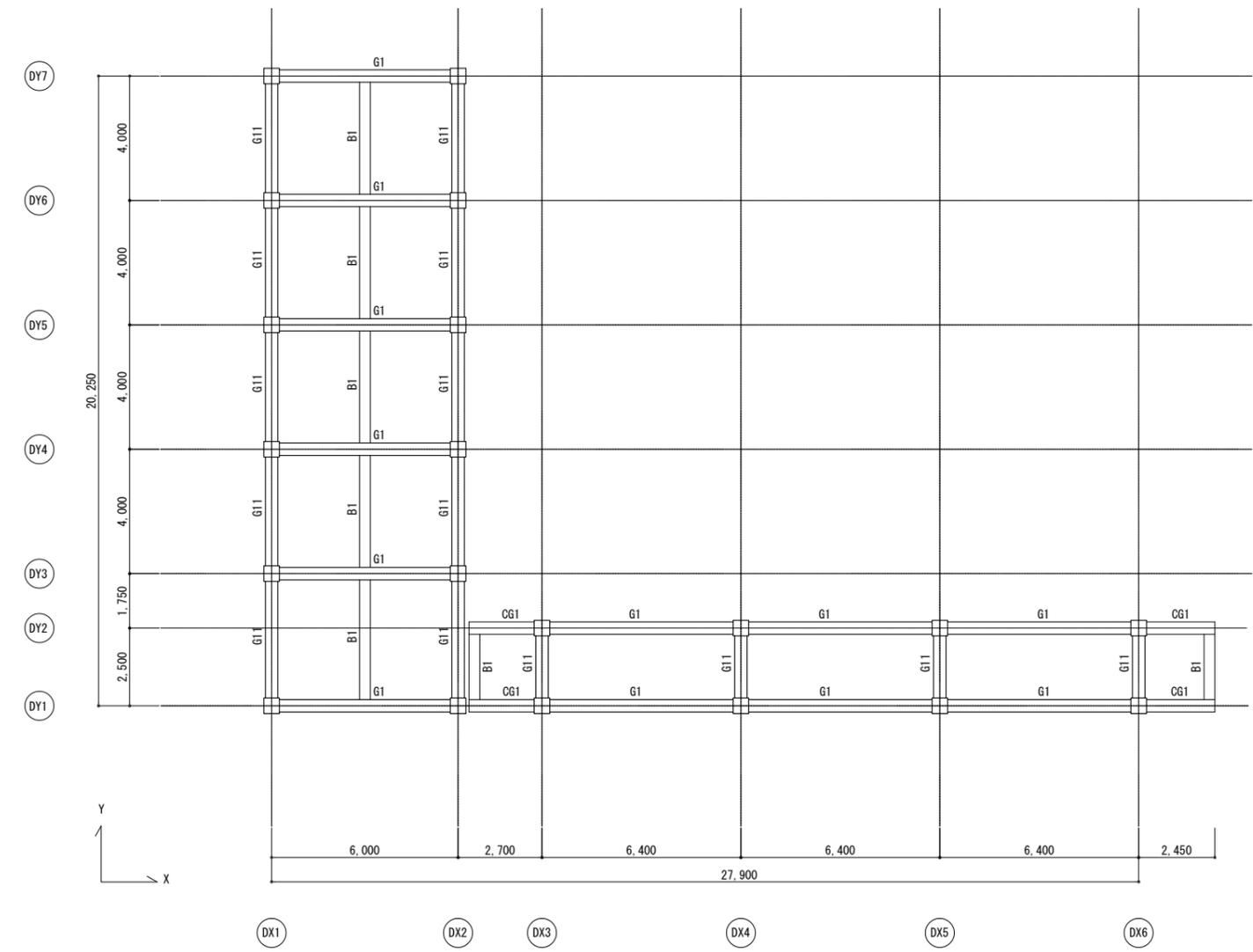


工事名称	図面名称			
	部材リスト (車寄せ庇2-1)	縮尺	[A1] 1/50	[A3] 1/100
工事場所	公共沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面番号	S-312	
発注機関	沖縄県名護市大北1丁目15-9	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録第1-12326号
摘要	管理建築士 設計 製図	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
		一級建築士	山田 剛	登録番号 登録第310062号
		一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号 登録第33522号 第9280号
		一級建築士	丸山 茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号
検印				



1階柱梁・1階梁床伏図 1/100

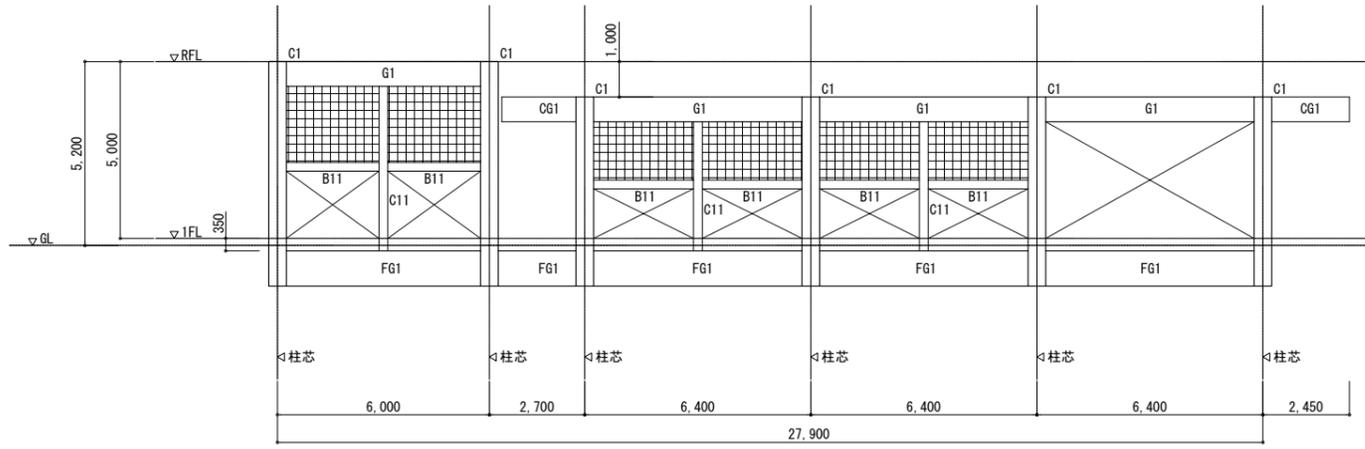
- 特記なき限り下記による
1. IFL=GL+200=24.20
  2. 一般スラブ FS1  
一般スラブ天端 IFL-350
  3. 一般壁 W18
  4. 基礎梁天端 IFL-350  
( )内数値は、IFLからの梁天端レベルを示す。
  5. フレーム内のスリットは軸組図による。
  6. 必要地耐力(長期) : 60kN/m<sup>2</sup>  
平板載荷試験を行い上記必要地耐力を確認すること。  
必要地耐力を確認できない場合は、地盤改良を行い必要地耐力を確保すること。



2階梁床伏図 1/100

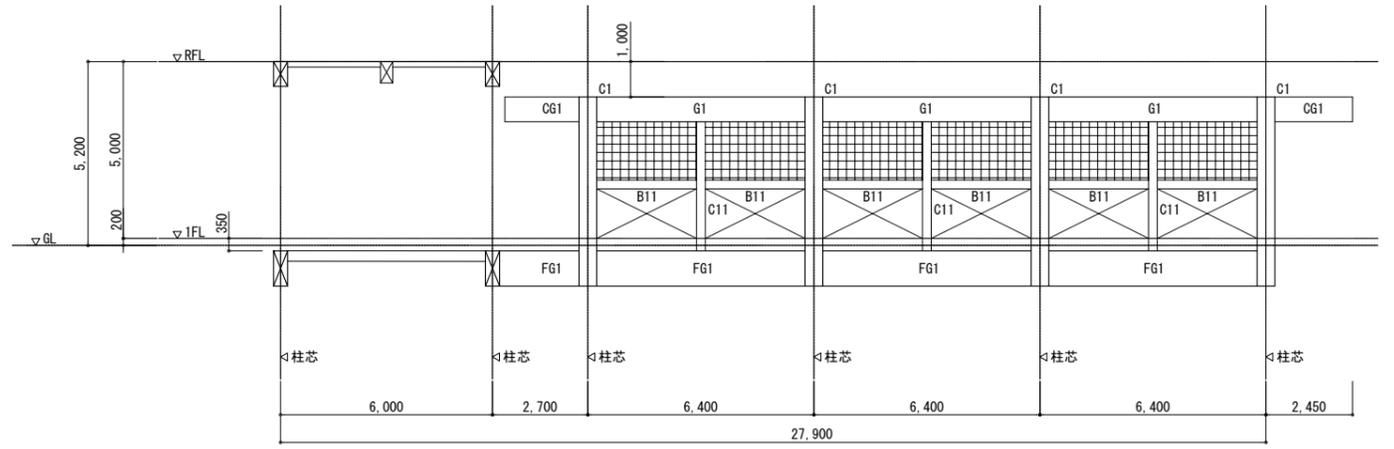
- 特記なき限り下記による
1. 一般スラブ S1
  2. 梁天端 屋根勾配による  
( )内数値は、RFLからの梁天端レベルを示す。
  3. 一般スラブ天端 屋根勾配による
  4. は、スラブ勾配を示す。  
< >内数値は、RFLからのスラブ天端レベルを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)			図面名称	1階柱梁床伏図、2階梁床伏図 (車寄せ庇2-2)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	【A1】 1/100 【A3】 1/200	図面番号	S - 315	
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第1-12326号
摘要					所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	製図		一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
				一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号	
				一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	



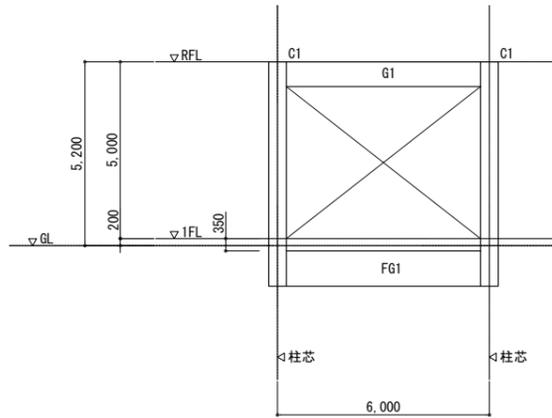
DX1 DX2 DX3 DX4 DX5 DX6

DY1通軸組図 1/100



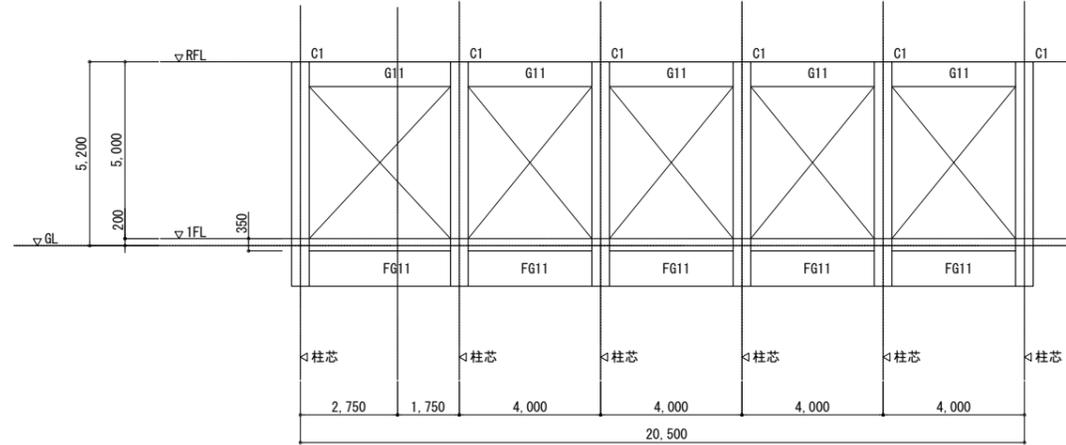
DX1 DX2 DX3 DX4 DX5 DX6

DY2通軸組図 1/100



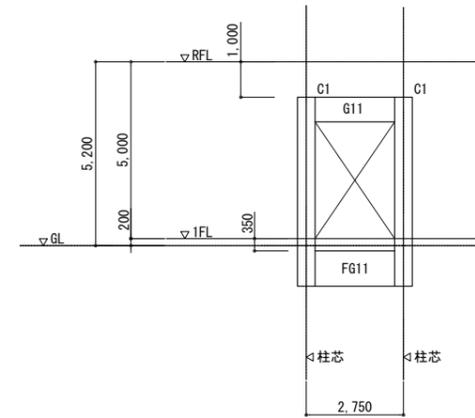
DX1 DX2

DY3~7通軸組図 1/100



DY1 DY2 DY3 DY4 DY5 DY6 DY7

DY1,2通軸組図 1/100



DY1 DY2

DY3~7通軸組図 1/100

特記なき限り下記による

1. 一般壁 W18
2. 地中梁天端 1FL-350
3. 増打コンクリートを示す。

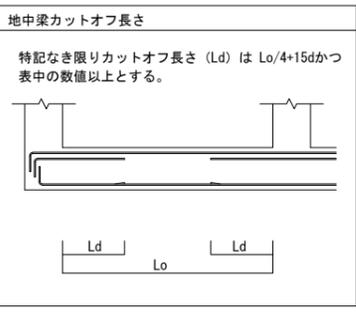
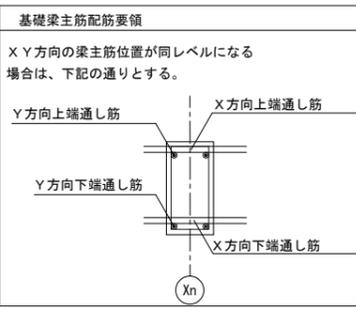
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)		図面名称	軸組図 (車寄せ庇2-1)				
	工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】 1/100 【A3】 1/200	図面番号 S - 316			
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体					
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号			
摘要	管理建築士	設計	製	図	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
					一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
					一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
					一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

柱リスト 1/50

階	符号	C1	C11
1階	断面		
	Dx × Dy	500 × 500	400 × 250
	主筋	8-D22	6-D19
	フープ	□-D13@100	□-D10@100

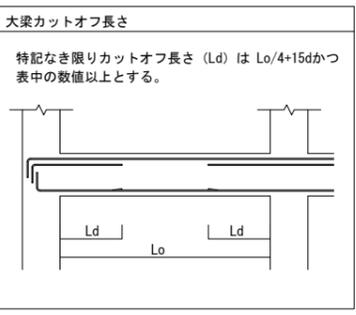
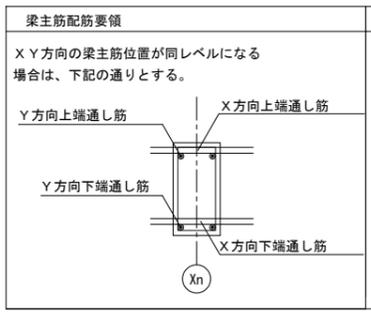
基礎梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

符号	FG1	FG11
位置	全断面	全断面
断面		
B × D	400 × 1,000	400 × 1,000
上端筋	6-D22	6-D22
下端筋	4-D22	4-D22
あばら筋	□-D13@200	□-D13@200
腹筋	4-D13	4-D13



大梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

階	符号	G1	G11
R階	位置	全断面	全断面
	断面		
	B × D	400 × 700	400 × 700
	上端筋	4-D22	4-D22
	下端筋	4-D22	4-D22
	スタップ	□-D13@200	□-D13@200
	腹筋	2-D10	2-D10

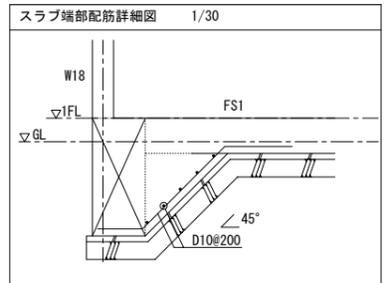


小梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

符号	B1	B11	CG1
位置	全断面	全断面	全断面
断面			
B × D	300 × 600	400 × 250	400 × 700
上端筋	3-D19	3-D19	4-D22
下端筋	3-D19	3-D19	4-D22
スタップ	□-D10@200	□-D10@200	□-D13@200
腹筋	2-D10	-	2-D10

床版リスト

名称	厚さ	位置	短辺 (主筋方向)		長辺 (配力筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S1	150	上端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
FS1	300	上端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	
		下端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	



工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	部材リスト (車寄せ庇2-1)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1] 1/50 [A3] 1/100	図面番号	S - 317	
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計者	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号
摘要			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士		一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
	設計		二級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
	製図	三級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	

**建築物の構造概要**

(1) 工事名称 公立沖縄北部医療センター新築工事（車寄せ庇3-1）  
 建築場所 沖縄県名護市大北1丁目15-9他

(2) 設計年月 令和7年3月

(3) 工事種別 新築 増築 増改築 改築

(4) 構造種別 鉄筋コンクリート造（RC造）

(5) 構造形式 ラーメン構造

(6) 基礎形式 直接基礎（べた基礎）

(7) 階数  
地上 1 階 地下   階 塔屋   階

(8) 主要用途 病院

(9) 構造計算ルート  
ルート1（ ルート1-1 ルート1-2 ） 限界耐力計算又は同等以上の構造計算  
ルート2（ ルート2-1 ルート2-2 ） 時刻歴応答解析  
ルート3 その他

(10) 重要度係数等の考慮の有無  
無  
有（1.5（Ⅰ類） 1.25（Ⅱ類） 1.0（Ⅲ類） ）  
（その他： ）

**特記仕様書の適用**

1. 標準仕様  
 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下、標仕という。）による。

2. 特記仕様  
 (1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。  
 特記事項は、○印の付いたものを適用する。  
印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。  
印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。

(2) 各章の章、節、項の番号は、標仕の当該番号に対応する。

(3) (表 ) (図 ) の番号は標仕の当該表または図の番号を表す。

(4) □印は「図等による環境物品等の調達推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特記調達品目を示す。

(5) 図中の「付加」は、標仕にない特記事項を示す。

**4章 地業工事**

**2節 試験及び報告書**

・4.2.2 試験杭  
 (1) 試験杭の位置及び本数 ※ 最初の1本 ・ 設計図による  
 試験杭の杭長は本杭と同じとする。

・4.2.3 杭の載荷試験  
 (1) 鉛直載荷試験 ※ 行わない ・ 行う（次による）  
 水平載荷試験 ※ 行わない ・ 行う（次による）  
 鉛直載荷試験： 杭径（ φ ） 個所数（ カ所） 最大載荷荷重（ kN ）  
 水平載荷試験： 杭径（ φ ） 個所数（ カ所） 最大載荷荷重（ kN ）  
 (2) (3) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。

・4.2.4 地盤の載荷試験  
 (1) 平板載荷試験 ※ 行わない ○ 行う（次による）  
 (2) 個所数（各棟1カ所） 試験深さ（2FL- 0.7 m）  
 対象地盤（粘土混じりシルト層） 最大載荷荷重（180 kN/m<sup>2</sup>）  
 (4) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。

**3節 既製コンクリート杭地業**

・4.3.3 材料  
 (1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※ 設計図による  
 (2) 先端部形状 ※ 開放型 ・ 閉塞平たん形

・4.3.4 セメントミルク工法  
 (1) 根固め液の使用 ※ あり ・ なし  
 杭周固定液の使用 ※ あり ・ なし  
 (6) アースオーガーの支持地盤への掘削深さ 1.5m 程度  
 ※ 杭先端深さ 支持層より 1.0m以上  
 ※ 杭の高止まり 0.5m以下

・4.3.5 特定埋込杭工法  
 (1) 工法 ・ ブレポーリング拡大根固め工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 ・ その他（ ）  
 杭周固定液 ※ 使用する ・ 使用しない

・4.3.6 継手  
 (1) 杭の継手 ・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手 ・ 溶接継手

・4.3.8 杭頭の処理等  
 (1) 杭頭処理 ※ 切断しない ・ 切断する  
 ネガティブフリクション対策 ※ 無 ・ 有（設計図による）  
 杭頭補強筋は、設計図による。

**4節 鋼杭地業**

・4.4.1 一般事項  
 工法 ・ 特定埋込杭工法（ 工法）

・4.4.3 材料  
 (1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※ 設計図による

・4.4.5 継手  
 (1) 杭の継手 ・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手 ・ 溶接継手

・4.4.6 杭頭の処理等  
 4.3.8による

**5節 場所打ちコンクリート杭地業**

・4.5.1 一般事項  
 (2) 工法 ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 ・ その他（ ）

・4.5.4 材料その他  
 (1) 鉄筋 5章による  
 ※ 高炉セメント ・ その他（ ）  
 (2) コンクリート ※ 設計基準強度 N/mm<sup>2</sup>  
 ・ A種 ※ B種  
 コンクリートの強度補正 設計基準強度を満足させるよう定める  
 杭径・杭長・長期許容支持力 ※ 設計図による  
 鋼管の使用 ※ なし ・ あり

・4.5.5 アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法  
 (3) 超音波測定器による孔壁測定 ・ 行う ・ 行わない

**6節 砂利、砂、捨コンクリート地業等**

○4.6.2 材料  
 (1) 砂利地業の材料 ※ 再生クラッシュラン ・ 切込み砂利及び切込み砕石

○4.6.3 砂利及び砂地業  
 (1) ○ 直接基礎床板下 ※ 60mm ・ 100mm ・ 150mm  
 ・ 基礎床板下 ※ 60mm  
 ○ 基礎梁下 ※ 60mm  
 ○ 土間スラブ下<sup>注)</sup> ○ 60mm ・ 100mm ・ 150mm  
 注)「土間スラブ」は、土に接する構造スラブのことをいう。  
 ○ 土間コンクリート下 ・ 150mm ○ 100mm

○4.6.4 捨コンクリート  
 (1) 厚さ ※ 60mm ・ その他（ ）  
 (2) (1)以外の項目は6章14節による。  
 ・ 土間スラブ下<sup>注)</sup>（ mm） ・ 土間コンクリート下（ mm）  
 注)「土間スラブ」は、土に接する構造スラブのことをいう。

・付加  
 コンクリートの種別 ※ 普通コンクリート  
 置換コンクリート ※ 設計基準強度 18N/mm<sup>2</sup>（構造体強度補正は行わない）

○付加  
 地盤改良地業  
 工法 工法名：（設計図による）  
 ○ 洗層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は設計図による  
 ・ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は設計図による  
 六価クロム溶出試験 ※ 行う ・ 行わない  
 本節による。直接基礎、置換コンクリート地業及び地盤改良地業の支持層、長期許容支持力は下記による  
 ○長期設計支持力は設計図による。  
 ○支持地盤は設計図による。

**5章 鉄筋工事**

**2節 材料**

○5.2.1 鉄筋  
 異形鉄筋SDはD38以下、丸鋼SR235及びSR295は13mm以下に適用する。  
 鉄筋の種類

規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)	備考
異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用棒鋼) JIS G 3112	○SD295	設計図による	D10~D16	
	○SD345	設計図による	D19~D25	
溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品) JIS G 3112	・SD390	設計図による		
	・SD490	設計図による		
溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295A			
	・SD295B			
高強度せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・KSS785	設計図による		
	・			

閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。

○5.2.2 溶接金網  
 (1) 溶接金網、鉄筋格子の寸法、径 JIS G 3551

種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考
溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面	φ6-100×100	JIS規格品
		防水層保護コンクリート		
		配管埋設用コンクリート		
鉄筋格子	SD295	壁・スラブ開口補強	D10、D13	

**3節 加工及び組立**

○5.3.4 継手及び定着  
 (1) 継手の工法（設計図による）  
 部位など 継手工法と適用径の範囲

柱主筋	※ 重ね継手（ ） ・ 溶接継手（ ）	⊗ ガス圧接（D19~D25） ・ 機械式継手（ ）
梁主筋	※ 重ね継手（ ） ・ 溶接継手（ ）	⊗ ガス圧接（D19~D25） ・ 機械式継手（ ）
スラブ、壁筋	※ 重ね継手（D10~D16） ・ 溶接継手（ ）	・ ガス圧接（ ） ・ 機械式継手（ ）
杭主筋	※ 重ね継手（ ） ・ 溶接継手（ ）	※ ガス圧接（ ） ・ 機械式継手（ ）

付加  
 定着板の有無 ※ 無 ○ 有（設計図による）  
 使用箇所については、最上階柱頭部柱主筋とする。

○5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔  
 (1) コンクリートのかぶり厚さ  
 ※ 最小かぶり厚さに10mm加える  
 耐久性上不利な箇所のかぶり厚は次による。

施工箇所	最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)
外気に接する打放し面	※ 10

付加  
 かぶり厚さは目地底から算定する  
 設計図にて寸法指定箇所を除き、設計図に示す鉄筋本数を等間隔に割り付ける。  
 付加  
 特殊な鉄筋継手のあき ※ 設計図による。

**4節 ガス圧接**

○5.4.10 付加  
 検査及び試験の要領は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。

付加  
 圧接完了後の  
 圧接部の試験  
 (4) 抜取試験の方法  
 ※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験  
 引張試験の試験機関は原則として公的試験所とする。  
 付加  
 超音波探傷試験の試験従事者は当該工事のガス圧接作業に従事しない者とし、技量及び経験の証明となる資料により整理者の承諾をうける。超音波試験の検査ロットは引張試験と同様とする。試験方法・判定基準は、JIS Z 3062によるものとし、試験の要領は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。

付加  
 付加  
 継手が溶接その他の特殊な工法による場合の試験は、前2号に準ずる抜取試験を行う。  
 超音波探傷試験の試験技術者は（公社）日本鉄筋継手協会による鉄筋継手部検査技術資格者16種、2種あるいは3種とする。  
 圧接完了後の試験の抜取率及び判定基準

試験方法	ロット区分及び試料数	ロット当たりの抜取本数及び抜取率	判定基準
引張試験	同一作業班が一日に施工した圧接箇所かつ200カ所程度以下を1ロットとする	引張試験抜取本数（※3本）	引張試験では試料のすべてが、「最大引張強さが母材規格強度以上」を満足すること。 超音波探傷試験ではJIS Z 3062に示す判定基準にすべての箇所が合格すること。 不合格の場合は、5.4.11による。
超音波探傷試験		超音波探傷試験の抜取率（※30本）	

**5節 機械式継手**

・5.5.1 一般事項  
 特殊な機械式継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。  
 告示1463号に示す（※A級） 工法：（ ）

**6節 溶接継手**

・5.6.1 一般事項  
 特殊な溶接継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。  
 告示1463号に示す（※A級） 工法：（ ）

付加  
 ○付加  
 帯筋の組立て  
 ○付加  
 梁貫通孔の補強  
 ○付加  
 ※ H形 ・ HM形 ・ M形 ※ 既製品  
 ・ スリーブ図に無い貫通孔が、必要な場合においても補強対象とし、本工事に含むものとする。  
 ・ 施工者側の理由により貫通孔が追加となる場合は、増減対象とみなさない。

**6章 コンクリート工事**

**2節 コンクリートの種類及び品質**

○6.2.1 コンクリートの種類  
 コンクリートの種類

番号	コンクリート種別	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	所要スラブ厚 (cm)	単位水量の上限值 (kg/m <sup>3</sup> )	構造体強度補正の有無	使用箇所
1	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 30	15	185	有	基礎・基礎梁・1階床
2	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 30	18	185	有	1階柱壁・R階梁床
3	普通コンクリート	F <sub>c</sub> 21	15	185	無	土間コン・押えコン
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

○6.2.2 コンクリートの強度  
 (1) レディーミクストコンクリートの種別  
 ※ I類(JIS Q 1001 及び JIS Q 1011 に基づき、JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)  
 ・ II類(I類以外のJIS A 5308に適合したコンクリート)  
 (3) 建築基準法第37条第二号に規定する国土交通大臣の認定を受けたコンクリートの使用 ※ 無 ・ 有

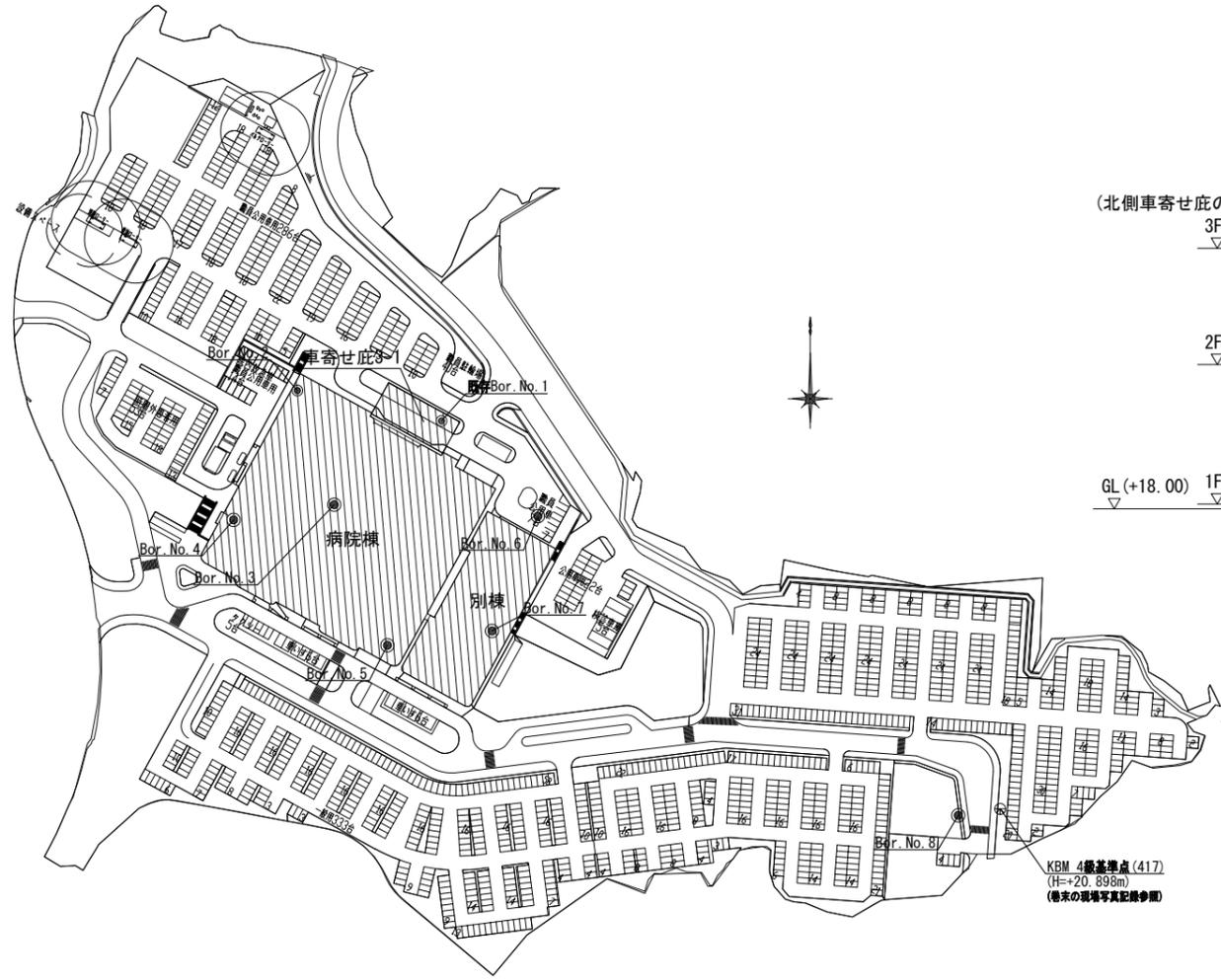
特殊な要求性能	適用範囲	措置

○6.2.3 気乾単位容積質量  
 (1) 普通コンクリートの気乾単位容積質量  
 ※ 2.3 t/m<sup>3</sup> ・ ( ) t/m<sup>3</sup>

○6.2.5 構造体コンクリートの仕上り  
 (2) 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げの種別  
 ※ 建築特記による。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）			図面名称	構造特記仕様書（1）（車寄せ庇3-1）		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	[A1] - [A3] -	図面番号	S - 401
発注機関	沖縄県北部医療組合			設	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和7年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号
摘要				計	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
検印	管理建築士	設計	製図		一級建築士	山田 剛	登録番号
				一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
				一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号





(北側車寄せ底の地面レベル)  
3FL (+29.20)

▽

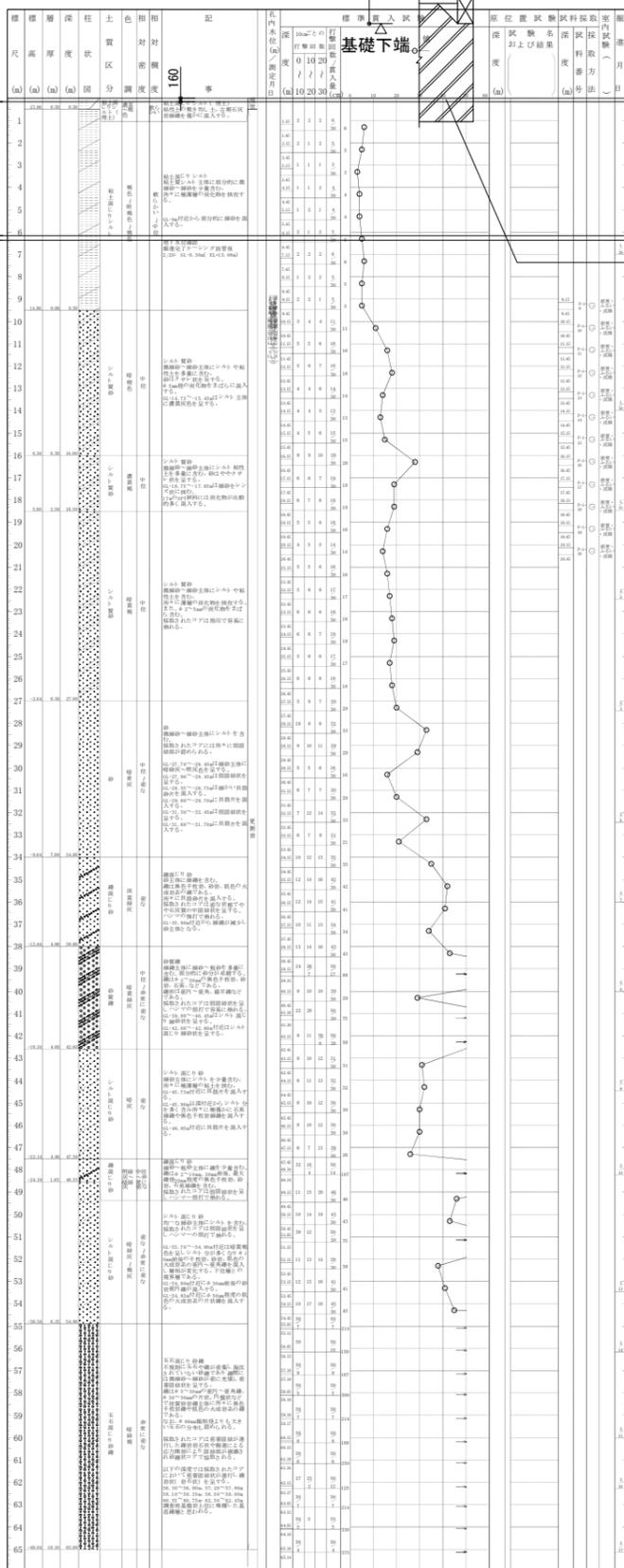
2FL (+24.20)

▽

GL (+18.00) 1FL (+18.20)

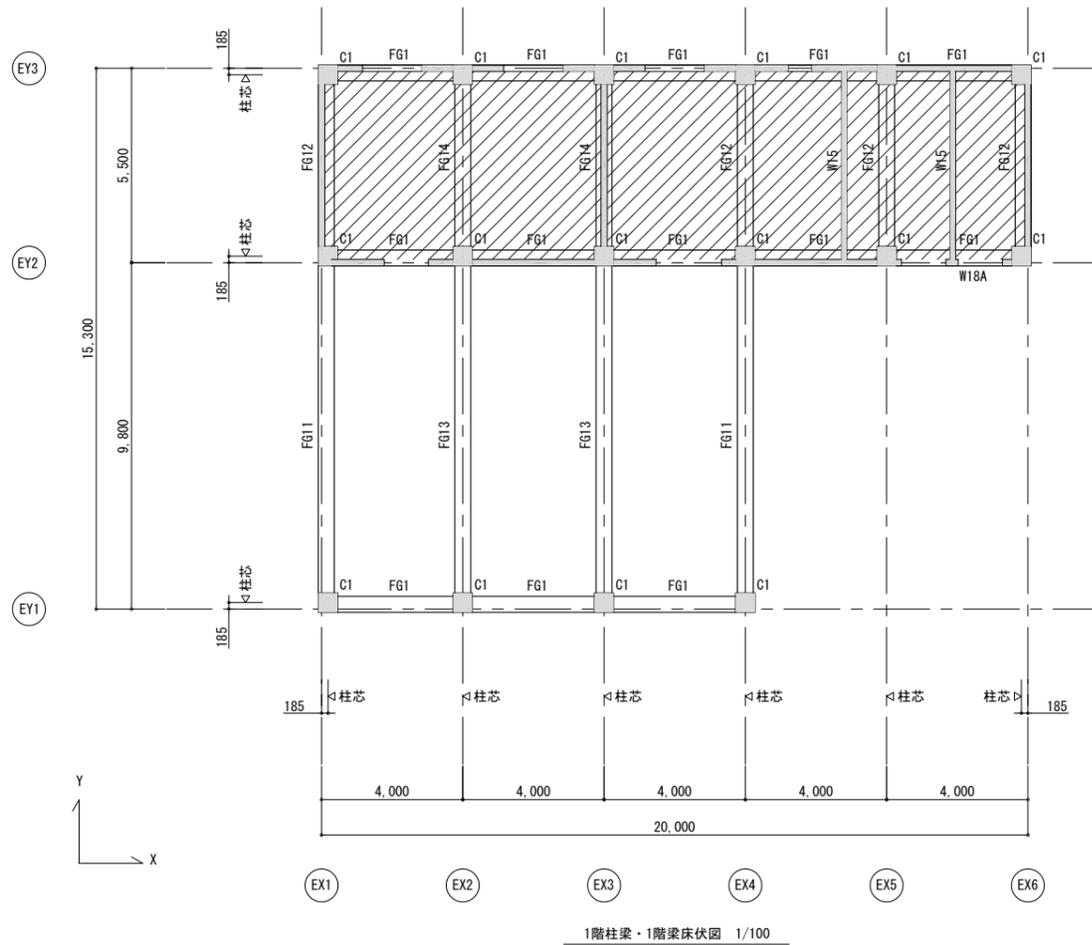
▽

ボーリング名	B-1	調査位置	沖縄県名護市大北1丁目15-9 (現県立農業大学校用地)	北緯	
発注機関	沖縄県保健医療部医療政策課	調査期間	令和5年1月26日 ~ 5年2月17日	東経	
調査業者名	株式会社 山崎建設	主任技師	山崎 住博	ボーリング 調査者	山崎 住博
孔口標高	EL. 24.30m	調査機	TOHO コー	ハンマー 落下用器具	中野 隆正 氏
調査機	TS-1000	調査員	山崎 住博	ハンマー 落下用器具	中野 隆正 氏
調査機	TS-1000	調査員	山崎 住博	ハンマー 落下用器具	中野 隆正 氏



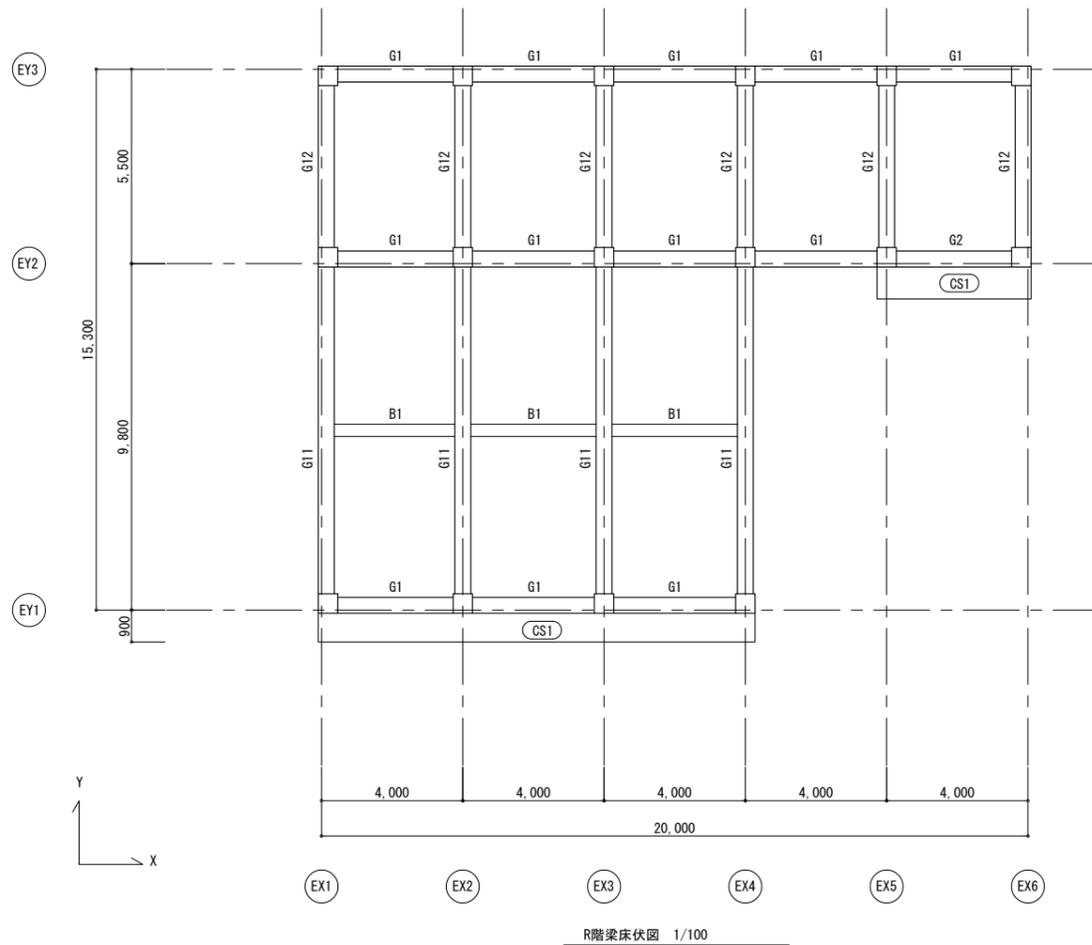
基礎下端については  
地盤埋め戻し時にセメント系  
固化剤を混ぜ合わせる等行い、  
必要地耐力：50kN/m<sup>2</sup> (長期)  
以上を確保できるように配慮  
すること。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	ボーリング柱状図 (車寄せ底3-1)		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/150 【A3】1/300		
発注機関	沖縄県北部医療組合	図面番号	S - 409		
工事年度	令和7年度	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
摘要	管理建築士 設 計 製 図	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第1-12326号
		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
		一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
		一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
		一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号



特記なき限り下記による

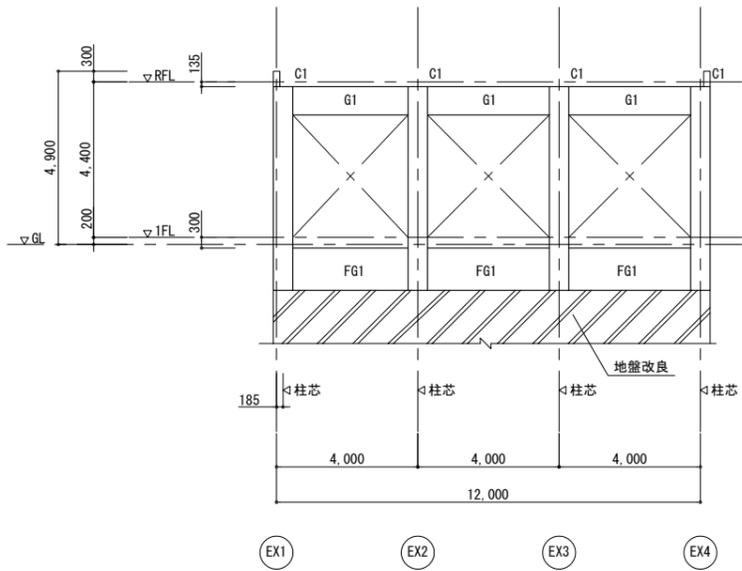
1. 1FL=GL+200=29.20
2. 一般スラブ FS1  
一般スラブ天端 1FL-300  
1FL-100
3. 一般壁 W18
4. 基礎梁天端 1FL-300  
( )内数値は、1FLからの梁天端レベルを示す。
5. フレーム内のスリットは軸組図による。
6. 必要地耐力(長期): 60kN/m<sup>2</sup>  
平板載荷試験を行い上記必要地耐力を確認すること。  
必要地耐力を確認できない場合は、地盤改良を行い必要地耐力を確保すること。



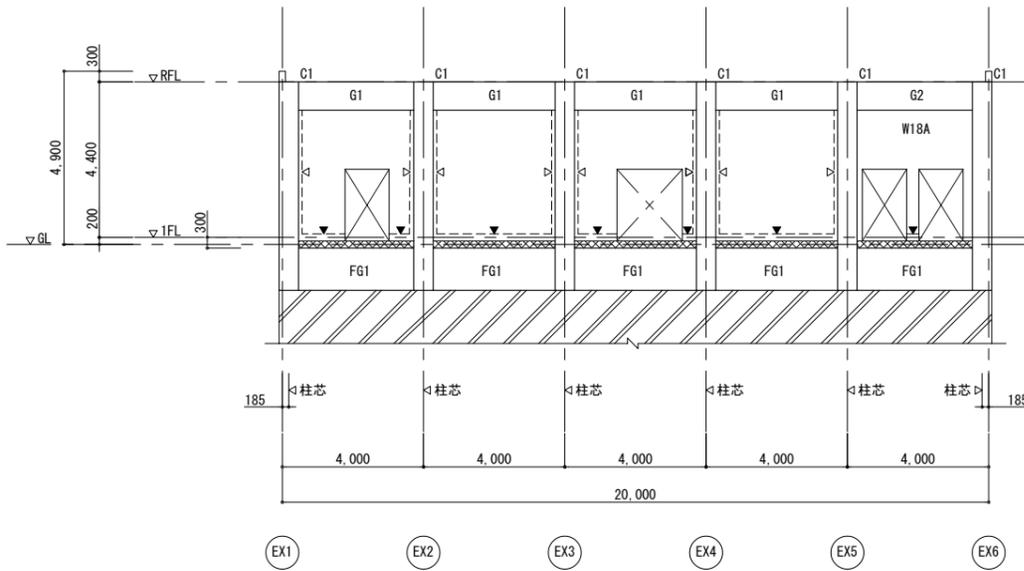
特記なき限り下記による

1. 一般スラブ S1
2. 梁天端 屋根勾配による  
( )内数値は、RFLからの梁天端レベルを示す。
3. 一般スラブ天端 屋根勾配による

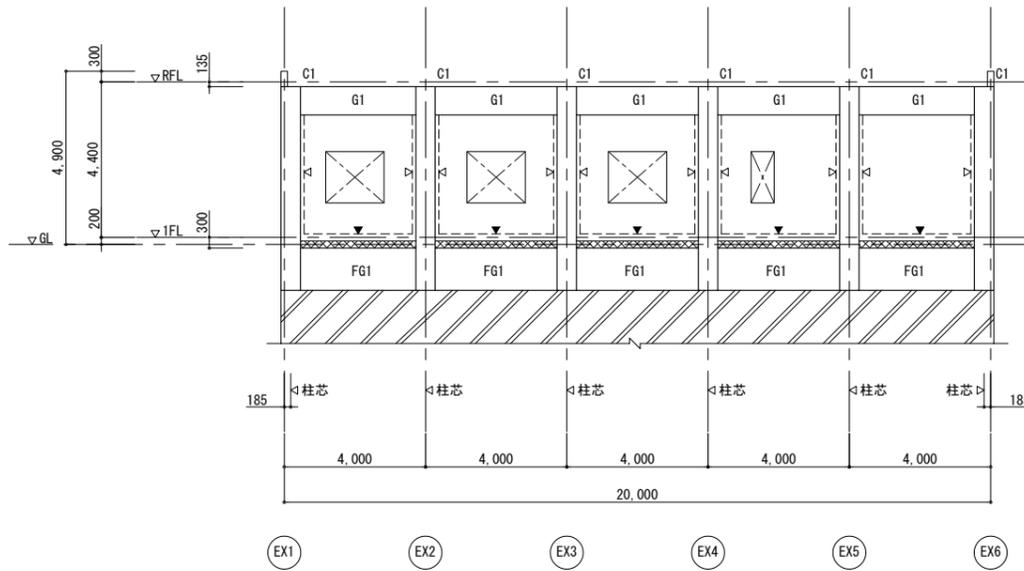
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	1階柱梁床伏図、R階梁床伏図(車寄せ庇3-1)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/100 【A3】1/200	図面番号	S - 410	
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体			
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第1-12326号	
摘要		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16			
検印	管理建築士	設計製図	一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
			一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
			一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号



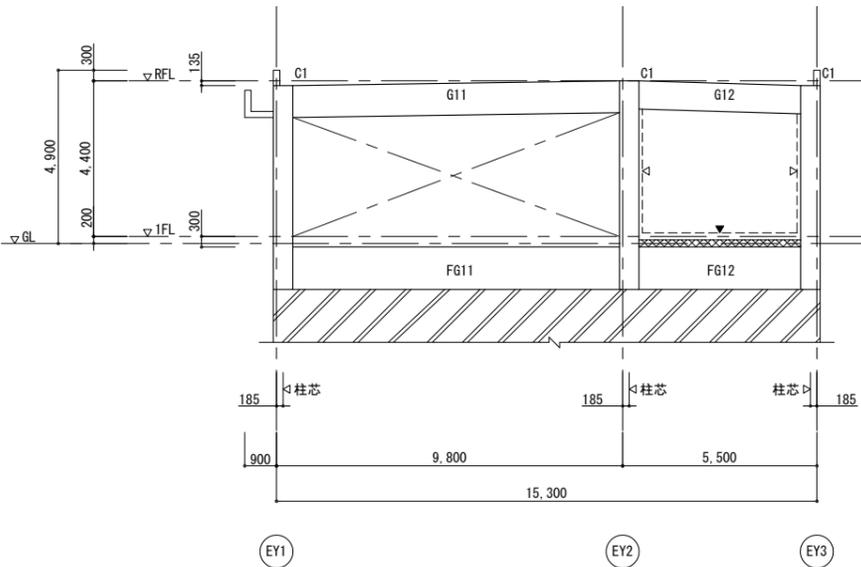
EY1通軸組図 1/100



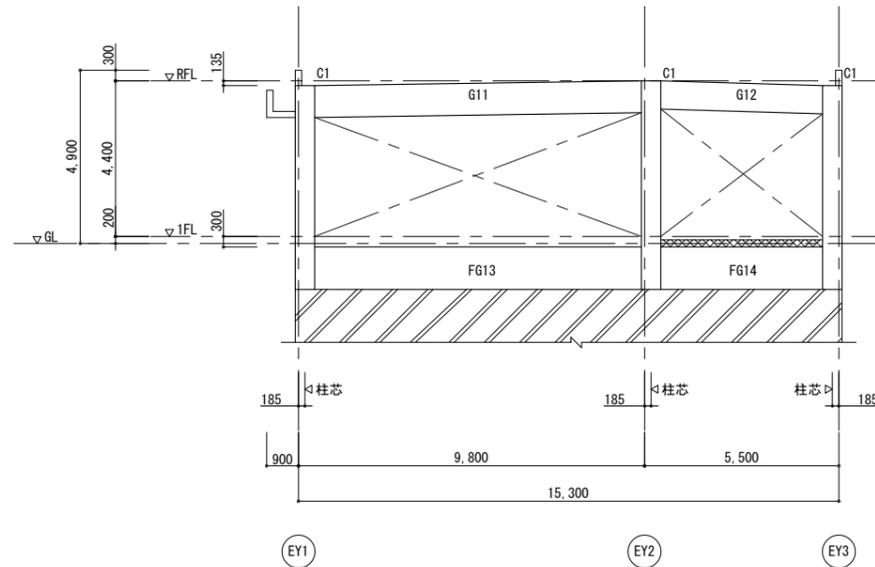
EY2通軸組図 1/100



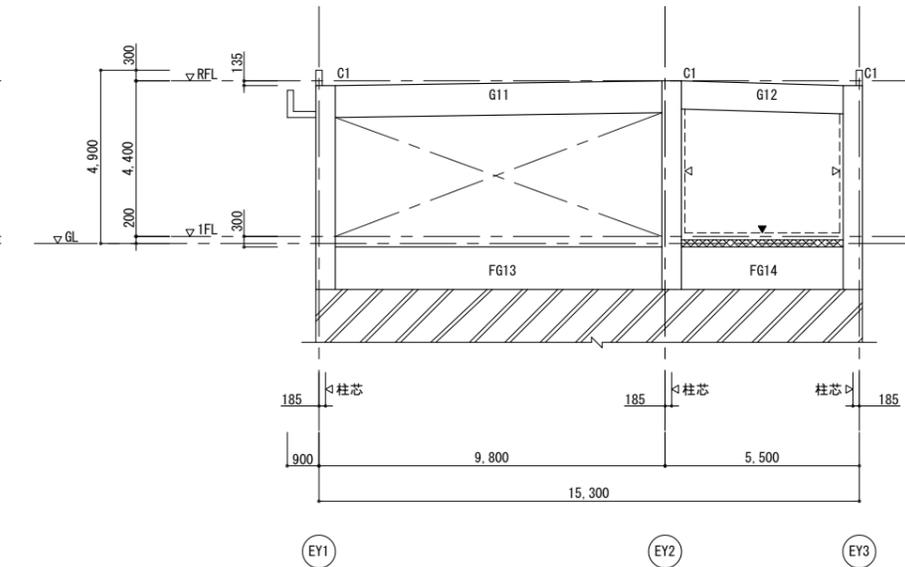
EY3通軸組図 1/100



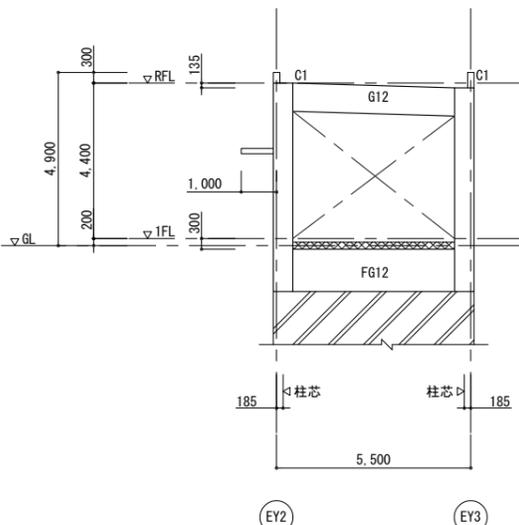
EX1.4通軸組図 1/100



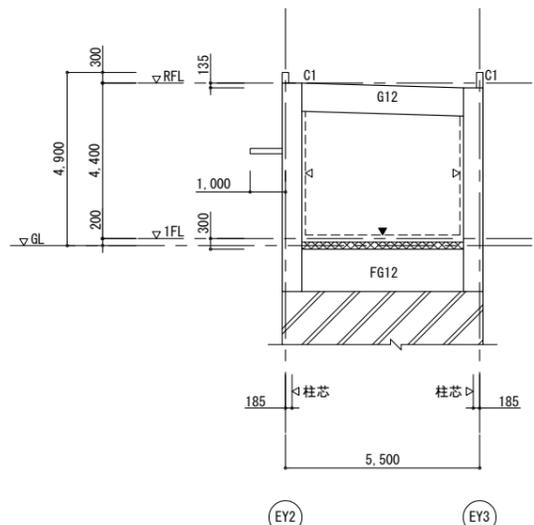
EX2通軸組図 1/100



EX3通軸組図 1/100



EX5通軸組図 1/100



EX6通軸組図 1/100

- 特記なき限り下記による
1. 一般壁 W18
  2. 地中梁天端 1FL-300
  3. 鉛直スリットを示す。
  - ▼ 水平スリットを示す。
  4. 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	軸組図(車寄せ底3-1)		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/100 【A3】1/200	図面番号	S-411
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・A・R・G・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第1-12326号
摘要		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	山田 剛	登録番号	登録第310062号
		製	末吉 謙太郎	登録番号	登録第33522号 第9280号
		図	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

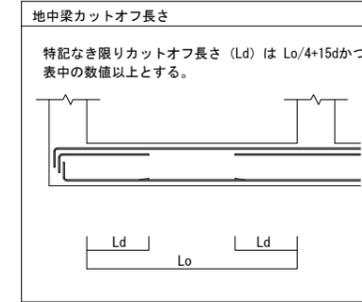
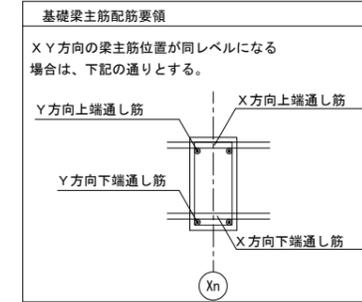
柱リスト 1/50

階	符号	C1
1階	断面	
	Dx × Dy	550 × 550
	主筋	8-D25
	フープ	□-D13@100

基礎梁リスト 1/50

特記なき限り下記による  
・ 巾止め筋はD10@1000とする。

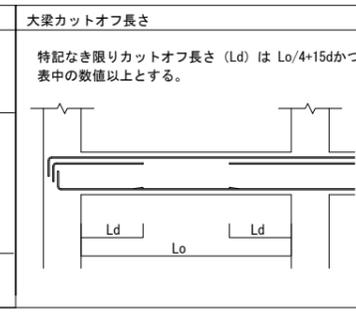
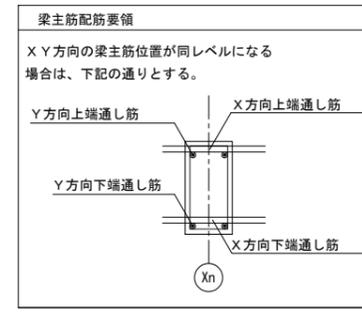
符号	FG1			FG11			FG12			FG13			FG14		
	位置	全断面	EY1端	中央	EY2端	EY2端	中央	EY3端	EY1端	中央	EY2端	EY2端	中央	EY3端	
断面															
B × D		450 × 1,200	450 × 1,200			450 × 1,200			450 × 1,200			450 × 1,200			
上端筋		4-D25	6-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	7-D25	7-D25	7-D25	4-D25	4-D25	4-D25	
下端筋		4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	8-D25	8-D25	4-D25	4-D25	
あばら筋		□-D13@200	□-D13@200			□-D13@200			□-D13@200			□-D13@200			
腹筋		6-D13	6-D13			6-D13			6-D13			6-D13			



大梁リスト 1/50

特記なき限り下記による  
・ 巾止め筋はD10@1000とする。

階	符号	G1	G2	G11			G12		
		位置	全断面	全断面	EY1端	中央	EY2端	EY2端	中央
R階	断面								
	B × D	450 × 800	450 × 800	450 × 900			450 × 800		
	上端筋	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	6-D25	4-D25
	下端筋	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	スタ-ラップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200			□-D13@200		
	腹筋	2-D10	2-D10	4-D10			2-D10		



小梁リスト 1/50

特記なき限り下記による  
・ 巾止め筋はD10@1000とする。

符号	B1
位置	全断面
断面	
B × D	350 × 500
上端筋	3-D22
下端筋	3-D22
スタ-ラップ	□-D10@200
腹筋	2-D10

床版リスト

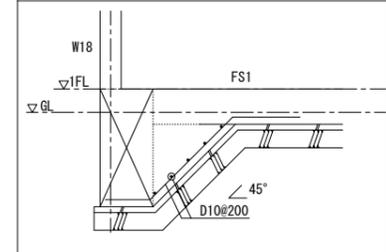
名称	厚さ	位置	短辺 (主筋方向)		長辺 (配筋筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S1	150	上端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
CS1	180	上端筋	D13@200	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
FS1	300	上端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	
		下端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	

壁リスト 1/50

巾止め筋 D10@1000

符号	W15	W18	W18A	開口補強筋要領
	断面			
厚さ	150	180	180	
縦筋	D10@200 ダブル	D10@200 ダブル	D13@200 ダブル	
横筋	D10@200 ダブル	D10@200 ダブル	D10@200 ダブル	
開口補強筋	縦筋	2-D13	2-D13	2-D13
	横筋	2-D13	2-D13	2-D13
	斜筋	1-D13	1-D13	1-D13

スラブ端部配筋詳細図 1/30



工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)		
	工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	図面名称
発注機関	沖縄県北部医療組合	縮尺	[A1] 1/50 [A3] 1/100 図面番号 S-412
工事年度	令和7年度	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体
摘要	管理建築士 設計 製図	代表企業	株式会社内藤建築事務所 登録番号 福岡県知事登録第1-12326号
		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検印	一級建築士	山田 剛	登録番号 登録第310062号
	一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
	一級建築士	丸山 茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号
	一級建築士		

<b>建築物の構造概要</b>	
(1) 工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (車寄せ底3-2)
建築場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9他
(2) 設計年月	令和7年3月
(3) 工事種別	■新築 □増築 □増改築 □改築
(4) 構造種別	鉄筋コンクリート造 (RC造)
(5) 構造形式	ラーメン構造
(6) 基礎形式	直接基礎 (べた基礎)
(7) 階数	地上 1 階 地下 ___ 階 塔屋 ___ 階
(8) 主要用途	病院
(9) 構造計算ルート	<input type="checkbox"/> ルート1 ( <input type="checkbox"/> ルート1-1 <input type="checkbox"/> ルート1-2 ) <input type="checkbox"/> 限界耐力計算又は同等以上の構造計算 <input type="checkbox"/> ルート2 ( <input type="checkbox"/> ルート2-1 <input type="checkbox"/> ルート2-2 ) <input type="checkbox"/> 時刻歴応答解析 <input checked="" type="checkbox"/> ルート3 <input type="checkbox"/> その他
(10) 重要度係数等の考慮の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 1.5 (Ⅰ類) <input type="checkbox"/> 1.25 (Ⅱ類) <input type="checkbox"/> 1.0 (Ⅲ類) ) <input type="checkbox"/> その他 : ( )

<b>特記仕様書の適用</b>	
1. 標準仕様	図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(以下、標仕という。)による。
2. 特記仕様	(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 <input type="checkbox"/> 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 <input type="checkbox"/> 印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。
(2)	各章の章、節、項の番号は、標仕の当該番号に対応する。
(3)	(表 ) (図 ) の番号は標仕の当該表または図の番号を表す。
(4)	<input checked="" type="checkbox"/> 印は「図等による環境物品等の調達推進等に関する法律(グリーン購入法)」の特記調達品目を示す。
(5)	図中の「付加」は、標仕にない特記事項を示す。

<b>4章 地業工事</b>	
<b>2節 試験及び報告書</b>	
・4.2.2 試験杭	(1) 試験杭の位置及び本数 ※ 最初の1本 ・ 設計図による 試験杭の杭長は本杭と同じとする。
・4.2.3 杭の載荷試験	(1) 鉛直載荷試験 ※ 行わない ・ 行う (次による) 水平載荷試験 ※ 行わない ・ 行う (次による) 鉛直載荷試験: 杭径 ( φ ) 個所数 ( カ所 ) 最大載荷荷重 ( k N ) 水平載荷試験: 杭径 ( φ ) 個所数 ( カ所 ) 最大載荷荷重 ( k N ) (2)(3) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。
・4.2.4 地盤の載荷試験	(1) 平板載荷試験 ※ 行わない ○ 行う (次による) (2) 個所数 ( 各棟 1 カ所 ) 試験深さ ( 2 F L - 0.7 m ) 対象地盤 ( 粘土混じりシルト層 ) 最大載荷荷重 ( 180 k N/m <sup>2</sup> ) (4) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。
<b>3節 既製コンクリート杭地業</b>	
・4.3.3 材料	(1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※ 設計図による (2) 先端部形状 ※ 開放型 ・ 閉塞平たん形
・4.3.4 セメントミルク工法	(1) 根固め液の使用 ※ あり ・ なし 杭周固定液の使用 ※ あり ・ なし (6) アースオーガーの支持地盤への掘削深さ 1.5m 程度 ※ 杭先端深さ 支持層より 1.0m以上 ※ 杭の高止まり 0.5m以下
・4.3.5 特定埋込杭工法	(1) 工法 ・ ブレポーリング拡大根固め工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 ・ その他 ( ) 杭周固定液 ※ 使用する ・ 使用しない
・4.3.6 継手	(1) 杭の継手 ・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手 ・ 溶接継手
・4.3.8 杭頭の処理等	(1) 杭頭処理 ※ 切断しない ・ 切断する ネガティブフリクション対策 ※ 無 ・ 有 (設計図による) 杭頭補強筋は、設計図による。
<b>4節 鋼杭地業</b>	
・4.4.1 一般事項	工法 ・ 特定埋込杭工法 ( 工法 )
・4.4.3 材料	(1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※ 設計図による
・4.4.5 継手	(1) 杭の継手 ・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手 ・ 溶接継手
・4.4.6 杭頭の処理等	4.3.8 による
<b>5節 場所打ちコンクリート杭地業</b>	
・4.5.1 一般事項	(2) 工法 ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 ・ その他 ( )
・4.5.4 材料その他	(1) 鉄筋 5章による ※ 高炉セメント ・ その他 ( ) 設計基準強度 N/mm <sup>2</sup> ・ A種 ※ B種 コンクリートの強度補正 設計基準強度を満足させるよう定める 杭径・杭長・長期許容支持力 ※ 設計図による 鋼管の使用 ※ なし ・ あり
・4.5.5 アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法	(3) 超音波測定器による孔壁測定 ・ 行う ・ 行わない
<b>6節 砂利、砂、捨コンクリート地業等</b>	
○4.6.2 材料	(1) 砂利地業の材料 ※ 再生クラッシュラン ・ 切込み砂利及び切込み砕石
○4.6.3 砂利及び砂地業	(1) ○ 直接基礎床板下 ※ 60mm ・ 100mm ・ 150mm ・ 基礎床板下 ※ 60mm ○ 基礎梁下 ※ 60mm ○ 土間スラブ下 <sup>注)</sup> ○ 60mm ・ 100mm ・ 150mm 注)「土間スラブ」は、土に接する構造スラブのことをいう。 ○ 土間コンクリート下 ・ 150mm ○ 100mm

○4.6.4 捨コンクリート	(1) 厚さ ※ 60mm ・ その他 ( ) (2) (1)以外の項目は6章14節による。 ・ 土間スラブ下 <sup>注)</sup> ( mm ) ・ 土間コンクリート下 ( mm ) 注)「土間スラブ」は、土に接する構造スラブのことをいう。
・付加 置換コンクリート	コンクリートの種別 ※ 普通コンクリート ※ 設計基準強度 18N/mm <sup>2</sup> ( 構造体強度補正は行わない )
○付加 地盤改良地業	工法 工法名: ( 設計図による ) ・ 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は設計図による ・ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は設計図による 六価クロム溶出試験 ※ 行う ・ 行わない 本節による。直接基礎、置換コンクリート地業及び地盤改良地業の支持層、長期許容支持力は下記による ・ 長期設計支持力は設計図による。 ・ 支持地盤は設計図による。

<b>5章 鉄筋工事</b>																																											
<b>2節 材料</b>																																											
○5.2.1 鉄筋	異形鉄筋SDはD38以下、丸鋼SR235及びSR295は13mm以下に適用する。 鉄筋の種類 <table border="1"> <tr> <th>規格名称</th> <th>種類の記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用棒鋼) JIS G 3112</td> <td>○SD295</td> <td>設計図による</td> <td>D10~D16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○SD345</td> <td>設計図による</td> <td>D19~D25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD390</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD490</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)</td> <td>・SD295A</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高強度せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)</td> <td>・SD295B</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・KSS785</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5">閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。</td> </tr> </table>	規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)	備考	異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用棒鋼) JIS G 3112	○SD295	設計図による	D10~D16		○SD345	設計図による	D19~D25		・SD390	設計図による			・SD490	設計図による			溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295A				高強度せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295B					・KSS785	設計図による			閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。				
規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)	備考																																							
異形鉄筋 (鉄筋コンクリート用棒鋼) JIS G 3112	○SD295	設計図による	D10~D16																																								
	○SD345	設計図による	D19~D25																																								
	・SD390	設計図による																																									
	・SD490	設計図による																																									
溶接閉鎖型せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295A																																										
高強度せん断補強筋 (大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295B																																										
	・KSS785	設計図による																																									
閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。																																											
○5.2.2 溶接金網	(1) 溶接金網、鉄筋格子の寸法、径 JIS G 3551 <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径・寸法・形状</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">溶接金網</td> <td rowspan="3">WFP</td> <td>鉄骨階段踏面</td> <td rowspan="3">φ6-100×100</td> <td rowspan="3">JIS規格品</td> </tr> <tr> <td>防水層保護コンクリート</td> </tr> <tr> <td>配管埋設用コンクリート</td> </tr> <tr> <td>スラブ内埋設管の集密部分</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋格子</td> <td>SD295</td> <td>壁・スラブ開口補強</td> <td>D10、D13</td> <td></td> </tr> </table>	種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考	溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面	φ6-100×100	JIS規格品	防水層保護コンクリート	配管埋設用コンクリート	スラブ内埋設管の集密部分			鉄筋格子	SD295	壁・スラブ開口補強	D10、D13																							
種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考																																							
溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面	φ6-100×100	JIS規格品																																							
		防水層保護コンクリート																																									
		配管埋設用コンクリート																																									
スラブ内埋設管の集密部分																																											
鉄筋格子	SD295	壁・スラブ開口補強	D10、D13																																								
<b>3節 加工及び組立</b>																																											
○5.3.4 継手及び定着	(1) 継手の工法 (設計図による) <table border="1"> <tr> <th>部位など</th> <th>継手工法と適用径の範囲</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">柱主筋</td> <td>※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td>※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">梁主筋</td> <td>※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td>※ 重ね継手 ( D10~D16 ) ・ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">スラブ、壁筋</td> <td>※ 重ね継手 ( ) ・ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td>※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">杭主筋</td> <td>※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> <tr> <td>※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )</td> </tr> </table> 定着板の有無 ※ 無 ○ 有 (設計図による) 使用箇所については、最上階柱頭部柱主筋とする。	部位など	継手工法と適用径の範囲	柱主筋	※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )	※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )	梁主筋	※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )	※ 重ね継手 ( D10~D16 ) ・ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )	スラブ、壁筋	※ 重ね継手 ( ) ・ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )	※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )	杭主筋	※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )	※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )																												
部位など	継手工法と適用径の範囲																																										
柱主筋	※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )																																										
	※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )																																										
梁主筋	※ 重ね継手 ( ) ⊗ ガス圧接 ( D19~D25 ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )																																										
	※ 重ね継手 ( D10~D16 ) ・ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )																																										
スラブ、壁筋	※ 重ね継手 ( ) ・ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )																																										
	※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )																																										
杭主筋	※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )																																										
	※ 重ね継手 ( ) ※ ガス圧接 ( ) ・ 溶接継手 ( ) ・ 機械式継手 ( )																																										
○5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	(1) コンクリートのかぶり厚さ ※ 最小かぶり厚さに10mm加える 耐久性上不利な箇所のかぶり厚は次による。 <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)</th> </tr> <tr> <td>外気に接する打放し面</td> <td>※ 10</td> </tr> </table> かぶり厚さは目地底から算定する 設計図にて寸法指定箇所を除き、設計図に示す鉄筋本数を等間隔に割り付ける。 特別な鉄筋継手のあき ※ 設計図による。	施工箇所	最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)	外気に接する打放し面	※ 10																																						
施工箇所	最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)																																										
外気に接する打放し面	※ 10																																										
<b>4節 ガス圧接</b>																																											
○5.4.10 付加 圧接完了後の圧接部の試験	検査及び試験の要領は(公社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。 (4) 抜取試験の方法 ※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験 引張試験の試験機関は原則として公的試験所とする。 超音波探傷試験の試験従事者は当該工事のガス圧接作業に従事しない者とし、技量及び経験の証明となる資料により整理者の承諾をうける。超音波試験の検査ロットは引張試験と同様とする。試験方法・判定基準は、JIS Z 3062によるものとし、試験の要領は(公社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。																																										

付加 付加	継手が溶接その他の特殊な工法による場合の試験は、前2号に準ずる抜取試験を行う。 超音波探傷試験の試験技術者は(公社)日本鉄筋継手協会による鉄筋継手部検査技術資格者16種、2種あるいは3種とする。 圧接完了後の試験の抜取率及び判定基準			
	試験方法	ロット区分及び試料数	ロット当たりの抜取本数及び抜取率	判定基準
	引張試験	同一作業班が一日に施工した圧接箇所かつ200カ所程度以下を1ロットとする	引張試験抜取本数 (※3本)	引張試験では試料のすべてが、「最大引張強さが母材規格強度以上」を満足すること。 超音波探傷試験ではJIS Z 3062に示す判定基準にすべての箇所が合格すること。 不合格の場合は、5.4.11による。
	超音波探傷試験		超音波探傷試験の抜取率 (※30本)	

<b>5節 機械式継手</b>	
・5.5.1 一般事項	特殊な機械式継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。 告示1463号に示す(※A級) 工法: ( )
<b>6節 溶接継手</b>	
・5.6.1 一般事項	特殊な溶接継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。 告示1463号に示す(※A級) 工法: ( )

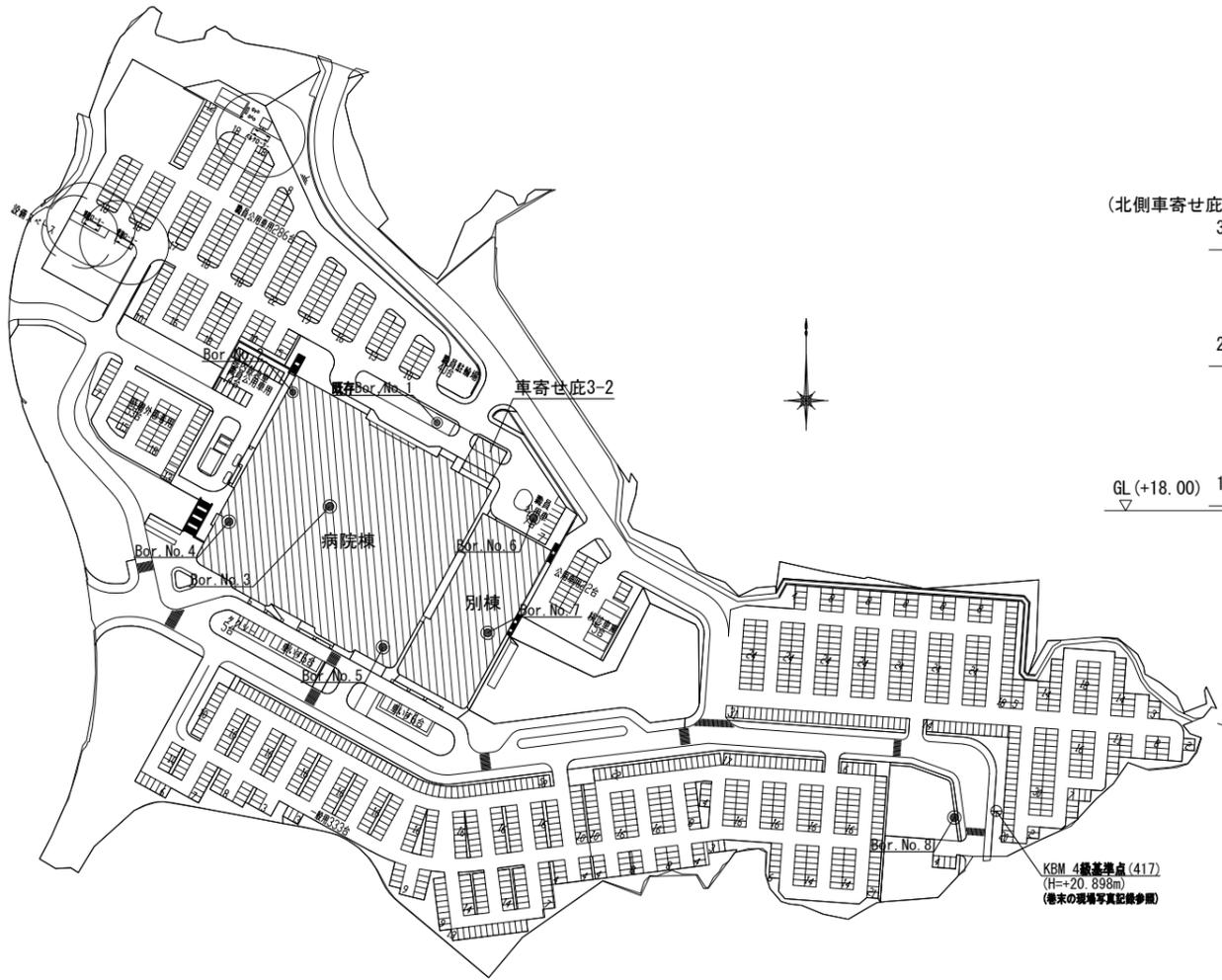
付加	<b>その他配筋</b>	
○付加 帯筋の組立て	○H形 (スパイラル)SP形	溶接閉鎖形
○付加 梁貫通孔の補強	※ H形 ・ HM形 ・ M形 ※ 既製品 ・ スリーブ図に無い貫通孔が、必要な場合においても補強対象とし、本工事に含むものとする。 ・ 施工者側の理由により貫通孔が追加となる場合は、増減対象とみなさない。	

<b>6章 コンクリート工事</b>																																																																														
<b>2節 コンクリートの種類及び品質</b>																																																																														
○6.2.1 種類	コンクリートの種類 <table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>コンクリート種別</th> <th>設計基準強度 Fc (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>所要スラブ厚 (cm)</th> <th>単位水量の上限值 (kg/m<sup>3</sup>)</th> <th>構造体強度補正の有無</th> <th>使用箇所</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>普通コンクリート</td> <td>Fc30</td> <td>15</td> <td>185</td> <td>有</td> <td>基礎・基礎梁・1階床</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>普通コンクリート</td> <td>Fc30</td> <td>18</td> <td>185</td> <td>有</td> <td>1階柱壁・R階梁床</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>普通コンクリート</td> <td>Fc21</td> <td>15</td> <td>185</td> <td>無</td> <td>土間コン・押えコン</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	コンクリート種別	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	所要スラブ厚 (cm)	単位水量の上限值 (kg/m <sup>3</sup> )	構造体強度補正の有無	使用箇所	1	普通コンクリート	Fc30	15	185	有	基礎・基礎梁・1階床	2	普通コンクリート	Fc30	18	185	有	1階柱壁・R階梁床	3	普通コンクリート	Fc21	15	185	無	土間コン・押えコン	4							5							6							7							8							9							10						
番号	コンクリート種別	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	所要スラブ厚 (cm)	単位水量の上限值 (kg/m <sup>3</sup> )	構造体強度補正の有無	使用箇所																																																																								
1	普通コンクリート	Fc30	15	185	有	基礎・基礎梁・1階床																																																																								
2	普通コンクリート	Fc30	18	185	有	1階柱壁・R階梁床																																																																								
3	普通コンクリート	Fc21	15	185	無	土間コン・押えコン																																																																								
4																																																																														
5																																																																														
6																																																																														
7																																																																														
8																																																																														
9																																																																														
10																																																																														
○6.2.2 強度	(1) レディーミクストコンクリートの種別 ※ I類(JIS Q 1001 及び JIS Q 1011 に基づき、JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・ II類(I類以外のJIS A 5308に適合したコンクリート) (3) 建築基準法第37条第二号に規定する国土交通大臣の認定を受けたコンクリートの使用 ※ 無 ・ 有																																																																													
○6.2.3 気乾単位容積質量	(1) 普通コンクリートの気乾単位容積質量 ※ 2.3 t/m <sup>3</sup> ・ ( ) t/m <sup>3</sup>																																																																													
○6.2.5 構造体コンクリートの仕上り	(2) 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げの種別 ※ 建築特記による。																																																																													

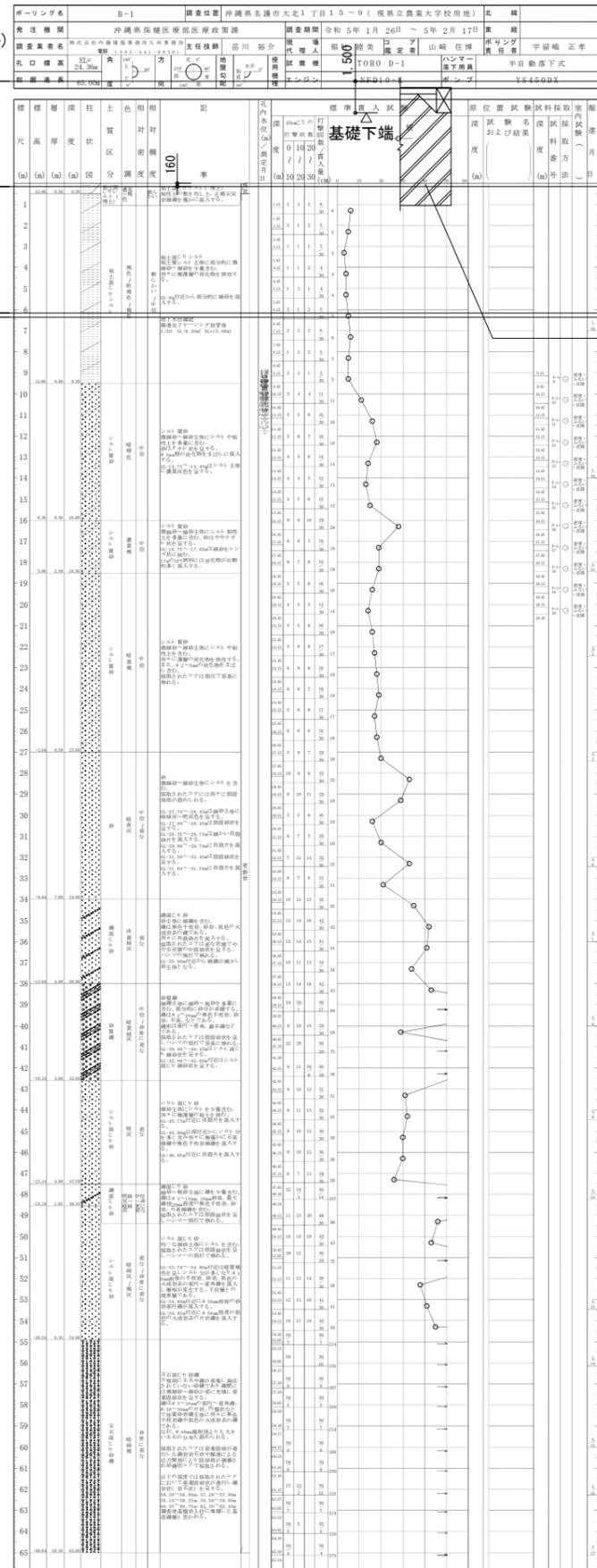
<b>4節 鋼杭地業</b>	
・4.4.1 一般事項	工法 ・ 特定埋込杭工法 ( 工法 )
・4.4.3 材料	(1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※ 設計図による
・4.4.5 継手	(1) 杭の継手 ・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手 ・ 溶接継手
・4.4.6 杭頭の処理等	4.3.8 による
<b>5節 場所打ちコンクリート杭地業</b>	
・4.5.1 一般事項	(2) 工法 ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 ・ その他 ( )
・4.5.4 材料その他	(1) 鉄筋 5章による ※ 高炉セメント ・ その他 ( ) 設計基準強度 N/mm <sup>2</sup> ・ A種 ※ B種 コンクリートの強度補正 設計基準強度を満足させるよう定める 杭径・杭長・長期許容支持力 ※ 設計図による 鋼管の使用 ※ なし ・ あり
・4.5.5 アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法	(3) 超音波測定器による孔壁測定 ・ 行う ・ 行わない
<b>6節 砂利、砂、捨コンクリート地業等</b>	
○4.6.2 材料	(1) 砂利地業の材料 ※ 再生クラッシュラン ・ 切込み砂利及び切込み砕石
○4.6.3 砂利及び砂地業	(1) ○ 直接基礎床板下 ※ 60mm ・ 100mm ・ 150mm ・ 基礎床板下 ※ 60mm ○ 基礎梁下 ※ 60mm ○ 土間スラブ下 <sup>注)</sup> ○ 60mm ・ 100mm ・ 150mm 注)「土間スラブ」は、土に接する構造スラブのことをいう。 ○ 土間コンクリート下 ・ 150mm ○ 100mm

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			
発注機関	沖縄県北部医療組合			
工事年度	令和7年度			
摘要				
検印	管理建築士	設計	製図	
	図面名称	構造特記仕様書 (1) (車寄せ底3-2)		
	縮尺	[A1] - [A3] -	図面番号	S - 501
	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号	
所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16			
一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号	
一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号	
一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	

<p>3節 コンクリートの材料及び調合</p> <p>6.3.1 コンクリートの材料</p> <p>(1) セメントの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>使用箇所(コンクリート番号)</th> </tr> <tr> <td>※ 普通ポルトランドセメント</td> <td>1, 2, 3</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 骨材</p> <p>細骨材及び混合細骨材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フェロケケルスラグ細骨材 <input type="checkbox"/> 使用部位 ( )</li> <li>鋼スラグ細骨材 <input type="checkbox"/> 使用部位 ( )</li> <li>電気炉酸化スラグ細骨材 <input type="checkbox"/> 使用部位 ( )</li> </ul> <p>砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B</p> <p>砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B</p> <p>(4) 混和材料</p> <p>(a) 混和剤の種類及び適用(下記のものを使用可とする)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ A E剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 高性能減水剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 減水剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> A E減水剤</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 高性能A E減水剤</td> <td>単位水量の上限値を守れない場合</td> </tr> <tr> <td>・ 流動化剤</td> <td></td> </tr> </table> <p>促進型のは原則として使用しない。</p> <p>現場にて使用する流動化剤については、施工性及び品質を考慮の上、決定すること。</p> <p>(b) 混和剤の種類及び適用(下記のものを使用可とする)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ 高炉スラグ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 防水材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 膨張剤</td> <td>合成スラブ</td> </tr> </table> <p>上記の混和材を用いる場合には、品質及び供給の安定性を確認すること。</p>		種類	使用箇所(コンクリート番号)	※ 普通ポルトランドセメント	1, 2, 3	・ 高炉セメントB種		種類	備考	・ A E剤		・ 高性能減水剤		・ 減水剤		<input checked="" type="checkbox"/> A E減水剤		<input checked="" type="checkbox"/> 高性能A E減水剤	単位水量の上限値を守れない場合	・ 流動化剤		種類	備考	・ 高炉スラグ		・ 防水材		・ 膨張剤	合成スラブ	<p>6.8.4 型枠の存置期間及び取外し</p> <p>(2) せき板及び支柱の最小存置期間は下表による。</p> <p>表6.8.2 せき板の最小存置期間</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="4">基礎、梁側、柱、壁</th> </tr> <tr> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種</th> <th>高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種</th> <th>中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td> <td>15℃以上</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>0℃以上</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> </table> <p>コンクリートの圧縮強度による場合</p> <p>— 圧縮強度が5N/mm<sup>2</sup>以上となるまで。</p> <p>(注) 圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、6.9.3(1)(イ)による工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。</p> <p>表6.8.3 支柱の最小存置期間</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="2">スラブ下</th> <th rowspan="2">梁下</th> </tr> <tr> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td> <td>15℃以上</td> <td>8</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>12</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>0℃以上</td> <td>15</td> <td>28</td> </tr> </table> <p>コンクリートの圧縮強度による場合</p> <p>— 整理者との協議による</p> <p>付加 片持梁、庇、長大スパンの梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱、または施工荷重が著しく大きい場合の支柱等は、存置期間の延長・2層受け等を行う事。</p>	セメントの種類	基礎、梁側、柱、壁				早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種	中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	5℃以上	3	5	7	0℃以上	5	8	10	セメントの種類	スラブ下		梁下	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	5℃以上	12	25	0℃以上	15	28	<p>14節 無筋コンクリート</p> <p>6.14.1 一般事項</p> <p>6.14.2 材料及び調合</p> <table border="1"> <tr> <th>コンクリート種類</th> <th>設計基準強度 Fc (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>所要スランプ (cm)</th> <th>粗骨材の最大寸法 (mm)</th> <th>使用箇所</th> </tr> <tr> <td>※ 普通コンクリート</td> <td>※ Fc 18</td> <td>※ 15・18</td> <td>※ 25</td> <td>捨てコン、押えコン</td> </tr> <tr> <td>※ 軽量コンクリート</td> <td>※ Fc 18</td> <td>※ 18・21</td> <td>※ 20</td> <td></td> </tr> </table> <p>付加 セメントの種類</p> <p>付加 ※ 普通ポルトランドセメント</p> <p>付加 ※ 高炉セメントB種 <input checked="" type="checkbox"/> (捨コンクリート)</p> <p>呼び強度は設計基準強度以上とする。(構造体強度補正は行わない)</p>	コンクリート種類	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	所要スランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所	※ 普通コンクリート	※ Fc 18	※ 15・18	※ 25	捨てコン、押えコン	※ 軽量コンクリート	※ Fc 18	※ 18・21	※ 20		<p>7章 鉄骨工事</p> <p>7.1.3 付加 鉄骨製作工場</p> <p>※ 建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める(M)グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場</p>	<p>7.6.12 溶接部の試験</p> <p>(1)(イ)(b) 超音波探傷試験 ※ 行う ・ 行わない</p> <p>工場溶接の場合 A0L (%) ※ 4.0 ・ 2.0</p> <p>※ すべて</p> <p>※ 第6水準</p>
種類	使用箇所(コンクリート番号)																																																																																					
※ 普通ポルトランドセメント	1, 2, 3																																																																																					
・ 高炉セメントB種																																																																																						
種類	備考																																																																																					
・ A E剤																																																																																						
・ 高性能減水剤																																																																																						
・ 減水剤																																																																																						
<input checked="" type="checkbox"/> A E減水剤																																																																																						
<input checked="" type="checkbox"/> 高性能A E減水剤	単位水量の上限値を守れない場合																																																																																					
・ 流動化剤																																																																																						
種類	備考																																																																																					
・ 高炉スラグ																																																																																						
・ 防水材																																																																																						
・ 膨張剤	合成スラブ																																																																																					
セメントの種類	基礎、梁側、柱、壁																																																																																					
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種	中炭熱ポルトランドセメント、低炭熱ポルトランドセメント																																																																																		
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5																																																																																		
	5℃以上	3	5	7																																																																																		
	0℃以上	5	8	10																																																																																		
セメントの種類	スラブ下		梁下																																																																																			
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種																																																																																				
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17																																																																																			
	5℃以上	12	25																																																																																			
	0℃以上	15	28																																																																																			
コンクリート種類	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	所要スランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所																																																																																		
※ 普通コンクリート	※ Fc 18	※ 15・18	※ 25	捨てコン、押えコン																																																																																		
※ 軽量コンクリート	※ Fc 18	※ 18・21	※ 20																																																																																			
<p>6.3.2 コンクリートの調合</p> <p>(7) 調合管理強度は、設計基準強度 Fc に、下表に示す構造体強度補正值 (S) を加えた値以上、かつ、品質に関する規定を満たすものとする。</p> <p>構造体強度補正值 (S) は下表により、セメントの種類及びコンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。</p> <p>表6.3.2 構造体強度補正值 (S) の標準値</p> <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="2">コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シリカセメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>早強ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 5</td> <td>5 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 11</td> <td>11 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 14</td> <td>14 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 13</td> <td>13 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 9</td> <td>9 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>普通エコセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 6</td> <td>6 ≤ θ</td> </tr> </table> <p>構造体強度補正值 (S) (N/mm<sup>2</sup>)</p> <table border="1"> <tr> <td>6</td> <td>3</td> </tr> </table>		セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)		普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	高炉セメントA種			シリカセメントA種			フライアッシュセメントA種			早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ	中炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ	低炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ	高炉セメントB種	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ	フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ	普通エコセメント	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ	6	3	<p>9節 試験等</p> <p>6.9.3 コンクリートの強度試験</p> <p>(1) 試験体の養生方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準養生 ※ 工事現場における水中養生</li> <li>工事現場における封かん養生</li> </ul> <p>10節 軽量コンクリート</p> <p>6.10.2 付加 種類及び品質</p> <p>常時止あるいは水に直接接する部分 ※ 使用しない ・ 使用する(使用箇所: )</p> <p>(1) 軽量コンクリートの種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1種 気乾単位容積質量 ( ) t/m<sup>3</sup></li> <li>2種 気乾単位容積質量 ( ) t/m<sup>3</sup></li> </ul>	<p>2節 材料</p> <p>7.2.1 鋼材</p> <p>表7.2.1 鋼材の種類等</p> <table border="1"> <tr> <th>適用規格番号</th> <th>種類の記号</th> <th>規格名称等</th> </tr> <tr> <td>JIS G 3101</td> <td>SS400, SS490, SS540</td> <td>一般構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3106</td> <td>SM400, SM490, SM520</td> <td>溶接構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3114</td> <td>SMA400, SMA490</td> <td>溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3136</td> <td>SM400, SM490</td> <td>建築構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3138</td> <td>SNR400, SNR490</td> <td>建築構造用圧延棒鋼</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3350</td> <td>SSC400</td> <td>一般構造用軽量形鋼</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3444</td> <td>STK400, STK490</td> <td>一般構造用炭素鋼鋼管</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3466</td> <td>STKR400, STKR490</td> <td>一般構造用角形鋼管</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3475</td> <td>STKM400, STKM490</td> <td>建築構造用炭素鋼鋼管</td> </tr> </table> <p>付加 鋼材は、原則として高炉材もしくは不純物を適正に管理された電炉材を使用する。ただし、溶接を伴わない小梁等の材料については、一般的な電炉材の使用も可とする。</p> <p>付加 炭素当量などによる鋼材の区分は特記による。</p> <p>付加 鋼材は、原則として高炉材もしくは不純物を適正に管理された電炉材を使用する。ただし、溶接を伴わない小梁等の材料については、一般的な電炉材の使用も可とする。</p>	適用規格番号	種類の記号	規格名称等	JIS G 3101	SS400, SS490, SS540	一般構造用圧延鋼材	JIS G 3106	SM400, SM490, SM520	溶接構造用圧延鋼材	JIS G 3114	SMA400, SMA490	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材	JIS G 3136	SM400, SM490	建築構造用圧延鋼材	JIS G 3138	SNR400, SNR490	建築構造用圧延棒鋼	JIS G 3350	SSC400	一般構造用軽量形鋼	JIS G 3444	STK400, STK490	一般構造用炭素鋼鋼管	JIS G 3466	STKR400, STKR490	一般構造用角形鋼管	JIS G 3475	STKM400, STKM490	建築構造用炭素鋼鋼管	<p>10節 工事現場施工</p> <p>7.10.3 アンカーボルトの設置等</p> <p>(2) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法 ※ 図示による</p> <p>(3) 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 ※ A種 ・ B種</p> <p>(5) 柱底均しモルタル 厚さ ※ 図示による</p> <p>種別: ※ A種 ・ B種</p>																	
セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																					
普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ																																																																																				
高炉セメントA種																																																																																						
シリカセメントA種																																																																																						
フライアッシュセメントA種																																																																																						
早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ																																																																																				
中炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ																																																																																				
低炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ																																																																																				
高炉セメントB種	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ																																																																																				
フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ																																																																																				
普通エコセメント	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ																																																																																				
6	3																																																																																					
適用規格番号	種類の記号	規格名称等																																																																																				
JIS G 3101	SS400, SS490, SS540	一般構造用圧延鋼材																																																																																				
JIS G 3106	SM400, SM490, SM520	溶接構造用圧延鋼材																																																																																				
JIS G 3114	SMA400, SMA490	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材																																																																																				
JIS G 3136	SM400, SM490	建築構造用圧延鋼材																																																																																				
JIS G 3138	SNR400, SNR490	建築構造用圧延棒鋼																																																																																				
JIS G 3350	SSC400	一般構造用軽量形鋼																																																																																				
JIS G 3444	STK400, STK490	一般構造用炭素鋼鋼管																																																																																				
JIS G 3466	STKR400, STKR490	一般構造用角形鋼管																																																																																				
JIS G 3475	STKM400, STKM490	建築構造用炭素鋼鋼管																																																																																				
<p>8節 型枠</p> <p>6.8.1 型枠一般</p> <p>(4) 外部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ</p> <p>※ 20mm ・ 25mm ・ 10mm ・ mm</p> <p>(5) ひび割れ誘発目地</p> <p>位置 ※ 意匠図による</p> <p>寸法 ※ 標仕 [9.7.3(1)(ア)] による ・ 設計図による</p> <p>内部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ</p> <p>仕上げの無い内壁・柱型 ※ 10mm ・ ( ) mm</p> <p>免震、配管ピット壁・柱型、ELVシャフト ※ 0mm ・ ( ) mm</p> <p>床 ※ 10mm ・ 15mm ・ ( ) mm</p>		<p>11節 寒中コンクリート</p> <p>6.11.1 一般事項</p> <p>(2) 寒中コンクリートの適用期間は、(JASSIによる)。</p> <p>12節 暑中コンクリート</p> <p>6.12.2 材料及び調合</p> <p>(3) 構造体強度補正值 (S) は、6 N/mm<sup>2</sup> とする。</p>	<p>13節 マスコンクリート</p> <p>6.13.1 一般事項</p> <p>(2) マスコンクリートの適用場所 ・ 設計図による</p> <p>設計図に記載がない場合でも、現場にて施工性を考慮の上、断面が大きくなるような処置を行う場合は、本項に従うこととする。目安として、壁状部材で800mm以上、マツト状・柱状部材で1000mm以上を目安とする。</p>	<p>6.12.2 材料及び調合</p> <p>(1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。</p> <p>(2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( )</p> <p>混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(イ)を適用すること。</p> <p>(5) スランプ ※ 15cm ・ cm</p> <p>(6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。</p> <p>表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值 (S) の標準値</p> <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="3">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>構造体強度補正值 (S) (N/mm<sup>2</sup>)</p> <table border="1"> <tr> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> <p>* 暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。</p>	セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)			・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	6	3	0	6	<p>3節 工作一般</p> <p>7.3.10 仮組</p> <p>(1) 仮組の実施 ※ 行わない ・ 行う</p>	<p>4節 高力ボルト接合</p> <p>7.4.2 摩擦面の性能及び処理</p> <p>(3) すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う(試験方法: )</p>	<p>6節 溶接接合</p> <p>7.6.3 付加 溶接作業を行う技能資格者</p> <p>技量付加試験</p> <p>※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。</p> <p>・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。</p>	<p>7.6.4 溶接の準備</p> <p>(1) 開先の形状 ※ 鉄骨構造標準図による ・ その他 ( )</p>	<p>7.6.7 溶接施工</p> <p>(1) (a) 鋼製エンドタブの切除 ※ 行わない ・ 行う</p> <p>切除する場合は溶接完了後10mm程度残して切除し、グラインダー仕上げとする。</p> <p>(2) (イ) スカラップの形状 ※ 鉄骨構造標準図による ・ その他 ( )</p>																																																	
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																					
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—																																																																																			
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—																																																																																			
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ																																																																																			
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—																																																																																			
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—																																																																																			
6	3	0	6																																																																																			
<p>6.3.2 コンクリートの調合</p> <p>(7) 調合管理強度は、設計基準強度 Fc に、下表に示す構造体強度補正值 (S) を加えた値以上、かつ、品質に関する規定を満たすものとする。</p> <p>構造体強度補正值 (S) は下表により、セメントの種類及びコンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。</p> <p>表6.3.2 構造体強度補正值 (S) の標準値</p> <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="2">コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シリカセメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>早強ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 5</td> <td>5 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 11</td> <td>11 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 14</td> <td>14 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 13</td> <td>13 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 9</td> <td>9 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>普通エコセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 6</td> <td>6 ≤ θ</td> </tr> </table> <p>構造体強度補正值 (S) (N/mm<sup>2</sup>)</p> <table border="1"> <tr> <td>6</td> <td>3</td> </tr> </table>		セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)		普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	高炉セメントA種			シリカセメントA種			フライアッシュセメントA種			早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ	中炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ	低炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ	高炉セメントB種	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ	フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ	普通エコセメント	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ	6	3	<p>9節 試験等</p> <p>6.9.3 コンクリートの強度試験</p> <p>(1) 試験体の養生方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準養生 ※ 工事現場における水中養生</li> <li>工事現場における封かん養生</li> </ul> <p>10節 軽量コンクリート</p> <p>6.10.2 付加 種類及び品質</p> <p>常時止あるいは水に直接接する部分 ※ 使用しない ・ 使用する(使用箇所: )</p> <p>(1) 軽量コンクリートの種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1種 気乾単位容積質量 ( ) t/m<sup>3</sup></li> <li>2種 気乾単位容積質量 ( ) t/m<sup>3</sup></li> </ul>	<p>2節 材料</p> <p>7.2.1 鋼材</p> <p>表7.2.1 鋼材の種類等</p> <table border="1"> <tr> <th>適用規格番号</th> <th>種類の記号</th> <th>規格名称等</th> </tr> <tr> <td>JIS G 3101</td> <td>SS400, SS490, SS540</td> <td>一般構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3106</td> <td>SM400, SM490, SM520</td> <td>溶接構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3114</td> <td>SMA400, SMA490</td> <td>溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3136</td> <td>SM400, SM490</td> <td>建築構造用圧延鋼材</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3138</td> <td>SNR400, SNR490</td> <td>建築構造用圧延棒鋼</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3350</td> <td>SSC400</td> <td>一般構造用軽量形鋼</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3444</td> <td>STK400, STK490</td> <td>一般構造用炭素鋼鋼管</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3466</td> <td>STKR400, STKR490</td> <td>一般構造用角形鋼管</td> </tr> <tr> <td>JIS G 3475</td> <td>STKM400, STKM490</td> <td>建築構造用炭素鋼鋼管</td> </tr> </table> <p>付加 鋼材は、原則として高炉材もしくは不純物を適正に管理された電炉材を使用する。ただし、溶接を伴わない小梁等の材料については、一般的な電炉材の使用も可とする。</p> <p>付加 炭素当量などによる鋼材の区分は特記による。</p> <p>付加 鋼材は、原則として高炉材もしくは不純物を適正に管理された電炉材を使用する。ただし、溶接を伴わない小梁等の材料については、一般的な電炉材の使用も可とする。</p>	適用規格番号	種類の記号	規格名称等	JIS G 3101	SS400, SS490, SS540	一般構造用圧延鋼材	JIS G 3106	SM400, SM490, SM520	溶接構造用圧延鋼材	JIS G 3114	SMA400, SMA490	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材	JIS G 3136	SM400, SM490	建築構造用圧延鋼材	JIS G 3138	SNR400, SNR490	建築構造用圧延棒鋼	JIS G 3350	SSC400	一般構造用軽量形鋼	JIS G 3444	STK400, STK490	一般構造用炭素鋼鋼管	JIS G 3466	STKR400, STKR490	一般構造用角形鋼管	JIS G 3475	STKM400, STKM490	建築構造用炭素鋼鋼管	<p>10節 工事現場施工</p> <p>7.10.3 アンカーボルトの設置等</p> <p>(2) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法 ※ 図示による</p> <p>(3) 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 ※ A種 ・ B種</p> <p>(5) 柱底均しモルタル 厚さ ※ 図示による</p> <p>種別: ※ A種 ・ B種</p>																	
セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																					
普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ																																																																																				
高炉セメントA種																																																																																						
シリカセメントA種																																																																																						
フライアッシュセメントA種																																																																																						
早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ																																																																																				
中炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ																																																																																				
低炭熱ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ																																																																																				
高炉セメントB種	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ																																																																																				
フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ																																																																																				
普通エコセメント	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ																																																																																				
6	3																																																																																					
適用規格番号	種類の記号	規格名称等																																																																																				
JIS G 3101	SS400, SS490, SS540	一般構造用圧延鋼材																																																																																				
JIS G 3106	SM400, SM490, SM520	溶接構造用圧延鋼材																																																																																				
JIS G 3114	SMA400, SMA490	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材																																																																																				
JIS G 3136	SM400, SM490	建築構造用圧延鋼材																																																																																				
JIS G 3138	SNR400, SNR490	建築構造用圧延棒鋼																																																																																				
JIS G 3350	SSC400	一般構造用軽量形鋼																																																																																				
JIS G 3444	STK400, STK490	一般構造用炭素鋼鋼管																																																																																				
JIS G 3466	STKR400, STKR490	一般構造用角形鋼管																																																																																				
JIS G 3475	STKM400, STKM490	建築構造用炭素鋼鋼管																																																																																				
<p>6.8.2 材料</p> <p>(1) せき板の材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル</li> <li>・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( )</li> </ul> <p>(2) 合板の厚さ</p> <p>※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )</p>		<p>11節 寒中コンクリート</p> <p>6.11.1 一般事項</p> <p>(2) 寒中コンクリートの適用期間は、(JASSIによる)。</p> <p>12節 暑中コンクリート</p> <p>6.12.2 材料及び調合</p> <p>(3) 構造体強度補正值 (S) は、6 N/mm<sup>2</sup> とする。</p>	<p>13節 マスコンクリート</p> <p>6.13.1 一般事項</p> <p>(2) マスコンクリートの適用場所 ・ 設計図による</p> <p>設計図に記載がない場合でも、現場にて施工性を考慮の上、断面が大きくなるような処置を行う場合は、本項に従うこととする。目安として、壁状部材で800mm以上、マツト状・柱状部材で1000mm以上を目安とする。</p>	<p>6.12.2 材料及び調合</p> <p>(1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。</p> <p>(2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( )</p> <p>混和材を使用する場合は、6.13.2(2)(イ)を適用すること。</p> <p>(5) スランプ ※ 15cm ・ cm</p> <p>(6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。</p> <p>表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值 (S) の標準値</p> <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="3">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 中炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低炭熱ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>構造体強度補正值 (S) (N/mm<sup>2</sup>)</p> <table border="1"> <tr> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </table> <p>* 暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。</p>	セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)			・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	6	3	0	6	<p>3節 工作一般</p> <p>7.3.10 仮組</p> <p>(1) 仮組の実施 ※ 行わない ・ 行う</p>	<p>4節 高力ボルト接合</p> <p>7.4.2 摩擦面の性能及び処理</p> <p>(3) すべり係数試験 ※ 行わない ・ 行う(試験方法: )</p>	<p>6節 溶接接合</p> <p>7.6.3 付加 溶接作業を行う技能資格者</p> <p>技量付加試験</p> <p>※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。</p> <p>・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。</p>	<p>7.6.4 溶接の準備</p> <p>(1) 開先の形状 ※ 鉄骨構造標準図による ・ その他 ( )</p>	<p>7.6.7 溶接施工</p> <p>(1) (a) 鋼製エンドタブの切除 ※ 行わない ・ 行う</p> <p>切除する場合は溶接完了後10mm程度残して切除し、グラインダー仕上げとする。</p> <p>(2) (イ) スカラップの形状 ※ 鉄骨構造標準図による ・ その他 ( )</p>																																																	
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																																																					
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—																																																																																			
・ 中炭熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—																																																																																			
・ 低炭熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ																																																																																			
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—																																																																																			
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—																																																																																			
6	3	0	6																																																																																			
<p>工事名称</p> <p>公共沖縄北部医療センター新築工事(建築工事)</p>		<p>図面名称</p> <p>構造特記仕様書(2)(車寄せ底3-2)</p>		<p>縮尺</p> <p>[A1] - [A3] - 図面番号 S - 502</p>		<p>工事場所</p> <p>沖縄県名護市大北1丁目15-9</p>		<p>発注機関</p> <p>沖縄県北部医療組合</p>		<p>工事年度</p> <p>令和7年度</p>		<p>摘要</p>		<p>検印</p>																																																																								
<p>JV名称</p> <p>内藤・ARG・設備研究所設計共同体</p>		<p>代表企業</p> <p>株式会社内藤建築事務所</p>		<p>所在地</p> <p>福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16</p>		<p>一級建築士</p> <p>山田 剛</p>		<p>一級建築士</p> <p>末吉 謙太郎</p>		<p>一級建築士</p> <p>丸山 茂義</p>		<p>登録番号</p> <p>登録第310062号</p>		<p>登録番号</p> <p>登録第335522号</p>																																																																								
<p>登録番号</p> <p>登録第1-12326号</p>		<p>登録番号</p> <p>登録第173320号</p>		<p>登録番号</p> <p>登録第1058号</p>		<p>登録番号</p> <p>登録第9280号</p>		<p>登録番号</p> <p>登録第173320号</p>		<p>登録番号</p> <p>登録第1058号</p>		<p>登録番号</p> <p>登録第9280号</p>		<p>登録番号</p> <p>登録第1058号</p>																																																																								

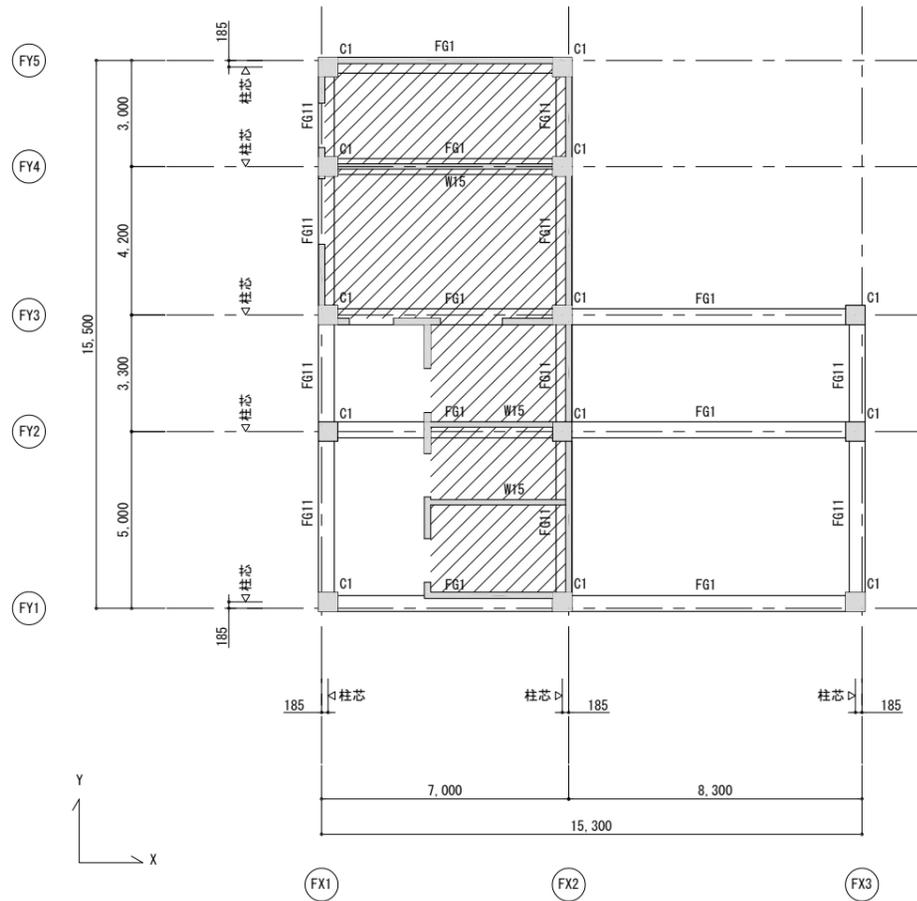


(北側車寄せ庇の地面レベル)  
3FL (+29.20)  
2FL (+24.20)  
GL (+18.00) 1FL (+18.20)



基礎下端については地盤埋戻し時にセメント系固化剤を混ぜ合わせる等を行い、必要地耐力：50kN/m<sup>2</sup>（長期）以上を確保できるように配慮すること。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	ボーリング柱状図 (車寄せ庇3-2)
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1] 1/150 [A3] 1/300 図面番号 S - 509
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体
工事年度	令和 7 年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所 登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
摘要	管理建築士 設計 製図	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検印	一級建築士	山田 剛	登録番号 登録第310062号
	一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
	一級建築士	丸山 茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号



1階柱梁・1階梁床伏図 1/100

特記なき限り下記による

1. 1FL=GL+200=29.20

2. 一般スラブ FS1

一般スラブ天端 1FL-300

1FL-100

3. 一般壁 W18

4. 基礎梁天端 1FL-300

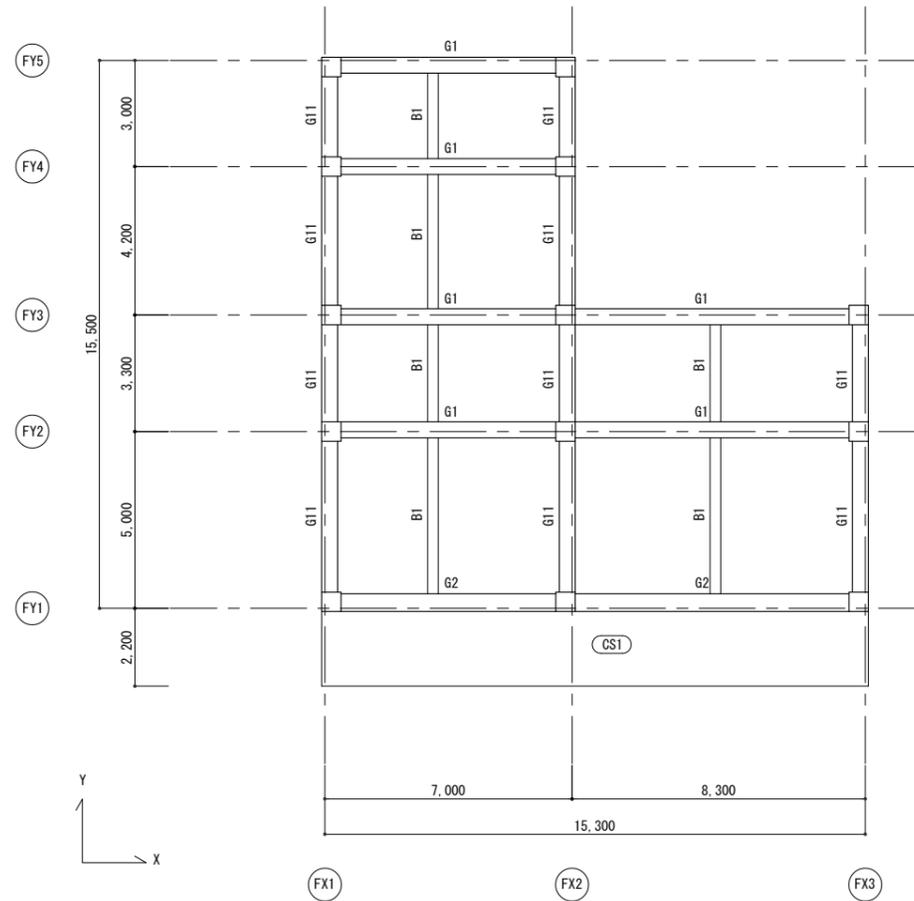
( )内数値は、1FLからの梁天端レベルを示す。

5. フレーム内のスリットは軸組図による。

6. 必要地耐力 (長期) : 60kN/m<sup>2</sup>

平板載荷試験を行い上記必要地耐力を確認すること。

必要地耐力を確認できない場合は、地盤改良を行い必要地耐力を確保すること。



R階梁床伏図 1/100

特記なき限り下記による

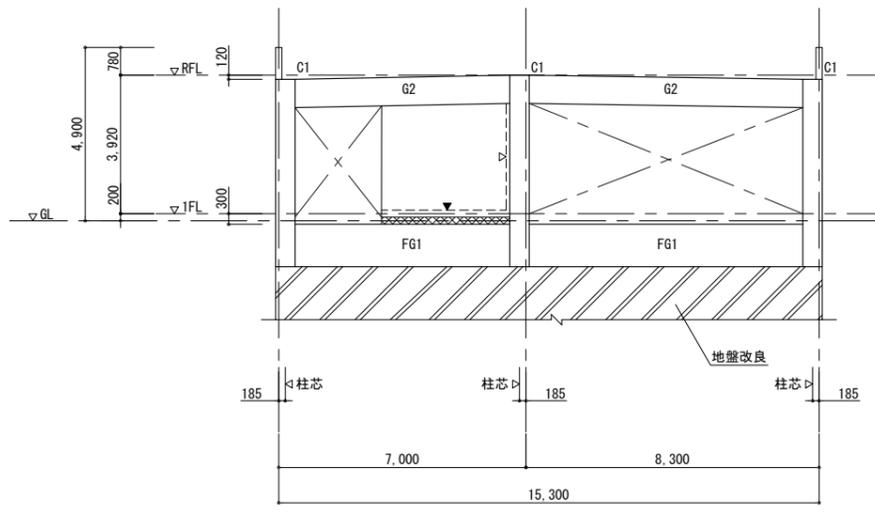
1. 一般スラブ S1

2. 梁天端 屋根勾配による

( )内数値は、RFLからの梁天端レベルを示す。

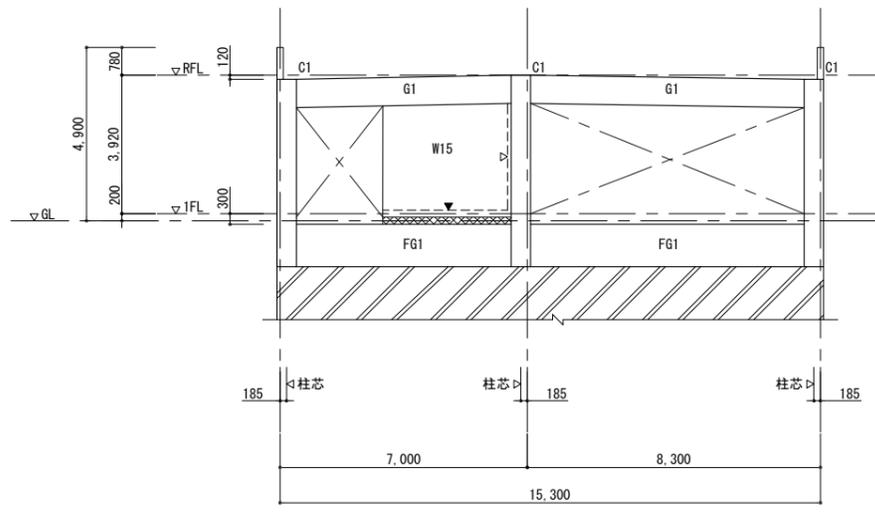
3. 一般スラブ天端 屋根勾配による

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)			図面名称	1階柱梁床伏図、R階梁床伏図 (車寄せ庇3-2)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	【A1】 1/100	【A3】 1/200	図面番号	S - 510
発注機関	沖縄県北部医療組合			設 計 者	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和 7 年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘 要	管理建築士 設 計 製 図				所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
					一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
				一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 登録第9280号	
検 印				一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	



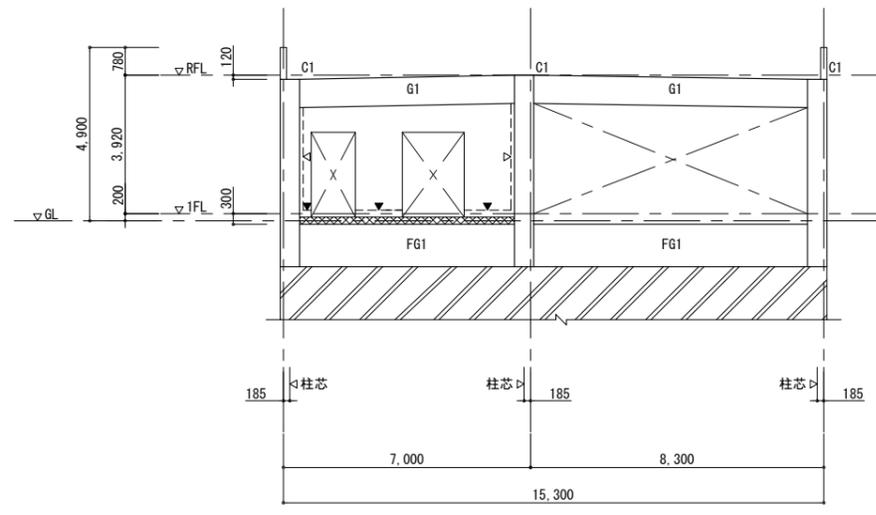
FX1                      FX2                      FX3

FY1通軸組図 1/100



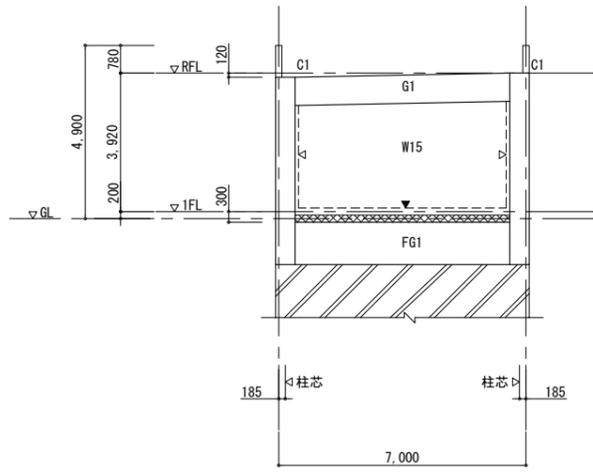
FX1                      FX2                      FX3

FY2通軸組図 1/100



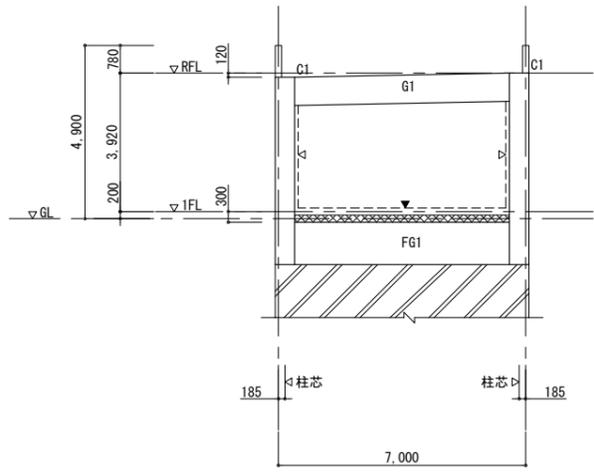
FX1                      FX2                      FX3

FY3通軸組図 1/100



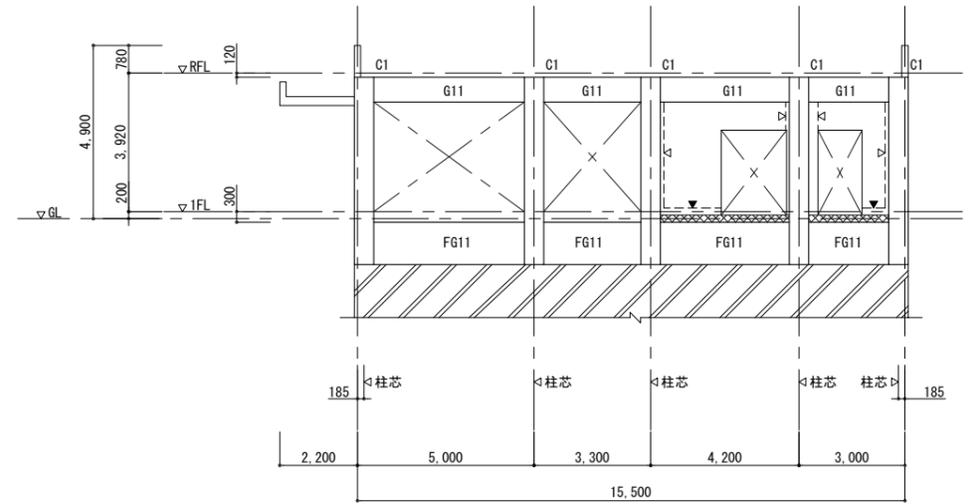
FX1                      FX2

FY4通軸組図 1/100



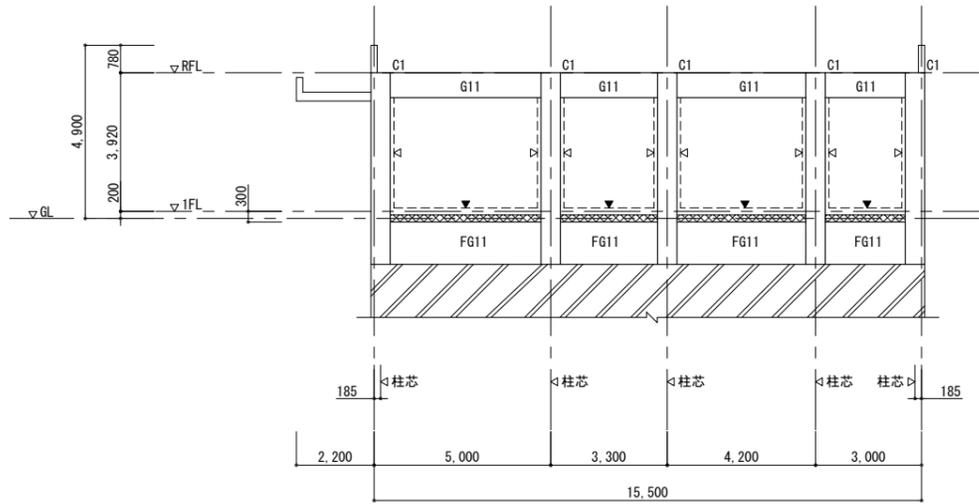
FX1                      FX2

FY5通軸組図 1/100



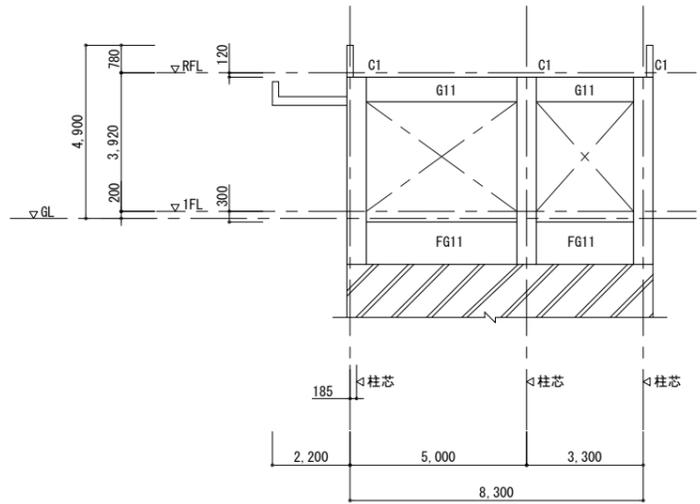
FY1                      FY2                      FY3                      FY4                      FY5

FY1通軸組図 1/100



FY1                      FY2                      FY3                      FY4                      FY5

FY2通軸組図 1/100



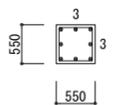
FY1                      FY2                      FY3

FY3通軸組図 1/100

- 特記なき限り下記による
1. 一般壁 W18
  2. 地中梁天端 1FL-300
  3. ◁鉛直スリットを示す。  
▼水平スリットを示す。
  4. 増打コンクリートを示す。

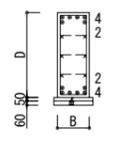
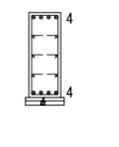
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	軸組図 (車寄せ底3-2)
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/100 【A3】1/200
発注機関	沖縄県北部医療組合	図面番号	S - 511
工事年度	令和 7 年度	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体
摘要	管理建築士 設計 製図	代表企業	株式会社内藤建築事務所
		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検印		一級建築士	山田 剛
		一級建築士	末吉 謙太郎
		一級建築士	丸山 茂義
		一級建築士	

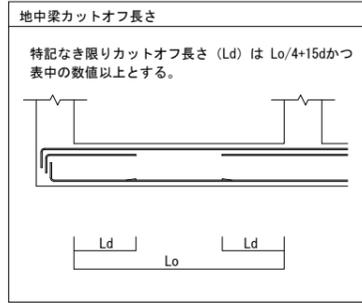
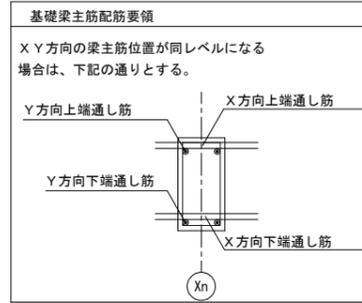
柱リスト 1/50

階	符号	C1
1階	断面	
	Dx × Dy	550 × 550
	主筋	8-D25
	フープ	□-D13@100

基礎梁リスト 1/50

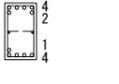
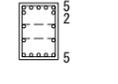
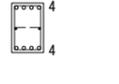
特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@100とする。

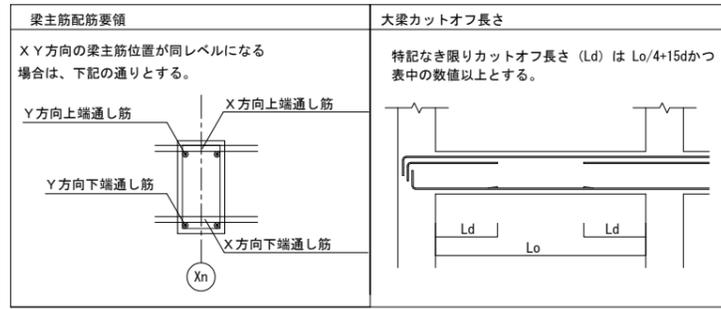
符号	FG1	FG11	
位置	全断面	全断面	
断面			
	B × D	450 × 1,200	450 × 1,200
	上端筋	6-D25	4-D25
	下端筋	6-D25	4-D25
	あばら筋	□-D13@200	□-D13@200
	腹筋	6-D13	6-D13



大梁リスト 1/50

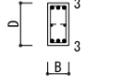
特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@100とする。・※付の腹筋は、接続する柱にL2定着とする。

R階	階	符号	G1	G2	G11
	位置	全断面	全断面	全断面	
	断面				
	B × D	450 × 800	500 × 800	450 × 700	
	上端筋	6-D22	7-D22	4-D22	
	下端筋	5-D22	5-D22	4-D22	
	スカーフ	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@200	
腹筋	2-D10	※4-D22	2-D10		



小梁リスト 1/50

特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@100とする。

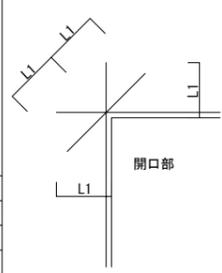
階	符号	B1
R階	位置	全断面
	断面	
	B × D	300 × 600
	上端筋	3-D19
	下端筋	3-D19
	スカーフ	□-D10@200
腹筋	2-D10	

床版リスト

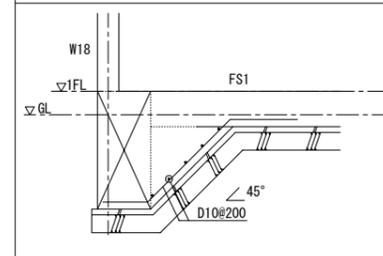
名称	厚さ	位置	短辺 (主筋方向)		長辺 (配力筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S1	150	上端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
GS1	250	上端筋	D13@100	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D10@100	同左	D10@200	同左	
FS1	300	上端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	
		下端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	

壁リスト 1/50

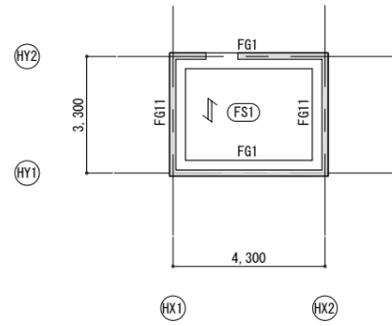
巾止め筋 D10@1000

符号	W15	W18	開口補強筋要領	
	断面			
	厚さ	150		180
	縦筋	D10@200 ダブル		D10@200 ダブル
横筋	D10@200 ダブル	D10@200 ダブル		
開口補強筋	縦筋 2-D13	2-D13		
横筋	2-D13	2-D13		
斜筋	1-D13	1-D13		

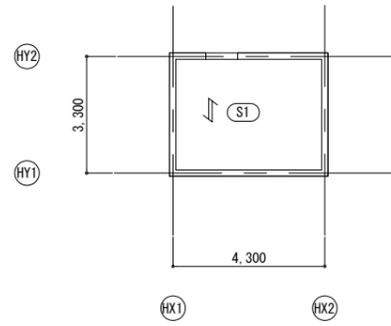
スラブ端部配筋詳細図 1/30



工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	部材リスト (車寄せ底3-2)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/50	【A3】1/100	図面番号 S-512	
発注機関	沖縄県北部医療組合	設 計	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号
摘 要	管理建築士 設 計 製 図		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
			一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
		一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号	
検 印		一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	



基礎伏図 1/100

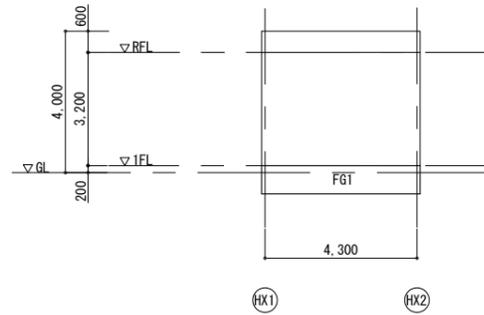


屋根伏図 1/100

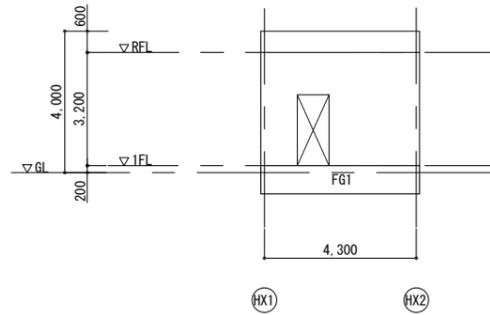
使用材料	
コンクリート	Fc24N/mm <sup>2</sup> S=15
鉄筋	SD295 D10~D16
	SD345 D19~D25
必要地耐力	50kN/m <sup>2</sup>
基礎下端については平板載荷試験を行い、必要地耐力を確保できない場合は地盤改良を行う事。	

- 特記なき限り下記による
- 1FL=GL+200
  - 一般壁 W18
  - 一般スラブ天端 1FL±0
  - 基礎梁天端 1FL±0
- ( )内数値は1FLからの梁天端を示す。  
 ↖スラブリの主筋方向を示す

- 特記なき限り下記による
1. 梁天端は屋根勾配による
  2. ○→: スラブリ勾配を示し、  
 < >内数値はRFLからのスラブリ天端レベルを示す
  3. ↖スラブリの主筋方向を示す



HY1通軸組図 1/100



HY2通軸組図 1/100

- 特記なき限り下記による
1. 一般壁 W18
  2. 地中梁天端 1FL±0
  3. : 増打ちコンクリートを示す

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)			図面名称	伏図・軸組図 (オイルポンプ室)		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	[A1]	[A3]	図面番号 S - 701
発注機関	沖縄県北部医療組合			JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和 7 年度			代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要				所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	製図	一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
				一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
				一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

符号	FG1	FG11
位置	全断面	全断面
断面		
B×D	450×800	450×800
上端筋	4-D22	4-D22
下端筋	4-D22	4-D22
スタックアップ	□-D13@200	□-D13@200
腹筋	2-D13	2-D13

床版リスト

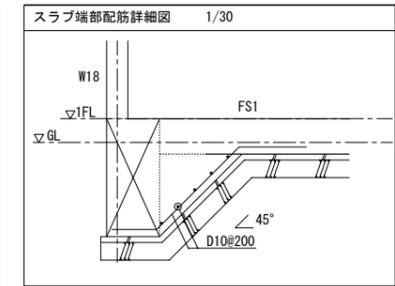
名称	厚さ	位置	短辺(主筋方向)		長辺(配筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S1	150	上端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	土間コン t=50 砕石 t=150
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
FS1	300	上端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	
		下端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	

壁リスト 1/50 巾止め筋 D10@1000

符号	W18	開口補強筋要領	壁配筋要領図 1/50
断面			a) L型交差部の縦・横筋の配置  L型隅角部補助筋 4-D13以上 b) T型交差部の縦・横筋の配置  T型交差部補助筋 4-D13以上
厚さ	180		
縦筋	D13@200 グラブル		
横筋	D10@200 グラブル		
開口補強筋	縦筋	2-D13	
	横筋	2-D16	
	斜筋	1-D13	

小底配筋要領図 1/30 
設備基礎配筋要領図 1/30 
バラベットの配筋要領図 1/30 

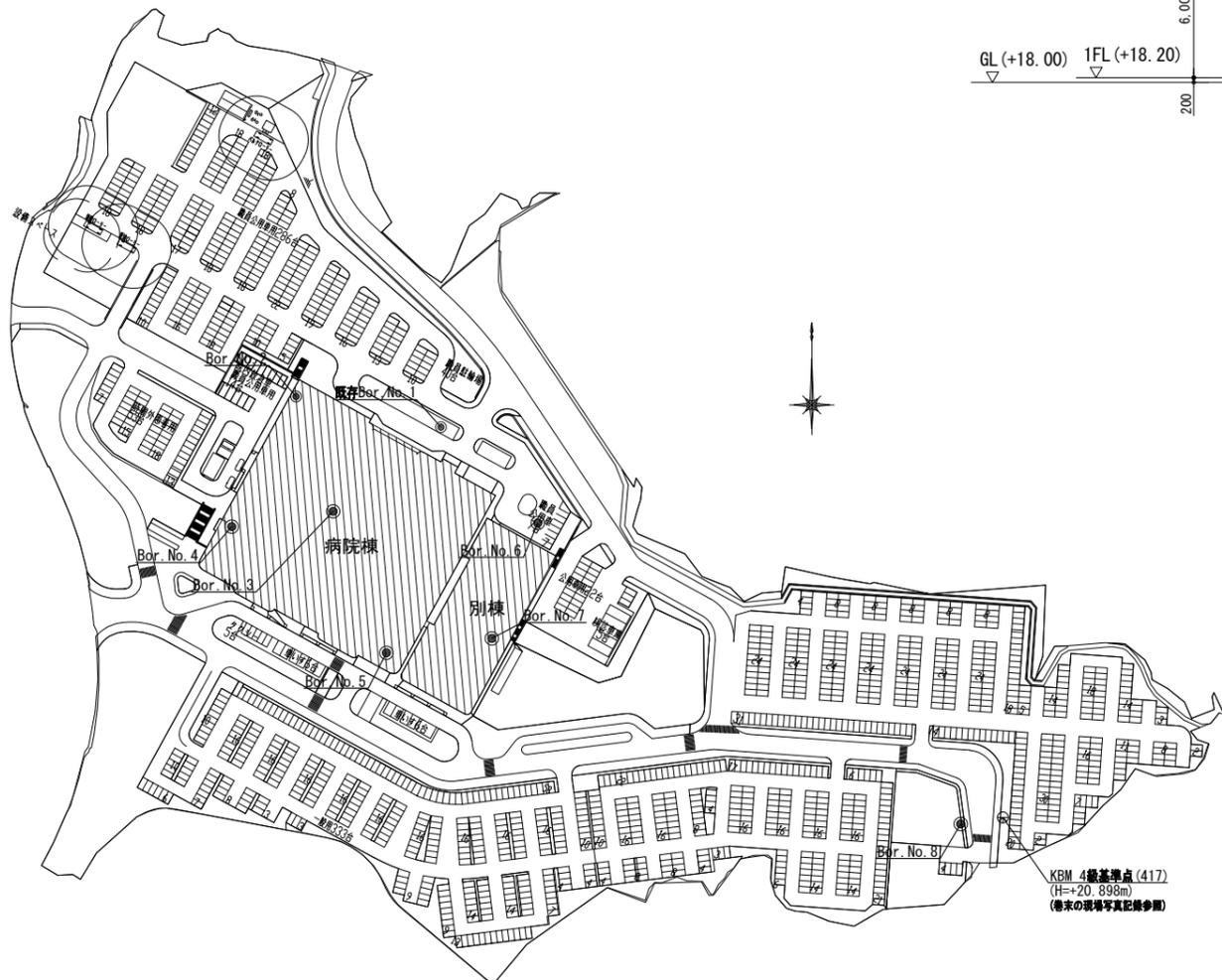
※H寸法は意匠図による。



工事名称	図面名称	部材リスト (オイルポンプ室)				
		縮尺	【A1】	【A3】	図面番号	
工事名称	公共沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	縮尺	【A1】	【A3】	S - 702	
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体			
発注機関	沖縄県北部医療組合	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号	
工事年度	令和7年度	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16			
摘要		設計者	一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
検印	管理建築士 設計 製図		一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
			一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号



<b>3節 コンクリートの材料及び調合</b> 6.3.1 コンクリートの材料 (1) セメントの種類 種類 使用箇所(コンクリート番号) ※ 普通ポルトランドセメント 1, 2, 3 ・ 高炉セメントB種 (2) 骨材 細骨材及び混合細骨材 ・ フェロケケルスラグ細骨材 G 使用部位( ) ・ 鋼スラグ細骨材 G 使用部位( ) ・ 電気炉酸化スラグ細骨材 G 使用部位( ) 砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B 砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B (4) 混和材料 (a) 混和剤の種類及び適用(下記のものを使用可とする) 種類 備考 ・ A E剤 ・ 高性能減水剤 ・ 減水剤 ○ A E減水剤 ○ 高性能A E減水剤 単位水量の上限値を守れない場合 ・ 流動化剤 促進型のものとは原則として使用しない。 現場にて使用する流動化剤については、施工性及び品質を考慮の上、決定すること。 (b) 混和剤の種類及び適用(下記のものを使用可とする) 種類 備考 ・ 高炉スラグ ○ 防水材 ・ 膨張剤 合成スラブ 上記の混和材を用いる場合には、品質及び供給の安定性を確認すること。		6.8.4 型枠の存置期間及び取外し (2) せき板及び支柱の最小存置期間は下表による。 表6.8.2 せき板の最小存置期間 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="4">基礎、梁側、柱、壁</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種</th> <th>高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td> <td>15℃以上</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>0℃以上</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> </table> 表6.8.3 支柱の最小存置期間 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">スラブ下</th> <th colspan="2">梁下</th> </tr> <tr> <th>セメントの種類</th> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種</th> <th>中熟ポルトランドセメント、低熟ポルトランドセメント、高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td> <td>15℃以上</td> <td>8</td> <td>17</td> <td rowspan="3">28</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>12</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>0℃以上</td> <td>15</td> <td>28</td> </tr> </table> 付加 コンクリートの圧縮強度による場合 片持梁、庇、長大スパンの梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱、または施工荷重が著しく大きい場合の支柱等は、存置期間の延長・2層受け等を行う事。		施工箇所	基礎、梁側、柱、壁				セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	5℃以上	3	5	7	0℃以上	5	8	10	施工箇所	スラブ下		梁下		セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	中熟ポルトランドセメント、低熟ポルトランドセメント、高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	28	5℃以上	12	25	0℃以上	15	28	<b>14節 無筋コンクリート</b> 6.14.1 一般事項 6.14.2 材料及び調合 (2) コンクリートの種類 コンクリート 設計基準強度 所要スランプ 粗骨材の最大寸法 使用箇所 ※ 普通コンクリート ※ Fc 18 ※ 15・18 ※ 25 ○ 20 捨てコン、押えコン ※ 軽量コンクリート ※ Fc 18 ※ 18・21・20 セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 G (捨コンクリート) 呼び強度は設計基準強度以上とする。(構造体強度補正は行わない)		7.6.12 溶接部の試験 (1)(f)(b) 超音波探傷試験 ※ 行う ・ 行わない 工場溶接の場合 A0L (%) ※ 4.0 ・ 2.0 ※ すべて ※ 第6水準	
施工箇所	基礎、梁側、柱、壁																																																
	セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種																																													
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5																																													
	5℃以上	3	5	7																																													
	0℃以上	5	8	10																																													
施工箇所	スラブ下		梁下																																														
	セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、フライアッシュセメントA種	中熟ポルトランドセメント、低熟ポルトランドセメント、高炉セメントB種、シリカセメントB種、フライアッシュセメントB種																																													
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	28																																													
	5℃以上	12	25																																														
	0℃以上	15	28																																														
<b>7章 鉄骨工事</b> 7.1.3 付加 鉄骨製作工場 ※ 建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「M」グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場		<b>8節 錆止め塗装</b> 7.8.4 塗料種別 (1) ※ 標仕の表18.3.1のA種 ・ 標仕の表18.3.1のB種 ・ 塗装を行わない (2) 耐火被覆面への錆止め塗装 ※ 行わない ・ 行う(耐火被覆の付着性を損なわない仕様とする)		<b>9節 耐火被覆</b> 7.9.3 付加 耐火被覆材の使用 ※ 有 ・ 無 耐火被覆の性能、品質等 ※ 所要性能及び適用場所は建築特記による。		<b>10節 工事現場施工</b> 7.10.3 アンカーボルトの設置等 (2) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法 ※ 図示による (3) 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 ※ A種 ・ B種 (5) 柱底均しモルタル 厚さ ※ 図示による 種別 ※ A種 ・ B種																																											
6.3.2 コンクリートの調合 (7) 調合管理強度は、設計基準強度Fcに、下表に示す構造体強度補正值(S)を加えた値以上、かつ、品質に関する規定を満たすものとする。 構造体強度補正值(S)は下表により、セメントの種類及びコンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。 表6.3.2 構造体強度補正值(S)の標準値 <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="2">コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シリカセメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>早強ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 5</td> <td>5 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>中熟ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 11</td> <td>11 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>低熟ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 14</td> <td>14 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 13</td> <td>13 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 9</td> <td>9 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>普通エコセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 6</td> <td>6 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> </table>		セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)		普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	高炉セメントA種			シリカセメントA種			フライアッシュセメントA種			早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ	中熟ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ	低熟ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ	高炉セメントB種	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ	フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ	普通エコセメント	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	<b>9節 試験等</b> 6.9.3 コンクリートの強度試験 (1) 試験体の養生方法 ・ 標準養生 ※ 工事現場における水中養生 ・ 工事現場における封かん養生		<b>10節 軽量コンクリート</b> 6.10.2 付加 種類及び品質 常時止あるいは水に直接接する部分 ※ 使用しない ・ 使用する(使用箇所: ) (1) 軽量コンクリートの種別 ・ 1種 気乾単位容積質量 ( ) t/m <sup>3</sup> ・ 2種 気乾単位容積質量 ( ) t/m <sup>3</sup>									
セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)																																																
普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ																																															
高炉セメントA種																																																	
シリカセメントA種																																																	
フライアッシュセメントA種																																																	
早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ																																															
中熟ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ																																															
低熟ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ																																															
高炉セメントB種	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ																																															
フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ																																															
普通エコセメント	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ																																															
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3																																															
<b>8節 型枠</b> 6.8.1 型枠一般 (4) 外部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ ※ 20mm ・ 25mm ・ 10mm ・ mm (5) ひび割れ誘発目地 位置 ※ 意匠図による 寸法 ※ 標仕 [9.7.3 (1)(ア)] による ・ 設計図による 内部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ 仕上げの無い内壁・柱型 ※ 10mm ・ ( ) mm 免震、配管ピット壁・柱型、ELVシャフト ※ 0mm ・ ( ) mm 床 ※ 10mm ・ 15mm ・ ( ) mm		<b>11節 寒中コンクリート</b> 6.11.1 一般事項 (2) 寒中コンクリートの適用期間は、(JASSIによる)。 <b>12節 暑中コンクリート</b> 6.12.2 材料及び調合 (3) 構造体強度補正值(S)は、6 N/mm <sup>2</sup> とする。		<b>13節 マスコンクリート</b> 6.13.1 一般事項 付加 (2) マスコンクリートの適用場所 ・ 設計図による 設計図に記載がない場合でも、現場にて施工性を考慮の上、断面が大きくなるような処置を行う場合は、本項に従うこととする。目安として、壁状部材で800mm以上、マット状・柱状部材で1000mm以上を目安とする。		<b>11節 寒中コンクリート</b> 6.11.1 一般事項 (2) 寒中コンクリートの適用期間は、(JASSIによる)。 <b>12節 暑中コンクリート</b> 6.12.2 材料及び調合 (3) 構造体強度補正值(S)は、6 N/mm <sup>2</sup> とする。																																											
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.13.2 材料及び調合 (1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。 (2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( ) 混和材を使用する場合は、6.13.2 (2) (f)を適用すること。 (5) スランプ ※ 15cm ・ cm (6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。 表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値 <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="3">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>○ 中熟ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低熟ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </table> * 暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。		セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)			・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	○ 中熟ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	・ 低熟ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	<b>3節 工作一般</b> 7.3.10 (1) 仮組の実施 ※ 行わない ・ 行う <b>4節 高力ボルト接合</b> 7.4.2 摩擦面の性能及び処理 ※ 行わない ・ 行う(試験方法等: ) <b>6節 溶接接合</b> 7.6.3 付加 技量付加試験 溶接作業を行う技能資格者 ※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。 ・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。 7.6.4 溶接の準備 (1) 開先の形状 ※ 鉄骨構造標準図による ・ その他 ( ) 7.6.7 溶接施工 (1) (a) 鋼製エンドタブの切除 ※ 行わない ・ 行う 切除する場合は溶接完了後10mm程度残して切除し、グラインダー仕上げとする。 (2) (a) スカラップの形状 ※ 鉄骨構造標準図による ・ その他 ( )																	
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—																																														
○ 中熟ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—																																														
・ 低熟ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ																																														
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—																																														
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—																																														
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0																																														
<b>8節 錆止め塗装</b> 7.8.4 塗料種別 (1) ※ 標仕の表18.3.1のA種 ・ 標仕の表18.3.1のB種 ・ 塗装を行わない (2) 耐火被覆面への錆止め塗装 ※ 行わない ・ 行う(耐火被覆の付着性を損なわない仕様とする)		<b>9節 耐火被覆</b> 7.9.3 付加 耐火被覆材の使用 ※ 有 ・ 無 耐火被覆の性能、品質等 ※ 所要性能及び適用場所は建築特記による。		<b>10節 工事現場施工</b> 7.10.3 アンカーボルトの設置等 (2) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法 ※ 図示による (3) 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 ※ A種 ・ B種 (5) 柱底均しモルタル 厚さ ※ 図示による 種別 ※ A種 ・ B種																																													
6.3.2 コンクリートの調合 (7) 調合管理強度は、設計基準強度Fcに、下表に示す構造体強度補正值(S)を加えた値以上、かつ、品質に関する規定を満たすものとする。 構造体強度補正值(S)は下表により、セメントの種類及びコンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。 表6.3.2 構造体強度補正值(S)の標準値 <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="2">コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シリカセメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>早強ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 5</td> <td>5 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>中熟ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 11</td> <td>11 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>低熟ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 14</td> <td>14 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 13</td> <td>13 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントB種</td> <td>0 ≤ θ &lt; 9</td> <td>9 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>普通エコセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 6</td> <td>6 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> </table>		セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)		普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	高炉セメントA種			シリカセメントA種			フライアッシュセメントA種			早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ	中熟ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ	低熟ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ	高炉セメントB種	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ	フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ	普通エコセメント	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	<b>9節 試験等</b> 6.9.3 コンクリートの強度試験 (1) 試験体の養生方法 ・ 標準養生 ※ 工事現場における水中養生 ・ 工事現場における封かん養生		<b>10節 軽量コンクリート</b> 6.10.2 付加 種類及び品質 常時止あるいは水に直接接する部分 ※ 使用しない ・ 使用する(使用箇所: ) (1) 軽量コンクリートの種別 ・ 1種 気乾単位容積質量 ( ) t/m <sup>3</sup> ・ 2種 気乾単位容積質量 ( ) t/m <sup>3</sup>									
セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θの範囲(℃)																																																
普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ																																															
高炉セメントA種																																																	
シリカセメントA種																																																	
フライアッシュセメントA種																																																	
早強ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ																																															
中熟ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 11	11 ≤ θ																																															
低熟ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 14	14 ≤ θ																																															
高炉セメントB種	0 ≤ θ < 13	13 ≤ θ																																															
フライアッシュセメントB種	0 ≤ θ < 9	9 ≤ θ																																															
普通エコセメント	0 ≤ θ < 6	6 ≤ θ																																															
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3																																															
<b>8節 型枠</b> 6.8.1 型枠一般 (4) 外部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ ※ 20mm ・ 25mm ・ 10mm ・ mm (5) ひび割れ誘発目地 位置 ※ 意匠図による 寸法 ※ 標仕 [9.7.3 (1)(ア)] による ・ 設計図による 内部に面するコンクリート打放し仕上げの場合の打増し厚さ 仕上げの無い内壁・柱型 ※ 10mm ・ ( ) mm 免震、配管ピット壁・柱型、ELVシャフト ※ 0mm ・ ( ) mm 床 ※ 10mm ・ 15mm ・ ( ) mm		<b>11節 寒中コンクリート</b> 6.11.1 一般事項 (2) 寒中コンクリートの適用期間は、(JASSIによる)。 <b>12節 暑中コンクリート</b> 6.12.2 材料及び調合 (3) 構造体強度補正值(S)は、6 N/mm <sup>2</sup> とする。		<b>13節 マスコンクリート</b> 6.13.1 一般事項 付加 (2) マスコンクリートの適用場所 ・ 設計図による 設計図に記載がない場合でも、現場にて施工性を考慮の上、断面が大きくなるような処置を行う場合は、本項に従うこととする。目安として、壁状部材で800mm以上、マット状・柱状部材で1000mm以上を目安とする。		<b>11節 寒中コンクリート</b> 6.11.1 一般事項 (2) 寒中コンクリートの適用期間は、(JASSIによる)。 <b>12節 暑中コンクリート</b> 6.12.2 材料及び調合 (3) 構造体強度補正值(S)は、6 N/mm <sup>2</sup> とする。																																											
6.8.2 材料 (1) せき板の材料 ※ 合板 ・ 断熱材を兼用した型枠材 ・ 鋼製型枠パネル ・ ラワン代替合板 ・ 針葉樹複合合板 ・ その他 ( ) (2) 合板の厚さ ※ 12mm ・ 15mm (使用箇所: )		6.13.2 材料及び調合 (1) セメントの種類 ※表6.13.1に、適用するセメントの種類を示す。 (2) 混和剤の種類 ※ A E減水剤または高性能A E減水剤 ・ その他 ( ) 混和材を使用する場合は、6.13.2 (2) (f)を適用すること。 (5) スランプ ※ 15cm ・ cm (6) コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正值は下表による。 表6.13.1 マスコンクリートの構造体強度補正值(S)の標準値 <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th colspan="3">コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)</th> </tr> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント</td> <td>0 ≤ θ &lt; 8</td> <td>8 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>○ 中熟ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ 低熟ポルトランドセメント</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td>—</td> <td>0 ≤ θ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S) (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </table> * 暑中期間とは、日平均気温の年平均値が25℃を超える期間をいう。		セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)			・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	○ 中熟ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	・ 低熟ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—	・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—	構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	<b>3節 工作一般</b> 7.3.10 (1) 仮組の実施 ※ 行わない ・ 行う <b>4節 高力ボルト接合</b> 7.4.2 摩擦面の性能及び処理 ※ 行わない ・ 行う(試験方法等: ) <b>6節 溶接接合</b> 7.6.3 付加 技量付加試験 溶接作業を行う技能資格者 ※ 否 ただし、溶接技能者は、溶接条件に応じた JIS Z 3801及び JIS Z 3841 の資格者であること。 ・ 要 ただし、建築鉄骨溶接技量検定の合格者、又は、同等の技量を有すると工事監理者が認めた者は免除する。 7.6.4 溶接の準備 (1) 開先の形状 ※ 鉄骨構造標準図による ・ その他 ( ) 7.6.7 溶接施工 (1) (a) 鋼製エンドタブの切除 ※ 行わない ・ 行う 切除する場合は溶接完了後10mm程度残して切除し、グラインダー仕上げとする。 (2) (a) スカラップの形状 ※ 鉄骨構造標準図による ・ その他 ( )																	
セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)																																																
・ 普通ポルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—																																														
○ 中熟ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—																																														
・ 低熟ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ																																														
・ 高炉セメントB種	—	0 ≤ θ	—																																														
・ フライアッシュセメントB種	—	0 ≤ θ	—																																														
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0																																														
<b>8節 錆止め塗装</b> 7.8.4 塗料種別 (1) ※ 標仕の表18.3.1のA種 ・ 標仕の表18.3.1のB種 ・ 塗装を行わない (2) 耐火被覆面への錆止め塗装 ※ 行わない ・ 行う(耐火被覆の付着性を損なわない仕様とする)		<b>9節 耐火被覆</b> 7.9.3 付加 耐火被覆材の使用 ※ 有 ・ 無 耐火被覆の性能、品質等 ※ 所要性能及び適用場所は建築特記による。		<b>10節 工事現場施工</b> 7.10.3 アンカーボルトの設置等 (2) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法 ※ 図示による (3) 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 ※ A種 ・ B種 (5) 柱底均しモルタル 厚さ ※ 図示による 種別 ※ A種 ・ B種																																													
<b>工事名称</b> 公立沖縄北部医療センター新築工事(建築工事) <b>工事場所</b> 沖縄県名護市大北1丁目15-9 <b>発注機関</b> 沖縄県北部医療組合 <b>工事年度</b> 令和7年度 <b>摘要</b> <b>検印</b>		<b>図面名称</b> 構造特記仕様書(2)(ろ過機械室) <b>縮尺</b> [A1] - [A3] - <b>図面番号</b> S - 712 <b>設</b> <b>計</b> <b>者</b> <b>JV名称</b> 内藤・ARG・設備研究所設計共同体 <b>代表企業</b> 株式会社内藤建築事務所 登録番号 福岡県知事登録第1-12326号 <b>所在地</b> 福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16 <b>一級建築士</b> 山田 剛 登録番号 登録第310062号 <b>一級建築士</b> 末吉 謙太郎 登録番号 登録第335522号 第9280号 <b>一級建築士</b> 丸山 茂義 登録番号 登録第173320号 第1058号		<b>施行令第129条の2の3の事項</b> ・ 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。 ㊦ 建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食または腐朽のおそれがないものとする。 ㊦ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水槽等」という。)は、支持構造部又は構造物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。 ㊦ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とすること。 ㊦ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。 ㊦ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備(建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備(屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものは除く。以下単に「給湯設備」という。)を除く。)、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。 ㊦ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。 ㊦ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。 ㊦ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃緩和のための措置を講ずること。 ㊦ 給湯設備は、第11の規定によるほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。 ㊦ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。 ㊦ 給湯器等の転倒防止についての告示1447号を遵守すること。																																													



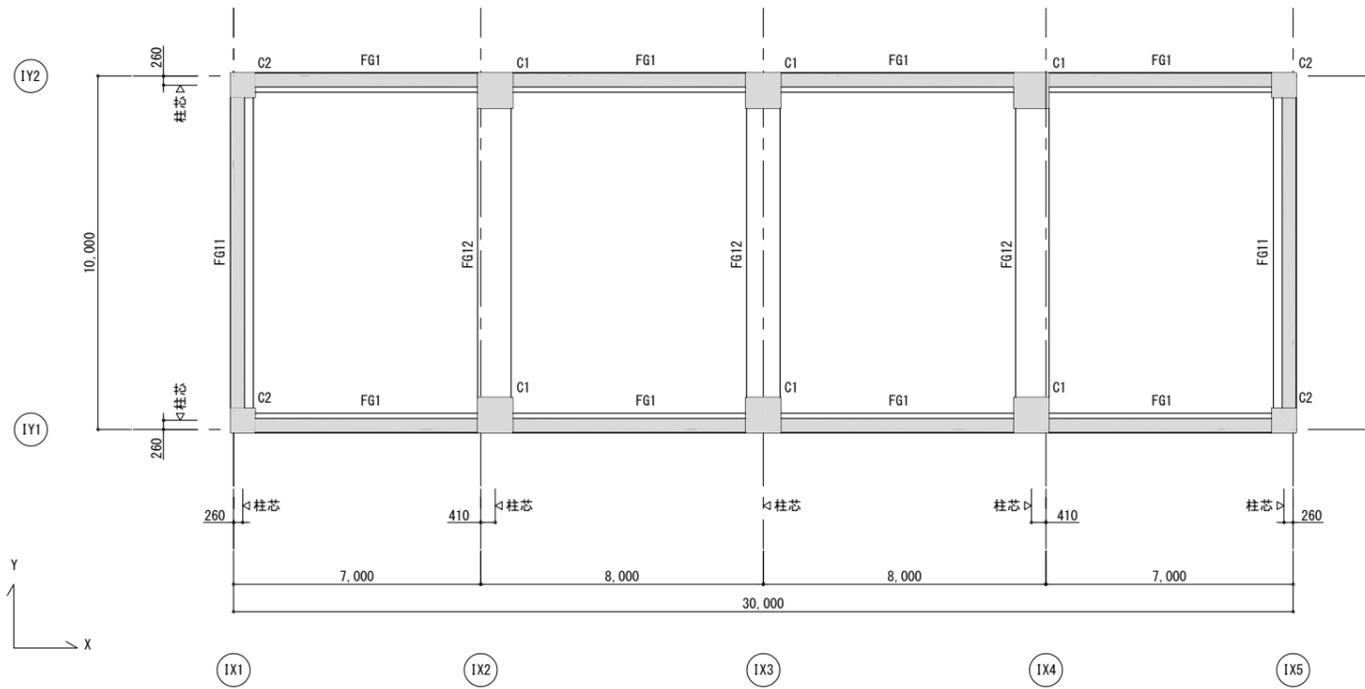
ろ過機械室のGLレベル  
3FL (+29.20)  
5.000  
2FL (+24.20)  
6.000  
GL (+18.00) 1FL (+18.20)  
200

ボーリング名	2	調査位置	沖縄県名護市大北1丁目15-9	北緯	26°36'04.48"
発注機関	株式会社 内藤建築事務所	調査期間	2023年12月22日～2024年1月9日	東経	127°59'15.62"
調査業者名	株式会社 東京ソノリサーチ 沖縄事務所 電話(098-876-0293)	主任技師	大野 大樹 資格 第20733号	調査者	大野 大樹 資格 第20733号
孔口標高	+28.90m	試験機	古田 YSO-1HA	ボーリング管	鋼管 第13814号
総孔長	55.00m	エンジン	ヤンマー NFD-13	ポンプ	純立 HP503

標高 尺	深 度 尺	現場 土質 記号	地質 層名	色 相	地質 時代	記 述	標準貫入試験		試験採取 深 度 尺	空位 内 置 試験	閉 孔 日
							N値	深 度 尺			
18.20	0.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	18.20		
17.20	1.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	17.20		
16.20	2.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	16.20		
15.20	3.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	15.20		
14.20	4.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	14.20		
13.20	5.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	13.20		
12.20	6.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	12.20		
11.20	7.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	11.20		
10.20	8.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	10.20		
9.20	9.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	9.20		
8.20	10.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	8.20		
7.20	11.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	7.20		
6.20	12.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	6.20		
5.20	13.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	5.20		
4.20	14.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	4.20		
3.20	15.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	3.20		
2.20	16.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	2.20		
1.20	17.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	1.20		
0.20	18.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	0.20		
-0.80	19.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-0.80		
-1.80	20.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-1.80		
-2.80	21.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-2.80		
-3.80	22.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-3.80		
-4.80	23.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-4.80		
-5.80	24.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-5.80		
-6.80	25.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-6.80		
-7.80	26.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-7.80		
-8.80	27.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-8.80		
-9.80	28.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-9.80		
-10.80	29.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-10.80		
-11.80	30.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-11.80		
-12.80	31.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-12.80		
-13.80	32.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-13.80		
-14.80	33.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-14.80		
-15.80	34.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-15.80		
-16.80	35.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-16.80		
-17.80	36.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-17.80		
-18.80	37.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-18.80		
-19.80	38.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-19.80		
-20.80	39.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-20.80		
-21.80	40.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-21.80		
-22.80	41.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-22.80		
-23.80	42.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-23.80		
-24.80	43.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-24.80		
-25.80	44.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-25.80		
-26.80	45.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-26.80		
-27.80	46.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-27.80		
-28.80	47.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-28.80		
-29.80	48.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-29.80		
-30.80	49.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-30.80		
-31.80	50.00	シルト質粘土	軟弱	黄褐色	中	シルト質粘土	10	2.5	-31.80		

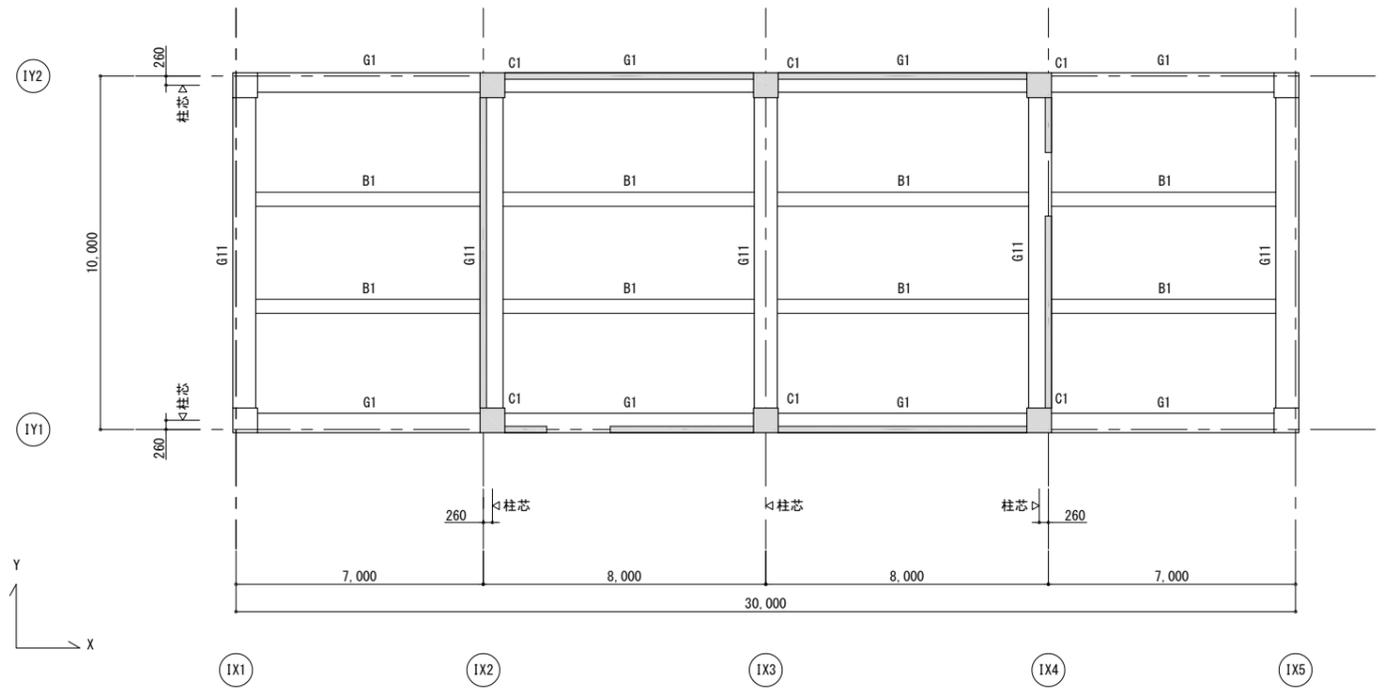
KBM 4級基準点 (417)  
(H=+20.898m)  
(巻末の現場写真記録参照)

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)		図面名称	ボーリング柱状図 (ろ過機械室)		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9		縮尺	[A1] 1/150 [A3] 1/300	図面番号	S - 719
発注機関	沖縄県北部医療組合		設 計	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和7年度			代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号
摘 要	管理建築士 設 計 製 図		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
			一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
			二級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
検 印			一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号



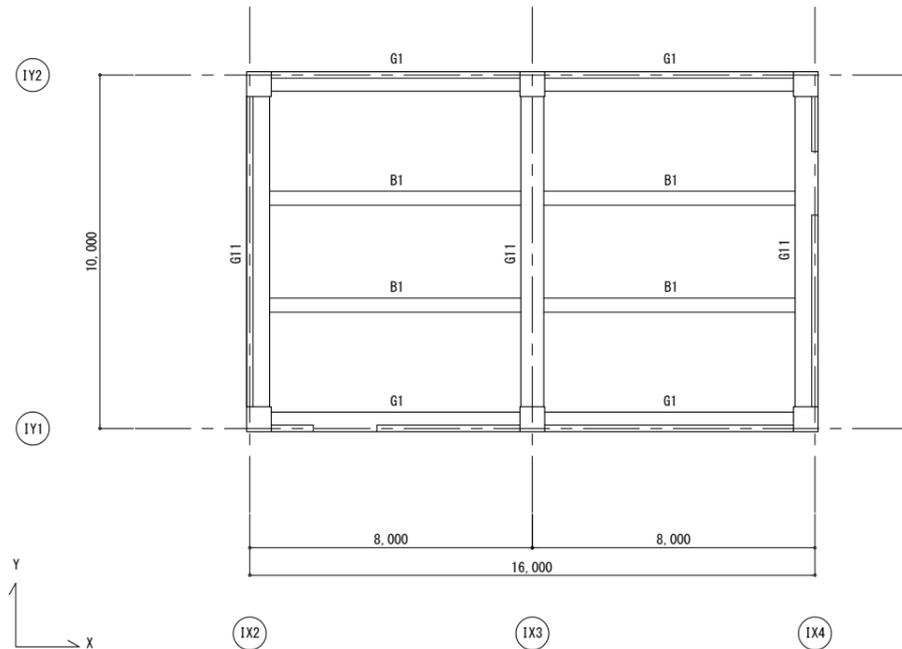
B1階柱梁・B1階梁床伏図 1/100

- 特記なき限り下記による
1. 1FL=GL+200
  2. 一般スラブ FS1  
一般スラブ天端 1FL-4,200
  3. 一般壁 FW40
  4. 基礎梁天端 1FL-4,200  
( )内数値は、1FLからの梁天端レベルを示す。
  5. 必要地耐力(長期) : 100kN/m<sup>2</sup>  
平板載荷試験を行い上記必要地耐力を確認すること。  
必要地耐力を確認できない場合は、地盤改良を行い必要地耐力を確保すること。



1階柱梁・1階梁床伏図 1/100

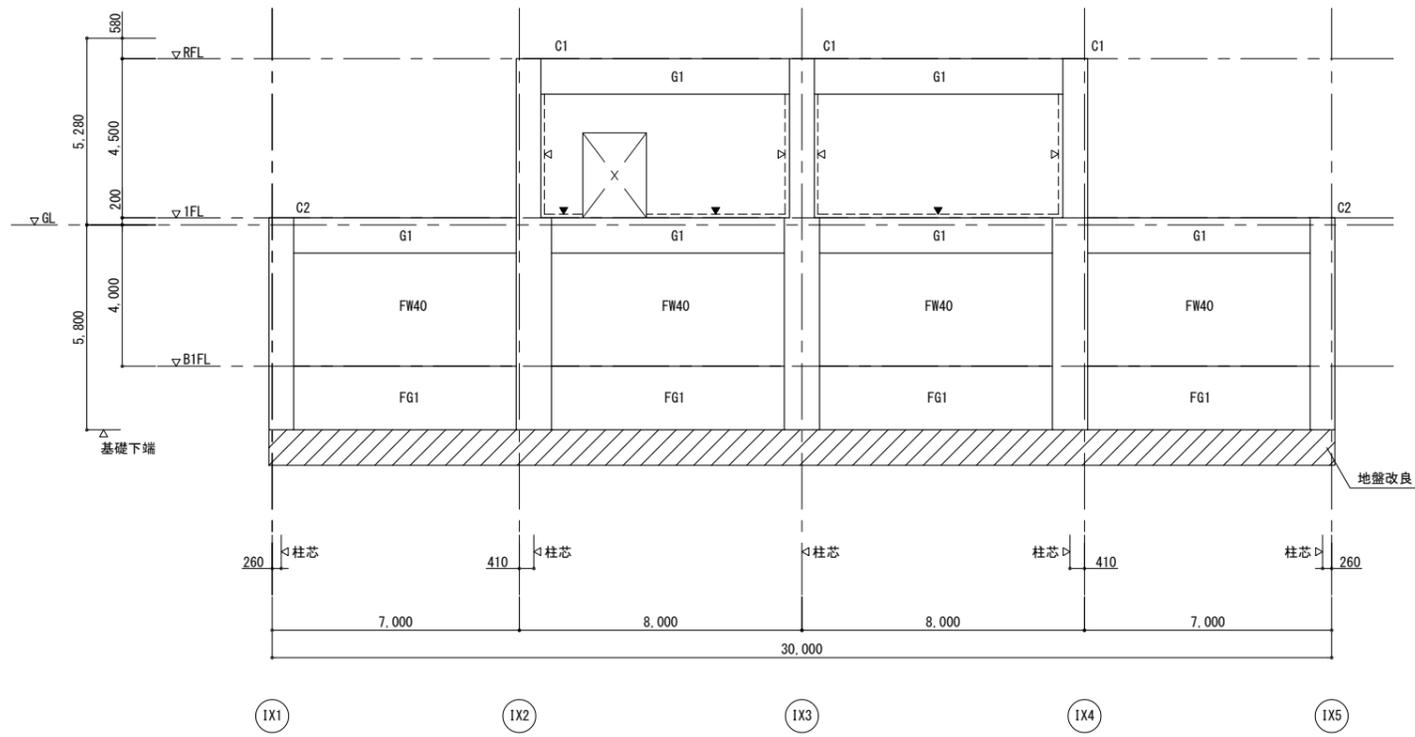
- 特記なき限り下記による
1. 一般スラブ S1
  2. 一般スラブ天端 1FL±0
  3. 一般壁 W18
  4. 梁天端 1FL±0  
( )内数値は、1FLからの梁天端レベルを示す。
  5. フレーム内のスリットは軸組図による。



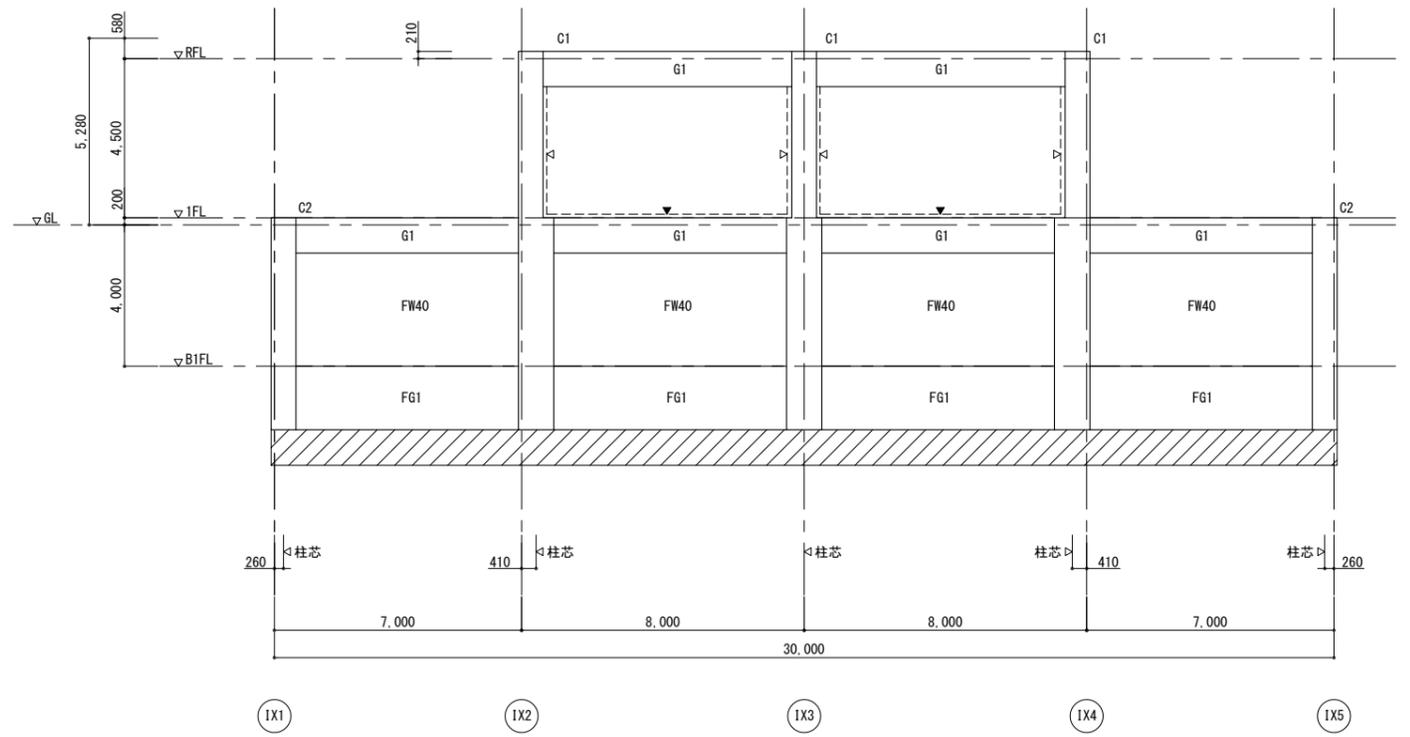
R階梁床伏図 1/100

- 特記なき限り下記による
1. 一般スラブ S1
  2. 梁天端 屋根勾配による  
( )内数値は、RFLからの梁天端レベルを示す。
  3. 一般スラブ天端 屋根勾配による
  4. ←→ は、スラブ勾配を示す。  
< >内数値は、RFLからのスラブ天端レベルを示す。

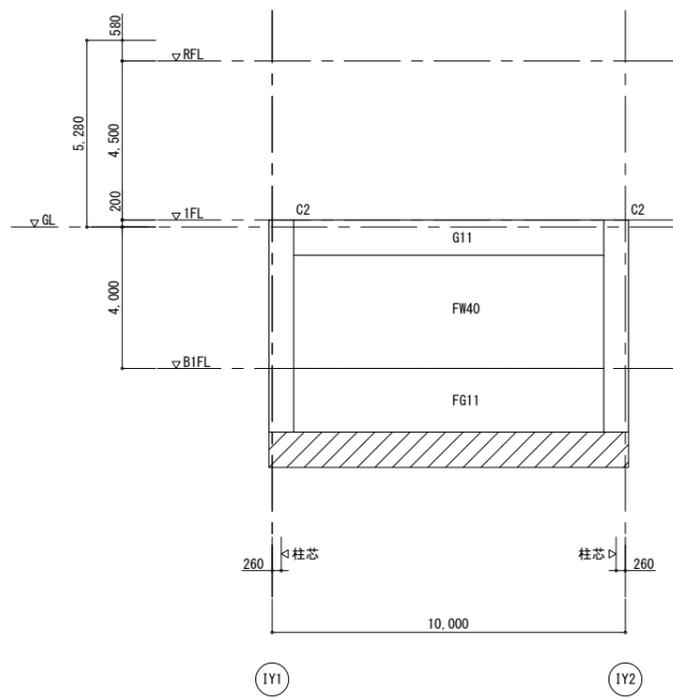
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)			図面名称	1階柱梁床伏図、R階梁床伏図(ろ過機械室)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	【A1】1/100 【A3】1/200	図面番号	S - 720	
発注機関	沖縄県北部医療組合			設計者	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第1-12326号
摘要				検印	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
管理建築士	設計	製	図		一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
					一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第33522号 第9280号
					一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号



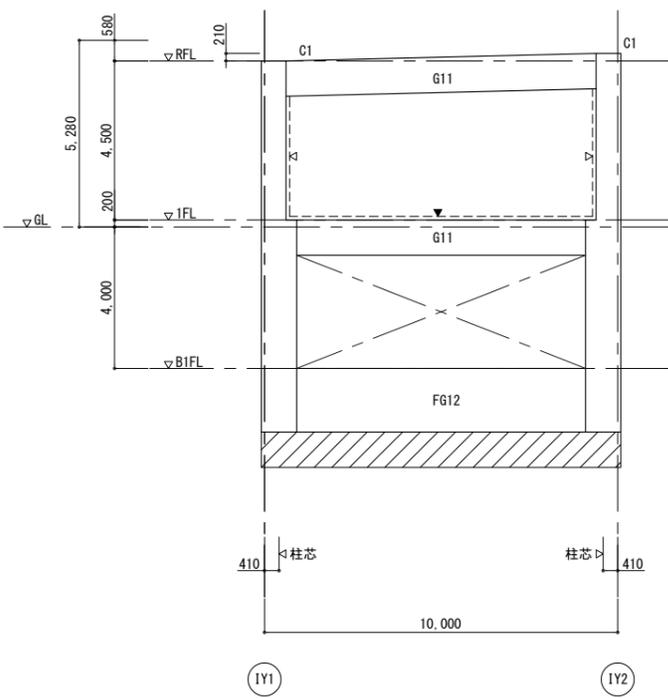
IX1通軸組図 1/100



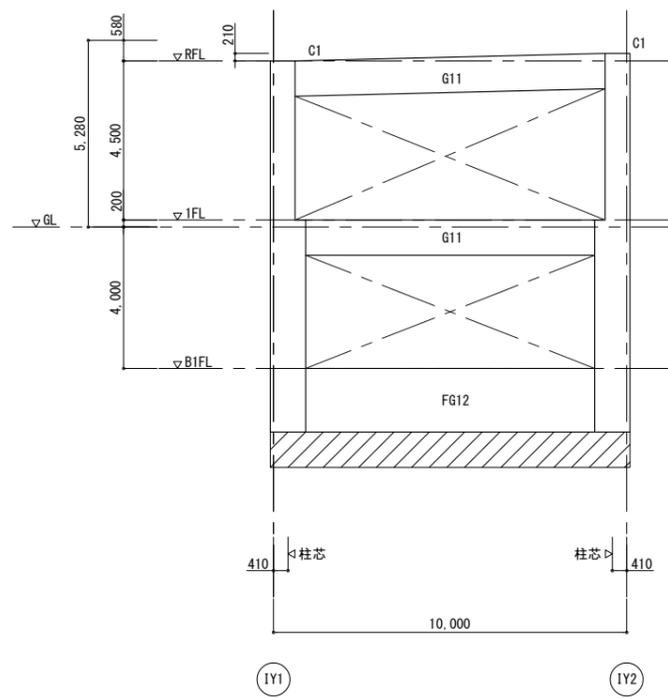
IX2通軸組図 1/100



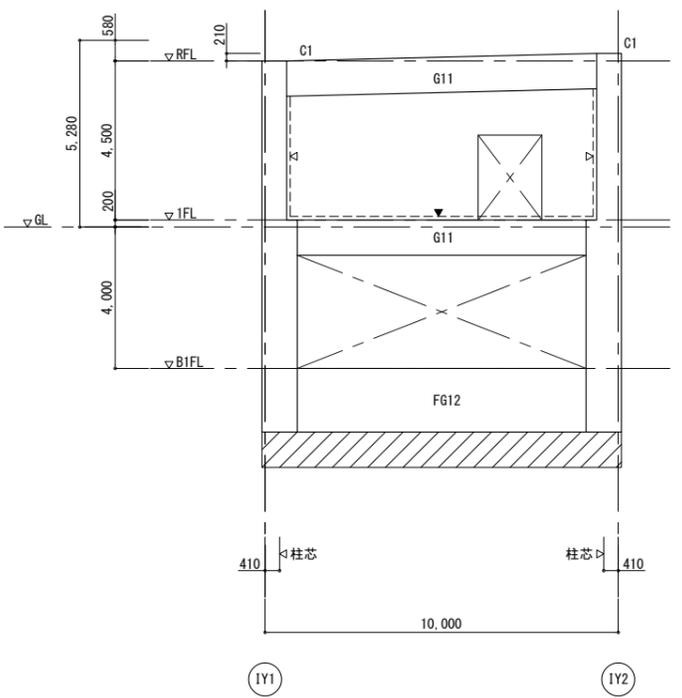
IX1, IX5通軸組図 1/100



IX2通軸組図 1/100



IX3通軸組図 1/100



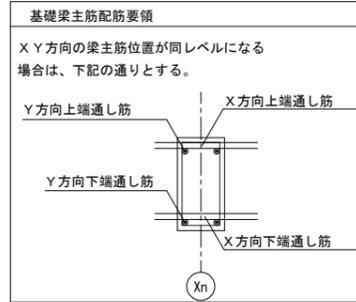
IX4通軸組図 1/100

- 特記なき限り下記による
1. 一般壁 W18
  2. 地中梁天端 1FL-4,000
  3. 鉛直スリットを示す。
  - ▼ 水平スリットを示す。
  - 増打コンクリートを示す。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	軸組図(ろ過機械室)
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/100 【A3】1/200
発注機関	沖縄県北部医療組合	図面番号	S - 721
工事年度	令和7年度	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体
摘要	管理建築士 設計 製図	代表企業	株式会社内藤建築事務所
		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検印		一級建築士	山田 剛
		一級建築士	末吉 謙太郎
		一級建築士	丸山 茂義

基礎梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

符号	FG1	FG11	FG12
位置	全断面	全断面	全断面
断面			
B×D	550×1,800	650×1,800	950×1,800
上端筋	5-D25	11-D25	19-D29
下端筋	5-D25	11-D25	15-D29
あばら筋	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@150
腹筋	10-D13	10-D13	10-D13

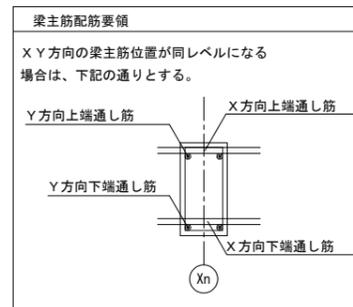


柱リスト 1/50

階	符号	C1	C2
1階	断面		/
	Dx×Dy	700×700	
	主筋	8-D25	
	アープ	□-D13@100	
B1階	断面		
	Dx×Dy	1,000×1,000	700×700
	主筋	28-D25	12-D25
	アープ	□-D13@100	□-D13@100

大梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

階	符号	G1	G11
R階	位置	全断面	全断面
	断面		
	B×D	550×1,000	550×1,000
	上端筋	5-D25	5-D25
	下端筋	5-D25	8-D25
	スタップ	□-D13@200	□-D13@200
1階	位置	全断面	全断面
	断面		
	B×D	550×1,000	650×1,000
	上端筋	5-D25	9-D25
	下端筋	5-D25	6-D25
	スタップ	□-D13@200	□-D13@150
腹筋	4-D10	4-D10	



壁リスト 1/50 巾止め筋 D10@1000

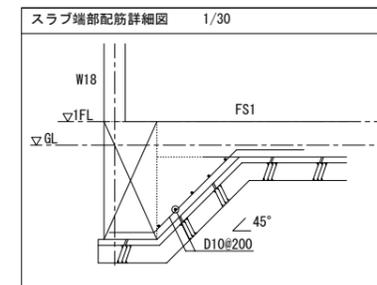
符号	W18	FW40	開口補強筋要領
断面			
厚さ	180	400	
縦筋	D10@200 ダブル	D19@200 ダブル	
横筋	D10@200 ダブル	D19@200 ダブル	
開口補強筋	縦筋	2-D13	-
	横筋	2-D13	-
	斜筋	1-D13	-

小梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

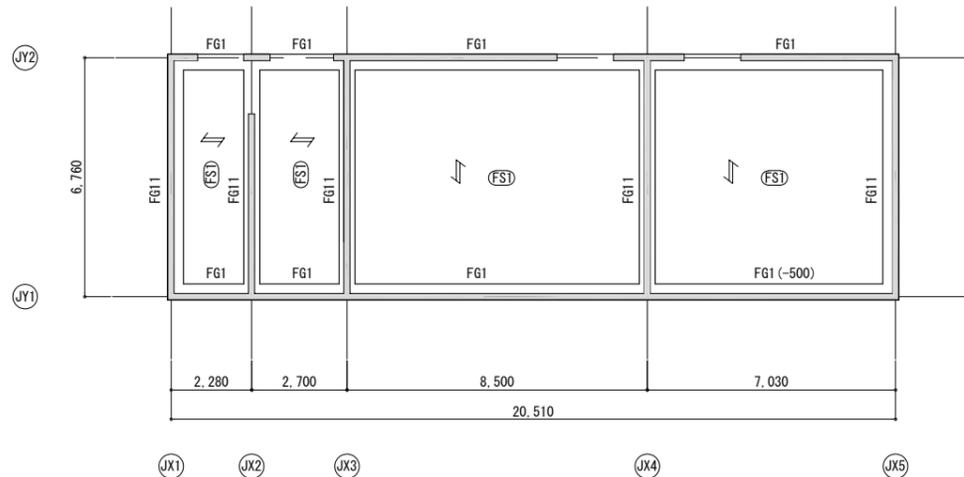
符号	B1
位置	全断面
断面	
B×D	400×700
上端筋	6-D22
下端筋	4-D22
スタップ	□-D13@200
腹筋	2-D10

床版リスト

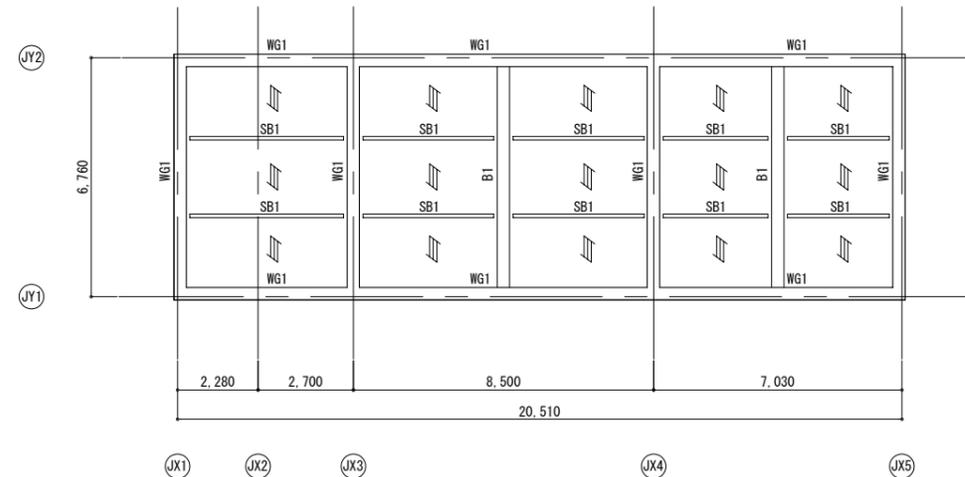
名称	厚さ	位置	短辺(主筋方向)		長辺(配力筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S1	150	上端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
FS1	500	上端筋	D19@150	同左	D19@150	同左	
		下端筋	D19@150	同左	D19@150	同左	



工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	部材リスト(ろ過機械室)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】1/50 【A3】1/100	図面番号	S-722	
発注機関	沖縄県北部医療組合	設 計 者	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号
摘 要	管理建築士 設 計 製 図		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
			一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
		一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号	
検 印		一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	



基礎伏図 1/100



屋根伏図 1/100

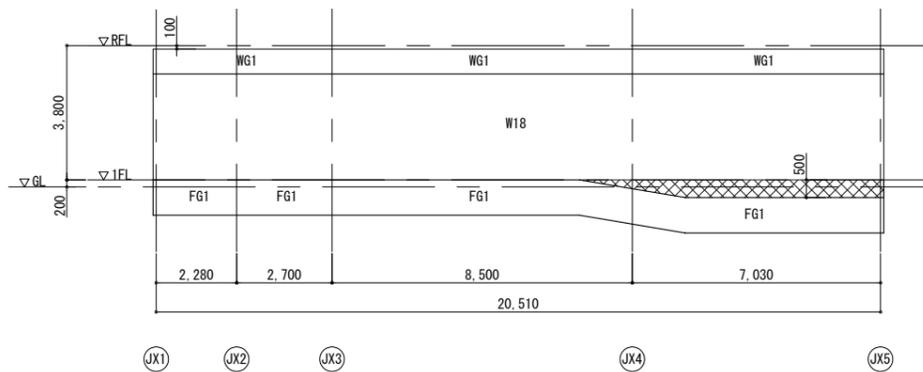
使用材料

コンクリート	Fc24N/mm <sup>2</sup> S=15
鉄筋	SD295 D10~D16
	SD345 D19~D25
必要地耐力	50kN/m <sup>2</sup>

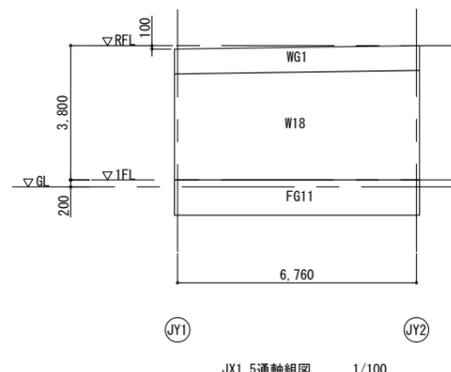
基礎下端については平板載荷試験を行い、必要地耐力を確保できない場合は地盤改良を行う事。

- 特記なき限り下記による
- 1FL=GL+200
  - 一般壁 W18
  - 一般スラブ天端 1FL±0
  - 基礎梁天端 1FL±0
- ( )内数値は1FLからの梁天端を示す。  
 ↖ スラブの主筋方向を示す

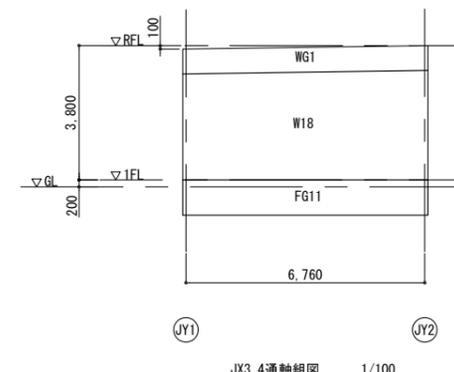
- 特記なき限り下記による
1. 梁天端は屋根勾配による
  2. ≡ 折板屋根の敷方向を示す



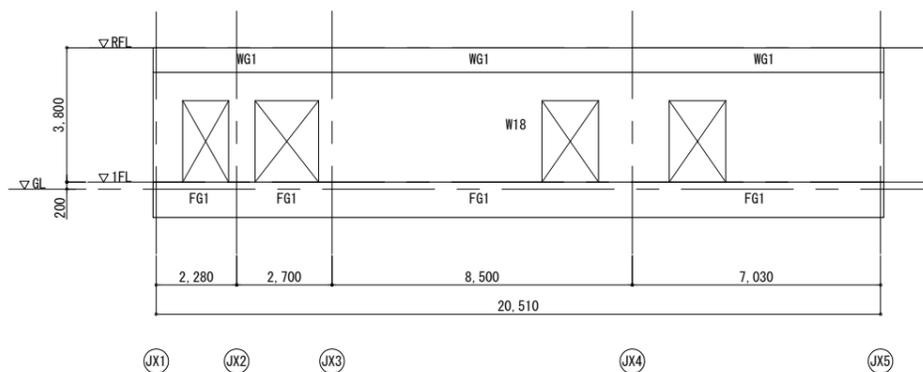
JY1通軸組図 1/100



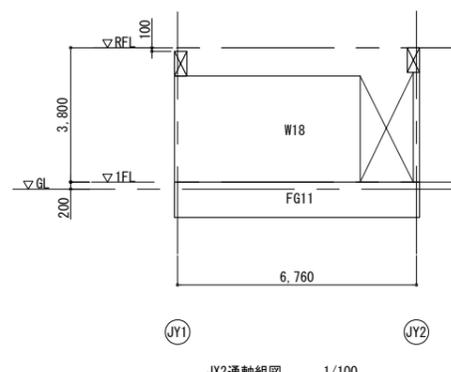
JX1, 5通軸組図 1/100



JX3, 4通軸組図 1/100



JY2通軸組図 1/100



JX2通軸組図 1/100

- 特記なき限り下記による
1. 一般壁 W18
  2. 地中梁天端 1FL±0
  3. ≡ 増打ちコンクリートを示す

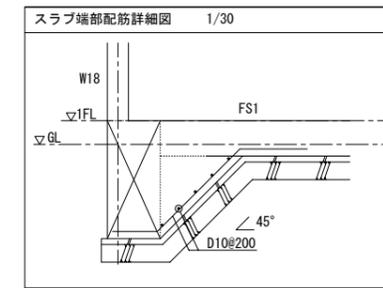
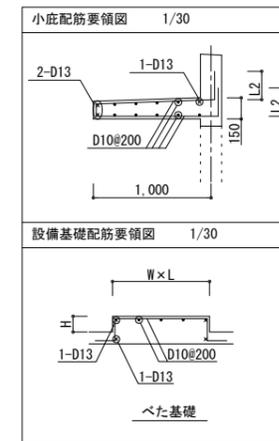
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	伏図・軸組図 (医ガス機械室)
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】 1/100 【A3】 1/200
発注機関	沖縄県北部医療組合	図面番号	S - 731
工事年度	令和 7 年度	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体
摘要	管理建築士 設計 製図	代表企業	株式会社内藤建築事務所 登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検印		一級建築士	山田 剛 登録番号 登録第310062号
		一級建築士	末吉 謙太郎 登録番号 登録第335522号 登録第9280号
		一級建築士	丸山 茂義 登録番号 登録第173320号 登録第1058号

梁リスト 1/50 特記なき限り下記による  
・巾止め筋はD10@1000とする。

符号	FG1	FG11	WG1	B1	
	全断面	全断面	全断面	端部	中央
断面					
B×D	450×1,000	450×1,000	350×700	350×700	
上端筋	4-D22	4-D22	3-D19	3-D19	3-D19
下端筋	4-D22	4-D22	3-D19	3-D19	5-D19
スターアップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	
腹筋	4-D13	4-D13	2-D10	2-D10	

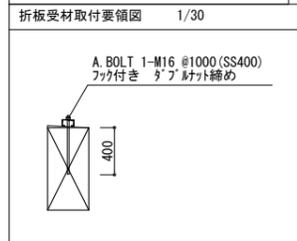
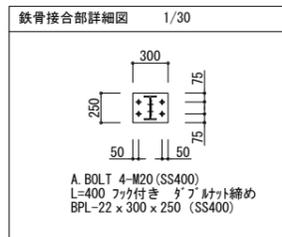
壁リスト 1/50 巾止め筋 D10@1000

符号	W18	開口補強筋要領	壁配筋要領図 1/50
断面			<p>a) L型交差部の縦・横筋の配置</p> <p>L型隅角部補助筋 4-D13以上</p> <p>b) T型交差部の縦・横筋の配置</p> <p>T型交差部補助筋 4-D13以上</p>
厚さ	180		
縦筋	D13@200 ダブル		
横筋	D10@200 ダブル		
開口補強筋	縦筋 2-D13 横筋 2-D16 斜筋 1-D13		



床版リスト

名称	厚さ	位置	短辺(主筋方向)		長辺(配力筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
FS1	300	上端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	土間コン t=50 砕石 t=150
		下端筋	D16@150	同左	D16@150	同左	



鉄骨部材リスト 特記なき限り下記による  
・材質はSS400とする。・高力ボルト S10T・F10T

符号	部材	備考
SB1	H-200x100x5.5x8	PL-6 HTB 2-M16

工事名称	図面名称		部材リスト (医ガス機械室)		
	縮尺	【A1】 1/50 【A3】 1/100	図面番号	S - 732	
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9				
発注機関	沖縄県北部医療組合				
工事年度	令和 7 年度				
摘要	管理建築士	設計	製図		
		製図	設計		
検印	者	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第 1-12326 号
		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
		一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
		一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
	一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	